

ばさて不孝の人と申べき歟。佛を不孝の人と云しは九十五種の外道也。父母の命に背て無爲に入り還て父母を導くは孝の手本なる事佛其證據なるべし。彼淨藏淨眼は父の妙莊嚴王外道の法に著して佛法に背き給しかども。二人の太子は父の命に背て雲雷音王佛の御弟子となり。終に父を導て沙羅樹王佛と申す佛になし申されけるは不孝の人と云べき歟。經文には棄恩入無爲眞實報恩者と説て。今生の恩愛をば皆すて、佛法の實の道に入る是實に恩をしれる人也と見ゆたり。又主君の恩の深き事汝よりも能くしれり汝若知恩の望あらば深く諫め強て奏せよ。非道にも主命に隨はんと云フ事佞臣の至り不忠の極り也。殷紂王は惡王比干は忠臣也。政事理に違しを見て強て諫しかば即比干は胸を割る紂王は比干死して後周の王に打れぬ。今の世までも比干は忠臣といはれ紂王は惡王といはる。夏桀王を諫し龍逢は頭をさられぬされども桀王は惡王龍逢は忠臣と云フ。主君を二度諫るに用ゐずは山林に交れとて教へたれ何ぞ其非を見ながら黙せんと云や。古の賢人世を遁れて山林に交りし先蹤を集めて聊カ汝が愚耳に聞カしめん。殷代の太公望は瞿溪と云フ谷に隠る。周代の伯夷叔齊は首陽山と云フ山に籠る。秦の綺里季は商洛山に入り。

漢の嚴光は孤亭に居し。晋の介子綏は懸上山に隠れぬ。此等をば不忠と云べき歟愚かなり。汝忠を存せば諫むべし孝を思はば言べき也。先ッ汝權教權宗の人は多く此宗の人は少し何ッ捨テ多ッ付ッ少ニと云事。必ず多きが尊くして少きが卑きにあらず。賢善の人は希に愚惡の者は多し。麒麟鸞鳳は禽獸の奇秀也然れども是は甚少し牛羊鳥鶴は畜鳥の拙卑也されども是は轉多し。必ず多きがたつとくして少きがいやしうば麒麟をすて、牛羊をとり鸞鳳を閣て鳥鶴をとるべき歟。摩尼金剛は金石の靈異也此寶は乏く瓦礫土石は徒物の至り是は又巨多也。汝が言の如くならば玉などをば捨て、瓦礫を用ゆべき歟はかなしはかなし。聖君は希にして千年に一たび出テ賢佐は五百年に一たび顯る。摩尼は空く名のみ聞く麟鳳誰か實を見たるや。世間出世善者も乏く惡者も多し事眼前也。然れば何ッ強ちに少きををれるかにして多きを詮とするや。土沙は多けれども米穀は希也木皮は充滿すれども布絹は些少也。汝只正理を以て前とすべし別して人の多きを以て本とすることなかれ。爰に愚人席をさり袂をかいつくるひ(刷)て云ッ誠に聖教の理をさくに人身は難ク得天上の絲筋の海底の針に留けるよりも希に佛法は難ク聞キ一眼の龜の浮木に遇よりも難し。

今既に難^レ得^ル人界に生をうけ難^レ値^ル佛教を見聞しつ。今生をもだし(黙止)ては又何れの世にか生死を離れ菩提を證すべき。夫一劫受生の骨は山よりも高ければも佛法の爲にはいまだ一骨をもすてず。多生恩愛の涙は海よりも深ければも尙後世の爲には一滴をも落さず。拙きが中に拙く愚かなるが中に愚かなり。設^レ命をすて身をやぶるとも生を軽くして佛道に入り父母の菩提を資^クけ愚身が獄縛^トをも免るべし能^ク能^ク教を示し給へ。抑^モ信^ニ法華經^ヲ其行相如何。五種の行の中には先^ッ何れの行をか修すべき丁寧^ニ願^フ聞^ク尊^ク教^ヲ。聖人示^シ云^ク汝交^ニ蘭室^ノ友^ニ成^ル麻^ノ友^ニ性^ト誠^ニ禿^ノ樹^非禿^ニ遇^テ春^ニ榮^ハ華^ニ枯^ニ草^非枯^ニ入^レ夏^ニ鮮^カに注^ルふ。若^シ先^ニ非^ヲ悔^テ正理に入らば涅槃の潭に游泳して無爲の宮に優遊せん事疑なかるべし。抑^モ佛法を弘通し群生を利益せんには先^ッ教機時國教法流布の前後を辨ふべきものなり。所以は時に正像末あり法に大小乘あり修行に攝折あり。攝受の時折伏を行ずるも非也折伏の時攝受を行ずるも失也。然るに今世は攝受の時歟折伏の時歟先^ッ是を知べし。攝受の行は此國に法華一純に弘^リりて邪法邪師一人もなしといはん。此時は山林に交^テ觀法を修し五種六種乃至十種等を行すべき也。折伏の時はかくの如くならず。經教のれ

きて蘭菊に諸宗のれぎろ(願口)譽れを擅^ニし邪正肩を並へ大小先を争はん時は。萬事を閣て謗法を責べし是折伏の修行也。此旨を知ずして攝折途に違はば得道は思もよらず惡道に墮^ッべしと云事。法華涅槃に定^キ置^キ天台妙樂の解釋にも分明也。是佛法修行の大事なるべし。譬^バ文武兩道を以て天下を治るに武を先^キとすべき時もあり文を旨とすべき時もあり。天下無爲にして國土靜かならん時は文を先^キとすべき也。東夷南蠻西戎北狄蠶起^シして野心をさしはさまくには武を先^キとすべき也。文武のよき事計^リを心^ニて時をもしらず。萬邦安堵の思をなして世間無爲ならん時甲冑をよろひ兵杖をもたん事も非也。又王敵起らん時戰場にして武具をば閣て筆硯を提^ルん事も亦時に相應せず。攝受折伏の法門も亦如是。正法のみ弘^マて邪法邪師無らん時は深谷にも入り閑靜にも居して讀誦書寫をもし觀念工夫をも疑すべし。是天下の靜なる時筆硯を用るが如し。權宗謗法國にあらん時は諸事を閣て謗法を責べし。是合戰の場に兵杖を用ゆるが如し。然れば章安大師涅槃疏に釋して云^ク昔^ハ時平^ニ而法弘^ニ應^ニ持^レ戒^ヲ勿^レ持^レ杖^ヲ今^ハ時^ハ嶮^ニ而法翳^ニ應^ニ持^レ杖^ヲ勿^レ持^レ戒^ヲ今昔俱^ニ嶮^ニ應^ニ持^レ杖^ヲ今昔俱^ニ平^ニ應^ニ持^レ戒^ヲ取捨得^レ宜^ニ不可^ニ一向^ニ此釋の意分明也。昔は世

もすなをに人もただしくして邪法邪義無りき。されば威儀をただし穩便に行業を積て杖をもて人を責む邪法をとがむる事無りき。今の世は濁世也人の情もひがみゆがんで權教謗法のみ多ければ正法弘りがたし。此時は讀誦書寫の修行も觀念工夫修練も無用也。只折伏を行じて力あらば威勢を以て謗法をくだき又法門を以ても邪義を責よと也。取捨得_テ其旨_ヲ一向に執する事なかれと書り。今の世を見るに正法一純に弘まる國歟邪法の興盛する國歟勘ふべし。然るを淨土宗の法然は念佛に對して法華經を捨閉闍拋とよみ。善導は法華經を雜行と名け剩へ千中無一とて千人信ずとも一人得道の者あるべからずと書り。眞言宗の弘法は法華經を華嚴にも劣り大日經には三重の劣と書き戲論の法と定めたり。正覺房は法華經は大日經のはきもの(應)とりにも及ばずと云ひ釋尊をば大日如來の牛飼にもたらずと判せり。禪宗は法華經を吐たるつばき(唾)月をさす指教綱なんど下す。小乘律等は法華經は邪教天魔の所説と名けたり。此等豈謗法にあらずや責ても猶あまりあり禁めても亦たらず。愚人云く日本六十餘州人替り法異といへども或念佛者或眞言師或禪或律誠に一人として謗法ならざる人はなし。雖然人の上沙汰してなにかせん只我心中に深く

信受して人の誤りをば餘所の事にせんと思ふ。聖人示云く汝所言實にしかなり。我も其義を存せし處に經文には或は不惜身命とも或は寧喪身命とも説く。何故にかやうには説るゝやと存するに。只人をはばからず經文のまゝに法理を弘通せば謗法の者多からん世には必ず三類の敵人有て命にも及ぶべしと見わたる。其佛法の違目を見ながら我もせめず國主にも訴へずは教へに背て佛弟子にはあらずと説れたり。涅槃經第三ニ云く若善比丘見壞法者置_テ不_レ呵責_シ驅遣_シ舉處_ニ當_ニ知_ル是人_ハ佛法_ノ中_ニ怨_ム若能_テ驅遣_シ呵責_シ舉處_ニ是我_ノ弟子_ノ眞_ノ聲聞_也。此文の意は佛の正法を弘めん者經教の義を惡く説んを聞見ながら我もせめず。我身及ばずは國主に申上ても是を對治せずは佛法の中の敵也。若經文の如くに人をもはばからず我もせめ國主にも申さん人は佛弟子にして眞の僧也と説れて候。されば佛法中怨の責を免んとてかやうに諸人に惡まるれども。命を釋尊_ト法華經に奉り慈悲を一切衆生に與へて謗法を責るを心ぬ人は口をすくめ眼を瞋らす。汝實に後世を恐れば身を輕しめ法を重_ンせよ。是を以て章安大師云く寧喪_ニ身命_ヲ不_レ匿_レ教者身_ハ輕_ク法_ハ重_シ死_シ身_ヲ弘_ム法_ヲ。此文の意は身命をばほるばすとも正法をかくさざれ其故は身はかるく

法はねもし身をばころすとも法をば弘めよと也。悲哉生者必滅の習なれば設
ひ長壽を得たりとも終には無常をのがるべからず。今世は百年の内外の程を
思へば夢の中の夢也。非想の八萬歳未だ免レ無常一切利の一千年も猶退没の風に
破らる。況や人間閻浮の習は露よりもあやうく芭蕉よりももろく泡沫よりも
あだ也。水中に宿る月のあるかなさかの如く草葉にをく露のをくれさきだつ
身也。若此道理を得ば後世を一大事とせよ。歡喜佛の末の世の覺徳比丘正法を
弘めしに無量の破戒此行者を怨て責しかば。有徳國王正法を守る故に謗法
を責て終に命終して阿閼佛の國に生れて彼佛の第一の弟子となる。大乘を
重して五百人の婆羅門の謗法を誡めし仙豫國王は不退の位に登る。憑哉正
法の僧を重して邪惡の侶を誡める人かくの如くの徳あり。されば今の世に攝
受を行せん人は誘人と俱に惡道に墮ん事無レ疑ヒ。南岳大師の四安樂行ニ云、若
有菩薩將護惡人不能治罰乃至其人命終與諸惡人俱墮地獄。此文
の意は若佛法を行する人有て謗法の惡人を治罰せずして觀念思惟を專らにし
て邪正權實をも簡ばず。詐て慈悲の姿を現せん人は諸の惡人と俱に惡道に墮
べしと云フ文也。今眞言念佛禪律の誘人をたださすいつは(詐)て慈悲を現する

人此文の如くなるべし。爰に愚人竊レ意ヲ顯レ言ニ云、誠ニ諫レ君ヲ正レ家ヲ事先賢の
教へ本文に明白也外典如此内典是に違フべからず。惡を見ていましめず謗を
知てせめずば背ニ經文ニ違ニ祖師ニ其禁殊に重し。今より信心を至すべし。但し
此經を修行し奉らん事叶がたし若其最要あらば證據を聞んと思ふ。聖人示
云、今見ニ汝道意ニ鄭重懇懃也。所謂諸佛の誠諦得道の最要は只是妙法蓮華經
の五字也。檀王之退ニ寶位ヲ龍女が改ニ蛇身ヲ只此五字の所ニ致ス也。夫以今の經
は受持の多少をば一偈一句と宣べ修行の時刻をば一念隨喜と定めたり。凡ッ八
萬法藏の廣きも一部八卷の多きも只是五字を説いたため也。靈山の雲の上鷲峯
の霞の中に釋尊結レ要ヲ地涌付屬を得ることありしも法體は何事ぞ只在ニ此要
法ニ。天台妙樂ノ連ニ六千張ノ疏玉ヲ一道遂行滿ノ竝ニ數軸ノ釋金ヲ併此義趣を出す。
誠ニ恐ニ生死ヲ欣ニ涅槃ヲ連ニ信心ヲ至ニ渴仰ヲ遷滅無常ハ昨日の夢菩提の覺悟は今日
のうつゝなるべし。只南無妙法蓮華經とだにも唱へ奉らば滅せぬ罪や有べき
來らぬ福や有べき。眞實也甚深也是を信受すべし。愚人合レ掌ヲ折レ膝ヲ云、
貴命染レ肝ニ教訓動レ意、雖然上能兼下の理なれば廣きは狹きを括り多は少を
兼ぬ。然處に五字は少く文言は多し首題は狭く八軸は廣し如何テ功德齊等

ならんや。聖人云ク汝愚カ也捨少取多の執須彌よりも高く輕狹重廣の情溟海よりも深し。今の文の初後は必ず多キか尊く少キが卑しきにあらざる事前に示すが如し。爰に又小が大を兼テ一が多に勝ると云事談レ之ヲ。彼尼物類樹の實は芥子三分が一のせい(長也)されども五百輛の車を懸す徳あり是小が大を含めるにわらずや。又如意寶珠は一ッあれども萬寶を雨して缺處無レ之是又少が多を兼たるにわらずや。世間のことわざにも一は萬が母といへり此等の道理を知らずや。所詮實相の理の背契を論せよ強テに多少を執する事なけれ。汝至テ愚カ也今一譬を假ん。夫妙法蓮華經者一切衆生ノ佛性也佛性者法性也法性者菩提也。所謂釋迦多寶十方諸佛上行無邊行等普賢文殊舍利弗目連等。大梵天王釋提桓因日月明星北斗七星二十八宿無量諸星天衆地類龍神八部人天大會閻魔法王上非想雲上下那落炎底所有一切衆生所以備佛性を妙法蓮華經とは名くる也。されば一遍此首題を唱へ奉れば一切衆生の佛性が皆よばれて爰に集る時。我身の法性の法報應の三身ともにひかれて顯れ出る是を成佛とは申す也。例せば籠の内にある鳥の鳴ク時空を飛テ衆鳥同時に集る是を見て籠の内の鳥も出んとするが如し。爰に愚人云ク首題の功德妙法の義趣今所

聞ク詳カ也但し此旨趣正ク經文に是をのせたりや如何。聖人云ク其理詳カならん上は文を尋るに及ばざる歟。然ども隨テ請ニ示レ之テ法華經第八陀羅尼品ニ云ク汝等但能ク擁下護受持法華名者上福不可量也。此文の意は佛鬼子母神十羅刹女の法華經の行者を守んと誓給フを讚るとして。汝等法華の首題を持つ人を守るべしと誓ふ。其功德は三世了達の佛の智慧も尙及がたとしと説れたり。佛智の及ばぬ事何かあるべき。なれども法華の題名受持の功德ばかりは是を知らずと宣たり。法華一部の功德は只妙法等の五字の内に籠れり。一部八卷文文ごとに二十八品生起かはれども首題の五字は同等也。譬ば日本の二字の中に六十餘州島二ッ入らぬ國やあるべき籠らぬ郡やあるべき。飛鳥とよべば空をかける者と知り走獸といへば地をはしる者と心うる。一切名の大切なる事蓋シ以テ如是。天台は名詮自性句詮差別とも名者大綱とも判する此謂也。又名は物をめす徳あり物は名に應ずる用あり法華題名の功德も亦以テ如此。愚人云ク如シ聖人言フ實に首題の功莫大也但知不知不同あり。我は弓箭に携り兵杖をひねとして未知知佛法眞味若然所得功德何ぞ其深からんや。聖人云ク圓頓の教理は初後全く不二にして初位に後位の徳あり一行一切行にし

て功德不備無之。若如汝言、功德を知て植ずんば上は等覺より下は名字に至るまで得益更にあるべからず。今の經は唯佛與佛と談ずるが故也。譬諭品ニ云、汝舍利弗尚於此經以信得入況餘聲聞。文の心は大智舍利弗も法華經には信を以て入る其智分の力にはあらず況や自餘の聲聞をやと也。されば法華經に來て信せしかば永不成佛の名を削て華光如來となり。嬰兒に乳をふくむるに其味をしらずといへども自然に其身を生長す。醫師が病者に藥を與ふるに病者藥の根源をしらずといへども服すれば任運と病愈ゆ。若藥の源をしらずと云て醫者の與ふる藥を服せずば其病愈べしや。藥を知るも知ざるも服すれば病の愈る事以て是同じ。既に佛を良醫と號し法を良藥に譬へ衆生を病人に譬ふ。されば如來一代の教法を擣從和合して妙法一粒の良藥に丸せり。豈知るも知ざるも服せん者煩惱の病愈ざるべしや。病者は藥をもしらず病をも辨へずといへども服すれば必愈ゆ。行者も亦然也法理をもしらず煩惱をもしらずといへども。只信すれば見思塵沙無明の三惑の病を同時に斷じて。實報寂光の臺にのぼり本有三身の膚を磨ん事疑あるべからず。されば傳教大師云、能化所化俱無歷劫一妙法經、力即身成佛と。法華經の法理

を教へん師匠も又習はん弟子も久しからずして法華經の力をもて俱に佛になるべしと云、文也。天台大師も法華經に付て玄義文句止觀ノ三十卷の釋を造り給。妙樂大師は又釋籤疏記輔行ノ三十卷の末文を重て消釋す。天台六十卷とは是也。玄義には名體宗用教の五重玄を建立して妙法蓮華經の五字の功能を判釋す。五重玄を釋する中の宗の釋ニ云、如下提綱維無目而不動、牽衣一角、無中縷而不來。意は此妙法蓮華經を信仰し奉る一行に功德として來らざる事なく善根として動かざる事なし。譬は網の目無量なれども一ツの大綱を引、に不動、目もなく衣の絲筋巨多なれども取一角、絲筋として來らざるることなきが如しと云義也。さて文句には如是我聞より作禮而去まで文文句句に因緣約教本迹觀心の四種の釋を設けたり。次に止觀には妙解の上に所立、觀不思議境の一念三千是本覺の立行本具の理心也。今爰に委くせず。悅哉生を五濁惡世に受といへども一乘の眞文を見聞する事を得たり。熙連恆沙の善根を致せる者此經にあひ奉て信を取と見たり。汝今致一念墮喜、信函蓋相應感應道交無疑。愚人低頭、舉手云、我今よりは一實の經王を受持し三界の獨尊を本師として自今身一至佛身、此信心敢無退轉。設ひ五逆の雲厚

くとも乞ふ提婆達多が成佛を續まき。十惡の波あらくとも願くは王子覆講の結縁に同しからん。聖人云、人の心は水の器にしたがふが如く物の性は月の波に動くに似たり。故に汝當座は信ずといふとも後日は必ず翻へさん。魔來鬼來るとも騒亂する事なかれ。夫天魔は佛法をにくむ外道は内道をきらふ。されば猪の金山を摺衆流の海に入り薪の火を盛まになし風の求羅をますすが如くせば豈好す事にあらずや。

高祖遺文錄卷之十

○法華題目鈔

南無妙法蓮華經

根本大師門人 日蓮 撰

問テ云、法華經の意ともしらす。義理をもあぢはしずして。只南無妙法蓮華經と計リ五字七字に限て一日に一遍一月乃至一年十年一期生の間に只一遍なんぞ唱ても。輕重の惡に引れずして四惡趣にたもむかずついに不退の位にいたるべしや。答テ云、しかるべき也。問テ云、火火といへども手にとらざればやけず水水といへども口にのまざれば水のほしさもやまず。只南無妙法蓮華經と題目計リを唱フとも義趣をさとらずば惡趣をまぬかれん事いかがあるべからん。答テ云、師子の筋を琴の絃いととして一度奏すれば餘の絃悉くされ梅子のすす(酢)と聲をきけば口に唾つたまりうるをう。世間の不思議如し是、況ヤ法華經の不思議をや。小乗の四諦の名計リをさやづる鸚鵡なを天に生ず三歸計リを持た人大魚の難をまぬかる。何ニ況ヤ法華經の題目は八萬聖教の肝心一切諸佛の眼目也。汝等これを唱て惡趣をはなるべからずと疑フか。正直捨方便の法華經には以テ

信ヲ得^ル入^ル云云。雙林最後の涅槃經には是ノ菩提ノ因ハ雖ニ復無量ニ若説ニ信心ナ^ラ則
已ニ攝盡^ス等云云。夫佛道に入る根本は信をもて本とす。五十二位の中には十信
を本とす十信の位には信心初也。たとひさととりなければも信心あらん者は鈍
根も正見の者也。たとひさととりあれども信心なき者は誹謗闡提の者也。善星比
丘は二百五十戒を持って四禪定を得十二部經を諳にせし者也。提婆達多は六萬
八萬の寶藏ををばへ十八變を現せしかども。此等は有解無信の者也今に阿鼻
大城にありと聞く。又鈍根第一の須梨槃特は智慧もなく悟りもなし只一念の信
ありて普明如來と成給ふ。又迦葉舍利弗等は無解有信の者也佛に授記を蒙て
華光如來光明如來といはれき。佛説テ云。生^ズ疑^ハ不^レ信^セ者ハ即當ニ墮^ス惡道ニ等云
云。此等は有解無信の者を皆惡道に墮すべしと説^キ給^ヒ也。而に今の代の世
間の學者の云^フ只信心計^リにて解心なく南無妙法蓮華經と唱る計^リにて爭か惡
趣をまぬかるべき等云云。此人人は經文の如ならば阿鼻大城をまぬかれがた
し。さればさせる解なくとも南無妙法蓮華經と唱るならば惡道をまぬかるべ
し。譬ば蓮華は日に隨て回る蓮^ハに心なし。芭蕉は雷によりて增長す是^レ草に耳
なし。我等は蓮華と芭蕉との如く法華經の題目は日輪と雷との如し。犀の生角^ハ

を身に帶して水に入ぬれば水五尺身に近づかず。梅檀の一片開^キぬれば四十由
旬の伊蘭變ず。我等が惡業は伊蘭と水との如く法華經の題目は犀の生角と梅
檀の一片との如し。金剛は堅固にして一切の物に破られざれども羊の角と龜
の甲に破らる。尼俱類樹は大鳥にも枝をれざれどもか^ハのまつげ^ハに巢を
くうせうれう^ハ鳥に枝をれぬ。我等が惡業は金剛の如く尼俱類樹の如し法
華經の題目は羊の角の如くせうれう鳥の如し。琥珀は塵をとり磁石は鐵をす
う。我等が惡業は塵と鐵との如く法華經の題目は琥珀と磁石との如し。かく
をもひて常に南無妙法蓮華經と唱べし。法華經の第一卷云^ク無量無數劫聞^ニ
是^レ法^ヲ亦難^シと云云。第五卷云^ク是^レ法^ヲ華經^ハ於^ニ無量ノ國中^ニ乃至名字^ヲ不可^レ得^ル
聞^ク等^ニ云云。法華經の御名を聞く事はをぼろげにも難^シ有事也。されば須^シ多佛^ヲ
多寶佛は世に出させ給たりしかども法華經の御名をだにも説^キ給^ハず。釋迦如
來は法華經のために世に出させ給たりしかども。四十餘年の間は名をも語出
し給はず。佛の御年七十二と申せし時始めて妙法蓮華經と唱出させ給たり。雖^シ
然摩訶戸那日本の邊土の者御名をも聞ざりき。佛滅後一千餘年を過て三百五
十餘年に及でこそ纔に御名計^リをば聞たりしか。さればこの經に値たてまつる

事をば三千年に一度華さく優曇華^{うとんげ}。無量無邊劫に一度値^うなる一眼の龜にもた
といたり。大地の上に針を立て、大梵天王宮より芥子をなぐるに。針のさき
に芥子のつらぬかれたるよりも法華經の題目に値奉る事かたし。此須彌山に
針を立て、彼須彌山より大風のつよくふかんだ日絲をわたさんに。針の穴にい
たりて絲のさきのいりたらんよりも法華經の題目に値奉る事かたし。されば
この經の題目をとなぬさせ給はん人はをばしめすべし。生盲^{いきめくら}の始て眼あきて
父母等をみんよりもうれしく強さかたきにとられ、捕たる者のゆるされて妻
子を見るよりもめづらしとをばすべし。問^テ云、題目計りを唱る證文これあり
や。答^テ云、妙法華經の第八ニ云、受^セ持^セ法華^ノ名^ヲ者福不可^レ量。正法華經ニ云、若
聞^テ此經^ヲ宣^シ持^セ名號^ヲ德不可^レ量。添品法華經ニ云、受^セ持^セ法華^ノ名^ヲ者福不可^レ
量等云云。此等の文は題目計りを唱る福計べからずとみへぬ。一部八卷二十八
品を受持讀誦し隨喜護持するは廣也。方便品壽量品等を受持し等略也。但一四
句偈乃至題目計りをとなうる者を護持するは要也。廣略要の中には要が中の
要也。問^テ云、妙法蓮華經の五字にはいくばくの功德をねさめたるや。答^テ云、大
海は衆流を納め大地は有情非情を持^チ如意寶珠は萬寶を雨^ルし梵王は三界を領

す。妙法蓮華經の五字、亦復如^シ是一切九界の衆生並に佛界を納たり。十界
を納れば亦十界の依報の國土を收む。先^ッ妙法蓮華經の五字に一切の法を納る
事をいはば。經の一字は諸經の中の王也一切の群經を納^ル佛世に出させ給て
五十餘季の間八萬聖教を説^キをかせ給さ。佛は人壽百歳の時壬申の歲二月十
五日の夜半に御入滅あり。其後四月八日より七月十五日に至まで一夏九旬の
間一千人の阿羅漢結集堂にあつまりて。一切經をかきをかせ給さ。其後正法
一千年の間五天竺に一切經ひろまらせ給しかども震旦國には渡らず。像法
に入て一十五年と申せしに後漢の孝明皇帝永平十年丁卯、歲佛經始て渡て。唐
の玄宗皇帝開元十八年庚午、歲に至まで渡れる譯者一百七十六人持來る經律
論一千七十六部五千四百八十帙。是皆法華經の經の一字の眷屬の修
多羅也。先^ッ妙法蓮華經の以前四十餘年之間の經の中に大方廣佛華嚴經と申す
經まします。龍宮城には三本あり上本は十三世界微塵數の品中本は四十九萬
八千八百偈一千二百品下本は十萬偈四十八品。此三本の外に震旦日本には僅
に八十卷六十卷四十卷等あり。阿含小乘經方等般若の諸大乘經等大日經は梵
本には阿嚩囉訶佉^{あはらかき}と^しり^の五字計りをもち三千五百の偈をむすべり。

況や餘の諸尊の種子尊形三摩耶其數をしらす。而に漢土には但總に六卷七卷也。涅槃經は雙林最後の說漢土には但四十卷なり是も梵本多し之。此等の諸經は皆釋迦如來の所說の法華經の眷屬の修多羅也。此外過去の七佛千佛遠劫の諸佛の所說現在十方の諸佛の諸經も皆法華經の經の一字の眷屬也。されば藥王品に佛宿王華菩薩に對して云々譬々如下一切川流江河諸水之中海爲第一上衆山之中須彌山爲第一衆星之中月天子最爲第一等云云。妙樂大師ノ釋ニ云、已今當說最爲第一等云云。此經の一字の中に十方法界の一切經を納たり。譬ば如意寶珠の一切の財を納め虚空の萬象を含めるが如し。經の一字ハ一代に勝る故に妙法蓮華の四字も又八萬法藏に超過するなり。妙者法華經ニ云ク開テ方便ノ門ヲ示シ眞實ノ相ヲ云云。章安大師ノ釋ニ云ク發ニ祕密之奧藏ヲ稱シ之ヲ爲シ妙ト云云。妙樂大師此文を受けて云ク發者開也等云云。妙と申す事は開と云事也。世間に財を積める藏に鑰なければ開事かたし開ざれば藏の内の財を見ず。華嚴經は佛説給たりしかども彼經を開く鑰をば佛彼經に説給はず。阿含方等般若觀經等の四十餘年の經經も佛説給たりしかども彼經經の意をば開き給はず門を閉てをかせ給たりしかば。人彼經經をささる者一人もなかりき。たとひさと

れりどもひしも僻見にてありし也。而に佛法華經を説せ給て諸經の藏を開かせ給き。此時に四十餘年の九界の衆生始て諸經の藏の内の財をば見しりたりし也。譬ば大地の上に人畜草木等あれども日月の光なければ眼ある人も人畜草木の色形をしらす。日月出給てころ始てこれをば知事なれ。爾前の諸經は長夜の闇の如く法華經の本迹二門は日月の如し。諸の菩薩の二目ある二乗の眇目なる凡夫の盲目なる闡提の生盲なる。共に爾前の經經にては色形をわきまへず。中程に法華經の時迹門の月輪始て出給し時菩薩の兩眼先にさとり二乗の眇目次にさとり。凡夫の盲目次に開き生盲の一闡提も未來に眼の開べき縁を結事偏に妙の一字の徳也。迹門十四品の一妙本門十四品の一妙合て二妙迹門の十妙本門の十妙合て二十妙。迹門の三十妙本門の三十妙合て六十妙迹門の四十妙本門の四十妙觀心の四十妙合て百二十重妙也。六萬九千三百八十四字一一の字の下に一の妙あり總じて六萬九千三百八十四の妙あり。妙者天竺には薩と云漢土には妙と云妙者具の義也具者圓滿の義也。法華經の一一の文字一字一字に餘の六萬九千三百八十四字を納たり。譬ば大海の一滯の水に一切の河の水を納め。一の如意寶珠の芥子計なるが一切の如意

寶珠の財を雨らすが如し。譬ば秋冬枯たる草木の春夏の日に値て枝葉華菓出來するが如し。爾前の秋冬の草木の如なる九界の衆生法華經の妙の一字の春夏の日輪にあひたてまつりて菩提心の華さき成佛の菓なる。龍樹菩薩大論云々譬如シ大藥師能ク以テ毒ヲ爲ス藥ト云云。此の文は大論に法華經の妙の徳を釋する文也。妙樂大師釋ニ云ク難レ治シ能ク治ス所以ニ稱ス妙ト等云云。總じて成佛往生のなりがたき者四人あり。第一決定性の二乘第二一闍提人第三空心者第四謗法者也。此等を法華經にをいて佛になさせ給ふ故に法華經を妙とは云也。提婆達多是斛飯王の第一の太子淨飯王には甥阿難尊者の兄教主釋尊には從子南閻浮提にかるからざる人也。須陀比丘を師として出家し阿難尊者に十八變を習ひ。外道の六萬藏佛の八萬藏を胸にうかべ五法を行して殆ど佛よりも尊きけしきなり。兩頭を立て、破僧罪を犯んがために象頭山に戒壇を築き佛弟子を招取り。阿闍世太子をかたらひて云、我は佛を殺て新佛となるべし太子は父の王を殺て新王となり給へ。阿闍世太子既に父の王を殺しかば提婆達多又佛をうかがひ大石をもつて佛の御身より血を出し。阿羅漢たる華色比丘尼を打殺し五逆の内たる三逆を具に作る。其上瞿伽梨尊者を弟子とし阿闍世王を檀

那にたのみ。五天竺三十六の大國五百の中國等の一逆二逆三逆等をつくる者皆提婆が一類にあらざる事なし。譬ば大海の諸河を集め大山の草木を聚が如し。智慧ある者は舍利弗に集り神通ある者は目連に従ひ惡人は提婆にかたらひし也。されば厚サ十六萬八千由旬其下に金剛の風輪ある大地すでにわれて生身に無間大城に墮にき。第一の弟子瞿伽梨も又生身に地獄に入ル旃遮婆羅門女もをちにき波瑠瑠王もをちぬ。善星比丘もをちぬ。此等の人人の生身に墮しをば五天竺三十六の大國五百の中國十千の小國の人人も皆これをみる。六欲四禪色無色梵天帝釋第六天の魔王も閻魔法王等も皆御覽ありき。三千大千世界十方法界の衆生も皆聞し也。されば大地微塵劫はすぐとも無間大城を出づべからず。劫石はひすらぐ(磷)とも阿鼻大城の苦はつきじところ思合たりしに。法華經の提婆品にして教主釋尊の昔の師天王如來と記し給事ころ不思議にはをばゆれ。爾前の經經實ならば法華經は大妄語法華經實ならば爾前の諸經は大虚誑罪也。提婆が三逆罪を具に犯して其外無量の重罪を作りしも天王如來となる。況や二逆一逆等の諸の惡人の得道疑なき事。譬ば大地をかへすに草木等のかへるが如く堅石をわる者藪草をわるが如し。故に此經をば妙

と云也。女人をば内外典に是をうしり三皇五帝の三墳五典にも諂曲者と定む。されば災は三女より起ると云へり國の亡び人の損ずる源は女人を本とす。内典の中には初成道の大法たる華嚴經には女人、地獄、使能斷佛種子、外面、似菩薩、内心、如夜叉、文。雙林最後の大涅槃經には一切、江河必有回曲、一切、女人必有諂曲、文。又云、所有三千界、男子、諸煩惱合集爲一人、女人、業障、等云云。大華嚴經の文に能斷佛種子と説れて候は女人は佛になるべき種子をい(無)れり。譬は大旱魃の時虚空の中に大雲をこり大雨を大地に下すにかれたるが如なる無量無邊の草木花さき菓なる。雖然、いりたる種はをひずして結句雨しげければくちうするが如し。佛は大雲の如く説教は大雨の如くかれたるが如くなる草木を一切衆生に譬へたり。佛敎の雨に潤て五戒十善禪定等の功德を得んは花さき菓なるが如し。雨ふれどもいりたる種のをひずしてかへりてくちうするは。女人の佛敎に遇へども生死をはなれずしてかへりて佛法を失ひ惡道に墮に譬ふ。是を能斷佛種子とは申也。涅槃經の文に一切の江河のまがれるが如く女人も又まがれりと説れたるは。水はやわらかなる物なれば石山なんどのこわき物にさへられて水のさきひるむゆへに

かしここへ行也。女人も亦如く是女人の心をば水に譬へたり。心よわくして水の如く也。道理と思事も男のこわき心に値ぬればせかれ(塞)てよしなき方へをもむく。又水にるがく(塞)にとどまらざるが如し。女人は不信を體とするゆへに只今さあるべしと見る事も又しばらくあればあらぬさまになるなり。佛と申は正直を本とす故にまがれる女人は佛になるべきにあらず。五障三従と申て五のさはり三つしたがつ事あり。されば銀色女經には三世の諸佛の眼は大地に落とも女人は佛になるべからずと説れ。大論には清風はとると云、とも女人の心はとりがたしと云へり。如く此諸經に嫌はれたりし女人を文殊師利菩薩の妙の一字を説給しかば忽に佛になりき。あまりに不審なりし故に寶淨世界の多寶佛の第一の弟子智積菩薩。釋迦如來の御弟子の智慧第一の舍利弗尊者。四十餘年の大小乘經の意をもつて龍女の佛になるまじき由を難せしかども。終に叶はずして佛になりき。初成道の能斷佛種子も雙林最後の一切江河必有回曲の文も破れぬ。銀色女經並に大論の龜鏡も空しくなりぬ。又智積舍利弗は舌を卷き口を閉ぢ人天大會は歡喜のあまりに掌を合せたりき。是偏に妙の一字の徳也。此南閻浮提の内に二千五百の河あり一一に

皆まがれり南閻浮提の女人心のまがれるが如し。但し娑婆耶と申、河あり繩を引キはぬ(延)たるが如くして直に西海に入る。法華經を信ずる女人も亦復如く是直に西方淨土へ入るべし是妙の一字の徳也。妙者蘇生の義也蘇生と申はよみかへる義也。譬ば黄鵠の子死せるに鶴ノ母子安となけば死せる子還て活り。鳩鳥水に入ば魚蚌悉死す犀ノ角これにふるれば死せる者皆よみがへるが如く爾前の經經にて佛種をいりて死せる二乘闍提女人等。妙の一字を持ぬればいれる佛種も還て生ずるが如し。天台云、闍提ハ有リ心猶可シ作佛ス二乗ハ滅ス智チ心不可レ生ス法華能ク治ス復稱 爲レ妙ト云云。妙樂云、但名レ大ト不レ名レ妙ト者一有心ハ易ク治シ無心ハ難ク治シ難ク治シ能ク治ス所以ニ稱レ妙ト等云云。此等の文の心は大方廣佛華嚴經大集經大般若經大涅槃經等は題目に大の字のみありて妙の字なし。但生者を治して死せる者をは治せず。法華經は死せる者をも治す故に妙と云ふ釋也。されば諸經にしては佛になるべき者も佛にならず。法華は佛になりがたき者すら尙佛になりぬ。佛になりやすき者は云にや及ぶと云、道理立ぬれば。法華經をとかれて後は諸經にをもむく人一人もあるべからず。而に正像二千年過ぎて末法に入て當世の衆生の成佛往生のとげがたき

事は。在世の二乘闍提等にも百千萬億倍すぎたる衆生の。觀經等の四十餘年の經經に値て生死をはなれんと思はいかがはかなしはかなし。女人は在世正像末總じて一切の諸佛の一切經の中に法華經をはなれて佛になるべからざる事を。靈山の聽衆として道場開悟し給へる天台智者大師定て云、佗經ハ但記レ男不レ記レ女今經ハ皆記ス等云云。釋迦如來多寶佛十方諸佛の御前にして。摩竭提國王舍城の良靈鷲山と申、所にて八箇年の間説き給し法華經を。智者大師まのあたり聞しめしけるに。我五十年の一代聖教を説く事は皆衆生利益のためなり。但し其中に四十二年の經經には女人佛になるべからずと説き今法華經にして女人成佛をとくとなのらせ給しを。佛滅後一千五百餘年に當て靈鷲山より東北十萬八千里の山海をへだて、摩訶訶那と申、國あり震旦國是也。此國に佛の御使として出世し給ひ天台智者大師となのりて女人は法華經をはなれて佛になるべからずと定させ給ぬ。尸那國より三千里をへだて、東方に國あり日本國となづけたり。漢土の天台大師御入滅二百餘年と申せしに此國に生じて傳教大師となのらせ給て。秀句と申、書を造り給しに能化所化俱無歴劫妙法經方即身成佛と龍女が成佛を定、置、給へり。而に當世の女人は即身

成佛ころかたからめ往生極樂は法華を憑まば疑なし。譬ば江河の大海に入よりもたやすく雨の空より落るよりもはやくあるべき事也。而に日本國の一切の女人、南無妙法蓮華經とは唱へずして。女人の往生成佛をどげざる雙觀經等によりて彌陀の名號を一日に六萬遍十萬遍なんぞ唱るは。佛の名號なればたぐみなるには似たれども不成佛不往生の經によれるがゆへに徒に佗の寶を數るが如し。是偏に惡知識にたばらかされたる也。されば日本國の一切の女人のかたきは虎狼よりも山賊海賊よりも父母のかたきよりも。法華經ををしむずして念佛ををしゆる人人ころ一切の女人のかたきなれ。南無妙法蓮華經と一日に六萬十萬千萬等も唱て後に暇あらば時時は彌陀等の諸佛の名號をも口すさみなるやうに申し給はんころ法華經を信する女人にてはあるべきに。當世の女人は一期の間彌陀の名號をばしきりにとなへ念佛の佛事をばひまなくをこなひ。法華經をばつやつや唱へず供養せず。或はわづかに法華經を持經者によますれども。念佛者をば父母兄弟なんどのやうにをもひなし持經者をば所從眷屬よりもかるくをもへり。かくしてしかも法華經を信するよしをなめる也。抑淨徳夫人は二人の太子の出家をゆるして法華經をひろめさせ。龍

女は我闍大乗教度脱苦衆生とて誓ひしが全々佗經計を行じて此經を行せとは誓はず。今の女人は偏に佗經を行じて法華經を行する方をしらす。とくどく心をひるがへすべし心をひるがへすべし。南無妙法蓮華經。南無妙法蓮華經。

日蓮花押

文永三年丙寅正月六日於三清澄寺ニ未時書シ畢

啓三三 註二二四 鈔二二二 語二四二 拾三二 扶八一 音下二 略要

御眞蹟ノ斷編五章及御正本ニ近キモノニ依テ校正ス(稻田海素慶記)

○星名五郎太郎殿御返事 徴上六 考二六

漢ノ明夜夢みしより迦竺二人の聖人初て長安のとばりに臨しより以來。唐の神武皇帝に至るまで天竺の佛法震旦に流布し。梁の代に百濟國の聖明王より我朝の人王三十代欽明の御宇に佛法初て傳ふ。其より已來一切の經論諸宗皆日域にみたり。幸なるかな生を末法に受ふへども。靈山のきゝ耳に入身は邊土に居せりといへども大河の流れ掌に汲めり。但し委々尋見れば佛法

星名五郎太郎殿御返事 (遺一〇ノ一四)

五百九十七

(外二ノ十二)

に於て大小權實前後のれもむきあり。若此義に迷ぬれば邪見に住して佛法を習ふといへども還て十惡を犯し五逆を作る罪よりも甚しきなり。爰を以て世を厭ひ道を願はん人先ッ此義を存すべし。例せば彼苦岸比丘等の如し。故に大經云々若邪見なる事有んに命終の時正に阿鼻獄に墮べしと云へり。問、何を以てか邪見の失を知ん予不肯の身たりといへども随分後世を畏れ佛法を求んと思ふ願ッは此義を知ん。若邪見に住せばひるがへ(翻)して正見にれもむかん。答、凡眼を以て定むべきにあらず淺智を以て明ラむべきにあらず。經文を以て眼とし佛智を以て先とせん。但恐くは若此義を明さば定ていかりをなし憤りを含ん事を。さるあらばわれ佛敎を重んぜんにはしかず。其、世人は皆遠きを貴み近きをいやしむ但患者の行ひなり。其、若非ならば遠とも破すべし其、若理ならば近とも捨べからず。人貴むとも非ならば何ぞ今用ん。傳、聞く彼の南三北七の十流の學者威徳ことに勝れて天下に尊重せられし事既に五百餘年まで有しかども。陳隋二代の比天台大師是を見て邪義なりと破す。天下に此事を聞て大きに是をにくむ。然りといへども陳王隋帝の賢王たるに依て彼の諸宗に天台を召し決せられ。邪正をあきらめて前五百年の邪義

を改め皆悉く大師に歸す。又我朝の叡山、根本大師は南都北京の碩學と論じて佛法の邪正をただす事皆經文をささとせり。今當世の道俗貴賤皆人をあがめて法を不用、心を師として經によらず。依テ之、或は念佛權敎を以て大乘妙典をなげすて或は眞言の邪義を以て一實の正法を謗す。是等の類豈、大乘誹謗のやからに非ずや。若經文の如くならば争か那落の苦みを受ざらんや。依テ之、其流をくむ人もかくの如くなるべし。疑テ云、念佛眞言は是或は權或は邪義又行者或は邪見或は謗法なりと此事甚以て不審なり。其故は弘法大師は是金剛薩埵の化現第三地の菩薩なり。眞言は是最極甚深、祕密なり。又善導和尚は西土の教主彌陀如來の化身なり。法然上人は大勢至菩薩の化身なり。かくの如きの上人を豈に邪見の人と云べきや。答テ云、此事本より私の語を以て是を難すべからず經文を先として是をただすべきなり。眞言の敎は最極の祕密なりと云は三部經の中に於て蘇悉地經を以て王とすと見たり。全く諸の如來の法の中に於て第一なりと云フ事を見ず。凡る佛法と云は善惡の人をゑらばず皆佛になすを以て最第一に定むべし。是程の理をば何なる人なりとも知べきことなり。若此義に依らば經と經とを合せて是を校すべし。今法華經には二

乗成佛あり眞言經には無_レ之_レあまつさへあながちに是をさらへり。法華經には女人成佛有_レ之_レ眞言經にはすべて是なし。法華經には惡人の成佛有_レ之_レ眞言經には全くなし。何を以てか法華經に勝れたりと云べき。又若其瑞相を論せば法華には六瑞あり。所謂雨華地動し白毫相の光り上_レは有頂を極め下は阿鼻獄を照せる是也。又多寶の塔大地より出て分身の諸佛十方より來る。しかもみならず上行等の菩薩の六萬恆沙五萬四萬三萬乃至一恆沙半恆沙等大地よりわきいでし事。此威儀不思議を論せば何を以て眞言法華にまされりと云ん。此等の事委くのふるにいとまわらずはづかに大海の一滴を出す。爰に菩提心論と云一卷の文あり龍猛菩薩の造と號す。此書に云_ク唯眞言法_ノ中_ニ即身成佛_ニ故_ニ是說_ク三摩地_ノ法_ヲ於_テ諸教_ノ中_ニ闕_テ而不_レ書_ト云_ヘり。此語は大に不審なるに依て經文に就てこれを見るに即身成佛の語は有とも即身成佛の人全くなし。たとひありとも法華經の中に即身成佛あらば諸教の中にをいてかい(闕)て而もか_レずと云べからず。此事甚以て不可なり。但_シ此書は全く龍猛の作にわらず委_キ旨は別に有_ベし。設_ヒ龍猛菩薩の造なりともあやまりなり。故に大論に一代をのふる肝要として般若は祕密にあらず二乗作佛なし。

法華は是祕密なり二乗作佛ありと云_ヘり。又云_ク二乗作佛あるは是祕密二乗作佛なきは是顯教と云_ヘり。若菩提心論ノ語ノ如くならば別しては龍樹の大論にうむき總じては諸佛出世の本意一大事ノ因縁をやふるにあらずや。今_ニ龍樹天親等は皆釋尊の說教を弘めんが爲に出_ツ世_ニ付_テ法藏二十四人の其一也何_ゾ如_キ此_ニ妄說をなさんや。彼眞言は是般若經にも劣れり何_ニ況_カ法華に並_ハんや。爾るに弘法の祕藏寶鑰に眞言に一代を攝するとして法華を第三番に下しあまつさへ戲論なりと云_ヘり。謹で法華經を披きたるに諸の如來の所說の中に第一なりと云_ヘり又已今當の三說に勝れたりと見たり。又藥王の十論の中に法華を大海にたとへ日輪にたとへ須彌山にたとへたり。若此義に依らば深き事何_ゾ海にすぎん明なる事何_ゾ日輪に勝れん高き事何_ゾ須彌山に越る事有ん。論を以て知ぬべし何を以てか法華に勝れたりと云はんや。大日經等に全く此義なし但己が見に任せて永く佛意に背く。妙樂大師曰_ク請_フ有_レ眼者_ハ委悉_ニ尋_ヒ之_ヲと云_ヘり。法華經を指て華嚴に劣れりと云は豈_ニ眼ぬけたるものにあらずや。又大經に云_ク若佛の正法を誹謗する者あらん正に其舌を斷_タべしと。嗚呼誹謗の舌は世世に於て物云ことなく邪見の眼は生生にぬけて見こと無ら

ん。加之若人^{ラス}不信毀謗此經乃至其人命終入阿鼻獄の文の如くならば定て無間大城に墮て無量億劫のくるしみを受ん。善導法然も是に例して知ぬべし。誰か智慧有ん人此謗法の流を汲て共に阿鼻の焰にやかれん。行者能く畏るべし。此は是大邪見の輩也。所以に如來誠諦の金言を按ずるに云く我が正法をやぶらん事は譬ば獵師の身に袈裟をかけたるが如し。或は須陀洹^{しゅたゐん}斯那^{すな}阿那^{あな}阿羅漢^{あらかん}辟支佛^{びやくしぶつ}及^ひ佛の色身を現じて我が正法を壞らんといへり。今此善導法然等は種種の威を現じて愚癡の道俗をたぶらかし如來の正法を滅す。就中^{なか}彼眞言等の流れ偏に現在を以て旨とす。所謂畜類を本尊として男女の愛法を祈り莊園等の望をいのる。如^{ごと}是少分のしるしを以て奇特とす。若是を以て勝たりといはば彼月氏の外道等にはすぎし。彼阿耨多^{あかくた}仙人は十二年の間恆河の水を耳にただへ^漣たりき。又耆菟^{きと}仙人の四大海を一日の中にすひ^吸し。物留外道は八百年の間石となる。豈^{いか}是にすぎたらんや。又瞿曇^{くたん}仙人が十二年の程釋身と成り說法せし。弘法が刹那の程にびるさな^{毘盧舍那}の身と成りし。其威徳を論せば如何。若彼變化のしるしを信せば即外道を信すべし。當に知^れ彼れ威徳ありといへども猶阿鼻の炎をまぬがれず。況やはづかの變化に

をいてをや況や大乘誹謗にをいてをや。是一切衆生の惡知識也近^カ付^ケべらず可^レ畏^ル可^レ畏^ル。佛ノ曰惡象等に於ては畏るゝ心なかれ惡知識に於ては畏るゝ心をなせ。何を以の故に惡象は但身をやぶり意をやぶらず惡知識は二共にやぶる故に。此惡象等は但一身をやぶる惡知識は無量の身無量の意をやぶる。惡象等は但不淨の臭^き身をやぶる惡知識は淨身及び淨心をやぶる。惡象は但肉身をやぶる惡知識は法身をやぶる。惡象の爲にこるされては三惡に至らず惡知識の爲に殺されたるは必ず三惡に至る。此惡象は但身の爲のあた也惡知識は善法の爲にあた也と。故に可^レ畏^ル大毒蛇惡鬼神よりも弘法善導法然等の流の惡知識を畏るべし。略して邪見の失を明すこと畢ぬ。此使^ヒあまりに急ぎ候ほどにとりあへぬさまにかたはしばかりを申候。此後又便宜^{ひんぎ}に委^ク經釋を見調^{しら}べてかくべく候。穴賢穴賢。外見あるべからず候若命^{いのち}つれなく候はば如^ク仰^セ明年の秋下り候て且^ツ申^ベく候。恐恐。

十二月五日

日蓮花押

星名五郎太郎殿御返事

○安國論御勘由來

徵上九考二二八

正嘉元年太歲丁巳八月二十三日戌亥時超エタル於前代二大地震。同二年戊午八月一日大風。同三年己未大飢饉。正元元年庚申大疫病。同二年庚申互ナリ四季二大疫不レ已マ萬民既ニ超エテ大半ニ招キ死シ了シ。而ル間國主驚レ之ニ仰キ付テ内外典ニ有リ種種ノ御祈禱一雖レ爾無ク一分ノ驗一還テ増ス長ス飢疫等ヲ。日蓮見テ世間ノ體ヲ粗勘ル一切經ヲ御祈請無ク驗シ還テ増ス長ス凶惡一之由道理文證得レ之ヲ了シ。終ニ無ク止造リ作勘文一一通テ其名ヲ號シ立正安國論ト。文應元年庚申七月十六日辰時付シ屋戸野ノ入道ニ進シ申シ古最明寺入道殿ニ了シ。此レ偏ニ爲レ報ニ國土恩一也。其勘文ノ意ハ日本國天神七代地神五代百王百代ハ始リ于テ人王第卅代欽明天皇ノ御宇ニ自ニ百濟國一佛法渡ニ此國ニ。至于桓武天皇ノ御宇ニ其中間五十餘代二百六十餘年也。其間一切經並六宗雖有レ之天台眞言一二宗未タ有レ之。桓武ノ御宇ニ山階寺ノ行表僧正ノ御弟子ニ有リ最澄ト小僧一後號ス傳ト。已前ニ所レ渡ル六宗並禪宗雖極ニ之ヲ未タ叶ハ我意ニ。聖武天皇ノ御宇ニ大唐ノ鑿真和尚所レ渡ス天台ノ章疏經ヲ四十餘年ヲ已後始テ最澄披シ見シ之ヲ粗覺シ佛法ノ玄旨一了シ。最澄爲ニ天長地久一延曆四年建ニ立ス叡山ヲ。桓武皇帝崇レ之ヲ號ス天子本命ノ道場ト捨テ六宗ノ御歸依ヲ一向歸ニ伏シ天台圓宗ニ。同延曆十三年遷シ長岡ノ

京ヲ建ニ平安城ヲ。同延曆廿一年正月十九日於テ高雄寺ニ召シ合セ南都七大寺ノ六宗ノ碩學勤操長耀等ヲ十四人ヲ決シ談ス勝負ヲ。六宗ノ明匠不及一一問答一閉ル口ヲ如シ鼻ノ華嚴宗ノ五教法相宗ノ三時三論宗ノ二藏三時ノ所立ヲ破シ了シ但非レ破ニ自宗ヲ皆知ル爲ニ謗法一者ニ。同二十九日皇帝下ニ敕宣テ詰ル之ヲ十四人作テ謝表ヲ奉ル捧シ皇帝ニ其後代代ノ皇帝叡山ノ御歸依孝子ノ超ハ仕ル父母ニ勝レ恐ル黎民ノ王威一。或御時ハ捧シ宣明ヲ或御時ハ以テ非處ニ理一等云云。殊ニ清和天皇ハ依テ叡山ノ慧亮和尚ノ法威一即位ニ帝皇ノ外祖父九條右丞相誓狀ヲ捧シ叡山ニ源ノ右將軍ハ清和ノ末葉也鎌倉ノ御成敗不レ論ニ是非一背シ違ス叡山ニ天命有ル恐レ者歟。然後鳥羽ノ院ノ御宇建仁年中ニ法然大日一一人ノ有リ増ス上慢一者ニ。惡鬼入テ其身ニ狂シ惑シ國中ノ上下ヲ。擧テ代テ成リ念佛者ト毎ニ人趣ク禪宗ニ存シ外ニ山門ノ御歸依淺薄國中ノ法華眞言ノ學者被シ棄置シ了シ。故ニ叡山守護ノ天照太神正八幡宮山王七社國中守護ノ諸大善神不レ殫ニ法味一失ヒ威光一捨テ國土ヲ去リ了シ。惡鬼得テ便ニ至シ災難一結句自ニ佗國一可レ破ル此國一先相所レ勘ル也。又其後文永元年甲子七月五日彗星出テ東方ニ餘光大體及ニ一國一此レ又レ始リ世ニ已來所レ無キ凶瑞也。内外典ノ學者モ不レ知ニ其凶瑞ノ根源一予彌増ニ長ス悲歎一。而ル捧シ勘文ヲ已後經テ九箇年ヲ今年後ノ正月見ニ大蒙古國ノ國書ヲ

相^フ日蓮^カ勘文^ニ宛^カ如^シ符契^ノ。佛記^云我滅度^ノ後經^テ一百餘年^ヲ阿育大王出世^シ弘^ニ我舍利^ヲ。周^ノ第四昭王^ノ御宇^ニ大史蘇由^カ記^ニ云^ク一千年^ノ外聲教^令被^ラ此土^ニ。聖德太子^ノ記^ニ云^ク我滅度^ノ後經^テ二百餘年^ヲ山城^ノ國^ニ可^レ立^ツ平安城^ヲ。天台大師^ノ記^ニ云^ク我滅後^ニ二百餘年^ヲ已^チ後生^テ東國^ニ弘^ニ我正法^ヲ等^云云。皆果^如記文^ノ日蓮見^テ正嘉^ノ大地^ノ振同^ク大風^同飢饉^{正元元年}大疫^等記^云云^ク自^ニ佗國^ニ可^レ破^ル此國^ヲ先相^也。雖^レ似^シ自讚^ニ若毀^ニ壞^ニ此國土^ヲ復佛法^ノ破滅^無疑^ト者^也。而當世^ノ高僧^等與^テ謗法^者同意^者也復不^レ知^ラ自宗^ノ立底^者也。定^テ給^ヒ敕宣^{御教書}祈^ニ請^ス此凶惡^ヲ歟佛神^彌作^シ瞋恚^ヲ破^ニ壞^ニ國土^ヲ事^無疑^ト者^也。日蓮復對^ニ治^ス之^ヲ方知^ル之^ヲ。除^テ叡山^ヲ日本國^但一人^也譬^ハ如^ク日月^ノ無^ク二^ツ聖人^不並^ハ肩^ヲ故^也。若此事妄言^{ナラハ}日蓮^カ所^レ持^ツ法華經守護^ノ十羅刹^ヲ治罰^蒙之^ヲ。但偏^ニ爲^レ國^ノ爲^レ法^ノ爲^レ人^ノ爲^レ身^ノ不^レ申^シ之^ヲ。復禪門^ニ遂^ニ對面^ヲ故^ニ告^ク之^ヲ。不^レ用^レ之^ヲ定^テ可^レ有^ク後悔^ト。恐恐謹言。

文永五年^{太歲}戊辰^{四月五日}

法鑒 御房

日蓮 花押

明治三十五年三月正中山ノ御眞蹟ニ拜照シ奉ル(稻山海素慶記)

○宿屋入道許御狀

其後^ハ書絶^テ不^レ申^シ不^レ審^無極^リ候^{。抑}去^レ正嘉元年^{丁巳}八月二十三日^{戌亥}刻^ノ大地震^{。日蓮}引^テ諸經^ヲ勘^ル之^ヲ念佛宗^ト與^テ禪宗^等有^ル御歸依^之故^ニ日本守護^ノ諸大善神^作瞋恚^ヲ所^レ起^ス災也^{。若無}此對治^者爲^ニ佗國^ノ可^レ被^レ破^ラ此國^ヲ之由^勘文一通^撰之^ヲ。正元二年^{庚申}七月十六日^奉付^シ御邊^ニ故最明寺^{入道殿}進^ニ覽^之。其後經^テ九箇年^ヲ今年大蒙古國^牒狀^有之^由風聞^ス等^云云。如^シ經文^ノ者自^リ彼國^ニ責^ニ此國^ヲ事^必定^也。而日本國^ノ中日蓮^{一人}當^ニ可^レ爲^レ下調^ニ伏^ス彼西戎^ノ之人^上兼^テ知^リ之^ヲ論文^勘之^ヲ。爲^レ君^ノ爲^レ國^ノ爲^レ神^ノ爲^レ佛^ノ可^レ被^レ經^ニ內奏^ヲ歟。委細之旨^ハ者遂^ニ見^テ參^テ可^レ申^ス候^{。恐恐謹言。}

文永五年八月二十一日

宿屋左衛門入道殿

日蓮 花押

○與北條時宗書

謹^テ令^ニ言^上一候^{。抑}正月十八日^{西戎大蒙古國牒}狀^到來^{。日蓮}先年集^テ諸經^ノ要

宿屋入道許御狀 (遺一〇ノ二三)

六百七

(內二十九ノ二十三)

文ヲ勘レ之ヲ如ク立正安國論ノ少不違ハ普合。當ニ日蓮ハ聖人ノ一分ニ知未萌テ故也。然間重テ而奉ル驚ニ此由。急止ニ建長寺壽福寺極樂寺多寶寺淨光明寺大佛殿等ノ御歸依。不レ然者重テ而又自四方可キ責來也。速調ニ伏蒙古國ノ人ヲ而令安ニ泰我國ヲ給。被レ彼調伏事非日蓮不可叶也。諫臣在レ國則其國正。爭子在レ家則其家直。國家ノ安危ハ在リ政道ノ直否ニ佛法ノ邪正ハ依レ經文ノ明鏡。夫此國ハ神國也神ハ不レ稟ニ非禮。天神七代地神五代ノ神神其外諸天善神等ハ一乘擁護ノ神明矣。然而以テ法華經ヲ爲シ食ト以テ正直ヲ爲ス力ト。法華經ニ云ク諸佛救世者住ニ於大神通ニ爲レ悅ニ衆生ニ故ニ現ニ無量ノ神力ヲ。於ニ一乘棄捨之國ニ豈ニ善神不レ成レ怒ヲ耶仁王經ニ云ク一切ノ聖人去ル時七難必起矣。彼吳王ハ捨テ伍子胥ヲ詞ヲ亡ニ吾カ身ヲ桀紂ハ失テ龍比ヲ喪ニ國位ヲ。今日本國既ニ變ニ蒙古國ニ豈ニ不レ歎カ乎豈ニ不レ驚カ乎。日蓮カ申ス事無ニ御用イ者定テ後悔可有ル之。日蓮ハ法華經ノ御使也。經ニ云ク則如來ノ使ヒ如來ノ所遣。行ニ如來ノ事ヲ。三世諸佛ノ事者法華經也。此由方方奉ル驚レ之ヲ集ニ一所ニ有テ御評議ニ可ク豫ニ御報ニ候。所詮ハ抛テ萬祈ヲ召ニ合セ諸宗ヲ於御前ニ決シ佛法ノ邪正ヲ給。湖底ノ長松未レ知ラ良匠之誤リ闇中ノ錦衣未レ見愚人ノ失。於ニ三國佛法ノ分別者存ニ殿前ニ所謂阿闍世陳隋桓武是也。敢テ而非ニ

日蓮カ私曲ニ只偏ニ懷ク大忠ヲ故ニ爲ニ身不レ申之ヲ爲ニ神ノ爲ニ君ノ爲ニ國ノ爲ニ一切衆生ノ所レ令ニ言上セ也。恐恐謹言。

文永五年 辰 十月十一日

日蓮 花押

謹上 宿屋入道殿

○與宿屋左衛門光則書

就ニ先年勘レ之書安國論ニ普合ニ令ニ言上セ候畢。抑正月十八日西戌大蒙古國牒狀到來。以テ之ヲ按スルニ當ニ日蓮ハ聖人ノ一分ニ候歟。雖レ然未レ豫ニ御尋ニ候之間重而捧ク諫狀ヲ。希被レ停ニ止セ御歸依ノ寺僧ヲ宜ク令レ歸ニ法華經ニ若不レ然者後悔何追。以テ此趣ヲ十一所令ニ申セ候也定可有御評議ニ候歟。偏ニ奉ル仰ニ貴殿ヲ早令レ遂ニ日蓮カ本望ヲ給。十一箇所申平ノ左衛門ノ尉殿ニ所令レ申也。委悉雖ニ申シ度候上書分明之間令ニ省略ニ候。以テ御氣色ヲ御披露所ニ令ニ庶幾ニ候。恐恐謹言。

文永五年 辰 十月十一日

日蓮 花押

謹上 宿屋入道殿

○與平左衛門尉賴綱書

就蒙古國牒狀到來令言上一候畢。抑先年日蓮如立正安國論勘之少不違令言普合。然間重而以訴狀欲發愁鬱。爰以飛諫旗於公前立爭戟於私後。併貴殿者爲一天。屋梁爲萬民手足。爭此國滅亡事不歎耶不愼乎。早須下加退治制中謗法之咎。夫以一乘妙法蓮華經者諸佛正覺之極理諸天善神之威食也。於信受之何七難來三災興乎。剩此事申日蓮流罪。爭日月星宿不加罰哉。聖德太子倒守屋之惡興於佛法秀鄉。控於將門留名於後代。然者爲法華經強敵退治御歸依寺僧宜蒙善神之擁護者也。見御式目制止非據分明也。爭於日蓮愁訴者無御敕豈非破御起請文乎。以此趣方方進愚狀。所謂鎌倉殿宿屋入道殿建長寺壽福寺極樂寺大佛殿長樂寺多寶寺淨光明寺彌源太殿並此狀合十一箇所也。各各有御評議速可豫御報候。若爾者下和之璞磨成玉。法王醫中之明珠顯此時而已。全爲身不申之爲神爲君爲國爲一切衆生令言上之處也。如件。恐恐謹言。

文永五年 戊辰 十月十一日

平左衛門尉殿

日蓮 花押

○與北條彌源太書

去月御來臨急御歸宅無本意令存候畢。抑蒙古國牒狀到來事上自一人下至萬民驚動無極。雖然何故人未知之。日蓮兼而令存知之之間既造一論而進覽之。徵先達顯則災必後來。去正嘉元年丁巳八月廿三日戌亥刻大地震是併非此瑞乎。法華經云如是相天台大師云蜘蛛下喜事來。鴉鵲鳴行人來。易云吉凶於動生此等本文豈可替乎。所詮止諸宗歸依可令信受。一乘妙經之由捧勘文候。日本亡國之根源起自淨土真言禪宗律宗邪法惡法召合諸宗令諸經勝劣分別給。殊貴殿者相摸守殿同姓於根本滅一枝葉豈榮乎。早令下調伏蒙古國國土安穩。謗法華者三世諸佛大怨敵也。天照太神八幡大菩薩等放此國。故自大蒙古國牒狀來。歟。自今已後各各成生取可成佗國奴。此趣方方驚之令進愚狀一候也。恐恐謹言。

文永五年戊辰十月十一日

日蓮花押

謹上 彌源太入道殿

○與建長寺道隆書

夫佛闢竝^レ軒^ヲ法門拒^レ屋^ニ佛法^ノ繁榮^ハ超過^シ於^レ身毒^{支那}僧寶^ノ形儀^ハ如^シ六通^ノ羅漢^ノ。雖然^於ニテ一代^{諸經}未^レ知^ニ勝劣^{淺深}併^同禽獸^ニ。忽^チ拋^テ三德^ノ釋迦^{如來}而信^ニ佗方^ノ佛菩薩^一是豈^ニ非^ニ逆路^{伽耶陀}者^ニ乎。念佛^ハ者無間^{地獄}業禪宗^ハ天魔^ノ所爲^{眞言}亡國^ノ惡法律^宗國賊^ノ妄說^{云云}。爰^ニ日蓮^去文應^{元年}之比勘^之書^ヲ名^ニ立正安國論^一以^ニ宿屋^{入道}奉^ニ故最明^{寺殿}。此書^ノ所詮^ハ念佛^{眞言}禪律^等信^ニ惡法^一故^ニ天下^ニ災難^{頻起}剩^自佗國^一可^レ被^レ責^ニ此國^一之由^勘之^ヲ。然而^去正月^{十八}日牒^狀到來^{。日蓮}所^ニ勘^之少^不違^ハ令^ニ普合^ニ諸寺^{諸山}祈禱^ノ威力^滅故^歟將^タ又^{惡法}故^歟鎌倉^中上下^{萬人}道隆^{聖人}如^レ佛^ノ而仰^キ之^ヲ良觀^{聖人}如^レ羅漢^ノ而尊^ム之^ヲ。其外^{壽福寺}多寶^寺淨光^寺長樂^寺大佛^殿長老^等我慢^心充滿^未得^謂爲^得增上^慢大惡^人何^ソ蒙古^國大兵^ヲ可^レ令^ニ調伏^ニ乎。剩^{日本}國中^{上下}萬人^悉可^レ成^生取^今世^亡國^後世^必墮^無問^{日蓮}申^事。

無^ニ御用^ニ者^後悔^可有^レ之^{。此趣}鎌倉^殿宿屋^{入道}殿^平左衛門^尉殿^等令^ニ進^ニ狀^之候^{。寄}集^一處^ニ而可^レ有^ニ御評議^候。敢^而非^ニ日蓮^カ私曲^之義^ニ只^任經^論文^ニ之處^也。具^難載^{紙面}併^期對決^{之時}書^ハ不^レ盡^言言^ハ不^レ盡^心。恐^恐謹^言。

文永五年戊辰十月十一日

日蓮花押

進上 建長寺道隆聖人 侍者御中

○與極樂寺良觀書

就^テ西戎^{大蒙}古國^{簡牒}事^{鎌倉}殿^其外^令進^ニ書^狀候^{。日蓮}去^{文應}元^年之^比勘^申如^立正安國論^一毫末^計不^レ相^違之^候。此事^{如何}。長老^{忍性}速^翻嘲^哂之心^早令^歸日蓮^房給^{。若}不^然者^輕賤^{人間}者^與白^衣說^法之^失難^脫歟。依法^不依^人如^來金^言也^{良觀}聖^人住^處說^テ法^華經^云ク^或有^阿練^若納^衣在^空閑^阿練^若若^ハ翻^ニ無^事爭^日蓮^譏奏^之條^住處^相違^併似^三學^矯賊^聖人^也。借^聖增^上慢^而今^生國^賊來^世墮^在那^落必^定矣。聊^悔先^非可^レ歸^日蓮^{。此趣}奉^始鎌倉^殿建長^寺等^其外^令披^露候^{。所詮}欲^遂本^意。

不_レ如_カ對決_ニ。即以_テ三藏淺近之法_ヲ向_テ諸經中王之法華_ニ如下_ク。江河_ト與_テ大海_ニ華山_ト與_テ妙高_ニ勝劣_上。蒙古國調伏_ノ祕法定_テ可_レ有_テ御存知_ニ候歟。日蓮_ハ日本第一_ノ法華經_ノ行者_爲蒙古國退治_ノ大將_ニ於_テ一切衆生中亦爲_テ第一_者是也。文言多端_不能_レ盡_ス理_ヲ併_カ令_テ省略_セ候。恐恐謹言。

文永五年_辰十月十一日

日蓮花押

謹上 極樂寺長老良觀聖人 御所

○與大佛殿別當書

去正月十八日自_ニ西戎大蒙古國_ニ牒狀到來_シ候_ニ畢。其狀_ニ云_ク大蒙古國皇帝日本國王_ニ上_ル書_ヲ大道之行_其義邈_ク矣_構信_ヲ修_ス睦_ヲ其理何_ノ異_ナ乃至至元三年丙寅正月日_ト。右如_ニ此狀_ノ者依_テ返牒_ニ可_レ襲_フ日本國_ヲ之由分明也。日蓮兼_テ而勘_ヘ申立_{正安國論}少_シ不_レ相違_セ急加_ニ退治_ヲ給_ヘ。然者放_テ日蓮_ヲ而不可_レ叶_フ之_ヲ。早_ク倒_シ我慢_ヲ可_レ歸_ス日蓮_ニ今生空_ヲ過後悔何_ノ追_フ。委_ク不能_レ記_ス之_ヲ。此趣方方_ハ令_レ申_セ候聚_ニ集_シ一處_ニ而可_レ有_テ御調伏_ニ候歟。

文永五年十月十一日

日蓮花押

謹上 大佛殿別當御房

○與壽福寺書

如_ニ風聞_ノ蒙古國_ノ簡牒去正月十八日_ニ慥_ニ到來_候畢。然者先年日蓮_カ如_ク勘_書立_{正安國論}令_テ普合_セ恐_ク日蓮_ハ知_ル未_レ萌_ラ者歟。以_テ之_ヲ按_ス之_ヲ念佛真言禪律等_ノ惡法充_ニ滿_シ一天_ニ而爲_ニ上下_ノ師_ト之故_ニ如_キ此_レ他國侵逼_ノ難起_也。依_テ法華不信_ハ失_レ皆一同_ニ後生_ハ可_レ墮_ス無間地獄_ニ。早_ク翻_シ邪見_ヲ捨_テ達磨_ノ法_ヲ可_レ令_テ歸_マ一乘_{正法}。然_ル間方方_ハ令_テ披露_セ候之處也早_早集_ニ一處_ニ可_レ有_テ御評議_ニ候。委_ク期_ニ對決_之時_ヲ。恐恐謹言。

文永五年十月十一日

日蓮花押

謹上 壽福寺 侍司御中

○與淨光明寺書

大蒙古國_ノ自帝可_レ奪_フ日本國_ヲ之由渡_ス牒狀_ヲ。此事先年如_ク勘_立正安國論_ニ申_上少_シ不_レ令_テ相違_セ。内内可_レ被_レ行_ハ日本第一_ノ勸賞_ニ歟_ト令_テ存_セ候之處剩_ハ不_レ預_ラ御

稱歎二候。是併鎌倉中著鏡ノ類律宗禪宗等カ向國王大臣誹謗說我惡之故也。早
抛テ二百五十戒ヲ而可下歸ニ日蓮二期中成佛上若不然者墮在無間之根源矣。此趣方
方へ令ニ披露ニ候畢。早ク集ニ一處ニ而令ニ遂ケテ對決ヲ給ヘ日蓮令ニ庶幾ニ處也。敢而非
蔑ニ如諸宗ヲ耳。對ニ法華ノ大王戒ニ小乘蠱毒戒豈ニ及ニ相對ニ乎可笑ヲ可笑ヲ。

文永五年十月十一日

日蓮花押

謹上 淨光明寺 侍者御中

○與多寶寺書

日蓮奉ニ故最明寺殿ニ之書立正安國論御披見候カ乎知テ未萌ニ勘ニ申メ之ヲ處也。既
去正月蒙古國ノ簡牒到來ス何ソ不レ驚カ乎。此事不審千萬矣。雖ニ日蓮ハ惡ト於テハ所
勘相當ニ何不用イ哉。早ク集ニ一處ニ而可シ有ル御評議。若日蓮カ申事ヲ無ニ御用
者今世亡レ國後世ハ必可シ墮ニ無間大城。此旨方方へ令ニ申セ之ヲ也敢而非ニ日蓮
私曲ニ委可レ預ニ御報ニ候。言ハ不レ盡サ心ヲ書ハ不レ盡サ言ヲ併カ令ニ省略ニ候。恐恐謹言。

文永五年十月十一日

日蓮花押

謹上 多寶寺 侍司御中

○與長樂寺書

就テ蒙古國調伏之事ニ方方へ令ニ披露ニ候。既ニ日蓮如ク勘ニ立正安國論ニ令ニ普
合ニ早ク捨テ邪法邪教ニ可レ歸ニ實法實教。若無ニ御用ニ者今生亡レ國ヲ失ヒ身ヲ後生必
可レ墮ニ那落ニ。速ニ集ニ一處ニ遂ケテ談合ヲ令ニ評議ニ給ヘ日蓮所レ令ニ庶幾ニ也。依テ御報
可レ存ニ其旨ニ候之處也敢テ而非ニ諸宗ヲ蔑如ニ但存ニ此國ノ安泰ヲ計リ也。恐恐謹言。

文永五年十月十一日

日蓮花押

謹上 長樂寺 侍司御中

○弟子檀那中御書

就テ大蒙古國ノ簡牒到來ニ以テ一通ノ書狀ヲ方方へ令ニ申セ候。定而日蓮弟子檀那
流罪死罪一定耳少莫レ驚レ之。方方強言不レ及レ申是併而強毒之ノ故也。日蓮所
令ニ庶幾ニ候各各可シ有ル用心。少莫レ憶ニ妻子眷屬ヲ莫レ恐ニ權威ヲ今度切ニ生死之
縛ヲ令ニ遂ケテ佛果ヲ給ヘ。鎌倉殿宿屋入道平ノ左衛門尉彌源太建長寺壽福寺極樂
寺多寶寺淨光明寺大佛殿長樂寺一箇所仍テ書テ一通ノ狀ヲ令ニ諫訴ニ候。定

而可有子細。日蓮カ所ニ來テ而書狀等令ニ披見一給。恐恐謹言。

文永五年 戊辰十月十一日

日蓮花押

日蓮弟子檀那中

○問注得意鈔

土木入道殿

日蓮

今日召合セ御問注之由承リ候。如ク各御所念ノ者三千年ニ一度花菓値ニ優曇華ニ之身歟。西王母之蘭、桃九千年三度得ル之ヲ東方朔カ心歟。一期ノ幸何事カ如レ之。御成敗ノ甲乙ハ且置ク之ヲ前キ立テ開ニ發覺念ヲ歟。但兼日雖有ニ御存知ニ鞭ニ于駿馬一之理有レ之。今日御出仕望ニ於公庭ニ之後ハ設ヒ雖レ爲ニ知音向ニ傍輩ニ可レ被レ止ニ雜言。兩方召合セ之時御奉行人訴陳之狀讀ム之ヲ之尅付ニ何事ニ御奉行ハ無ニ御尋ル之外不可出ス一言一歟。設ヒ敵人等雖レ吐ク惡口ヲ各各當身之事ニ一度可レ如レ不聞。及フ三度ニ之時不レ變ニ顔貌ヲ不出ニ穢言一以テ更語ヲ可レ申ス。各各一處ノ同輩也於レ私ニ者全ク無キ違恨一之由可レ被レ申レ之歟。又御供雜人等ニ能レ加ニ禁止ニ不可出ス喧嘩一歟。如キ是事難シ盡シ書札ニ以テ心ヲ可レ有二御斟酌一歟。

出ス此等ノ嬌言ヲ事恐テ雖レ存佛經ノ行者檀那ト三事相應爲レ成ニ一事ヲ出ス愚言一歟也。恐恐謹言。

五月九日

三人御中

日蓮花押

明治三十五年四月正中山ノ御眞蹟ニ拜照シ奉ル(稻田海素慶記)

○富木殿御消息

大師講ノ事今月明性房にて候が此月はさしあひ候。餘人之中せん(爲)候人候はば申ッせ給と候。貴邊より蒙リ仰テ候へ。御指合にて候はば佗處へ申ベク候。恐々。

六月七日

土木殿

日蓮花押

明治三十五年六月京都立本寺ニ於テ御眞蹟ニ拜照シ奉ル(稻田海素慶記)

○立正安國論奥書

富木殿御消息 安國論奥書 (遺一〇ノ三三)

六百十九

(資外ノ十八)

文永六年己巳十二月八日 本文附二卷之七
安國論之編後一

○法門可被申様之事

啓三三八九 鈔三三八 語四三六 拾七一 扶一三二

法門申さるべきやう。選擇をばうちをきて先ッ法華經の第二の卷の今此三界の文を開て釋尊は我等が親父也等定了るべし。何の佛か我等が父母にてはをばします。外典三千餘卷にも忠孝の二字ころせん(詮)にて候なれ忠又孝の家より出ッところ申候なれ。されば外典は内典の初門此心は内典にたがわす候か。人に尊卑上下はありといふども親を孝するにはすぎすと定られたるか。釋尊は我等が父母なり一代の聖教は父母の子を教へたる教經なるべし。其中に天上龍宮天竺などには無量無邊の御經ましますなれども。漢土日本にはわづかに五千七千餘卷なり。此等ノ經經の次第勝劣等は私には辨がたう候。而ルに論師大師先德には未代の人の智慧こへがたければ彼の人人の料簡を用へべきかのところに。華嚴宗の五教四教法相三論の三時二藏或は三轉法輪。世尊法久後要當說眞實の文は又法華經より出て候金口の明說なり。佛說すでに大に分て二途なり譬へば世間の父母の讓の前判後判のごとし。はた又世間の前

判後判は如來の金言をまなびたるか。孝不孝の根本は前判後判の用不用より事をこれり。かう立テ申ならば人人さもやとをばしめしたらん時申すべし。抑淨土の三部經等の諸宗の依經は當分四十餘年の内なり。世尊は我等が慈父として未顯眞實すと定させ給ふ御心は。かの四十餘年の經經に付とをばしめ候か又說眞實の言にうつれ(遷)とをばしめし候か。心あらん人人御賢察候べきかとしばらくあぢわひ(味)て。よも佛程の親父の一切衆生を一子とをばしめすが眞實なる事をすて、未顯眞實の不實なる事に付とはをばしめさじ。さて法華經にうつり候はんは四十餘年の經經をすて、遷候べきか。はた又かの經經並に南無阿彌陀佛等をばすてすして遷候べきかとればしきとところに。凡夫の私のはからいせひ(是非)につけてをりあるべし。佛と申す親父の仰を仰べしとまつところに佛定て云ッ正直捨方便等云云。方便と申すは無量義經に未顯眞實と申す上に以方便力と申す方便なり。以方便力の方便の内に淨土三部經等の四十餘年の一切經は一字一點も漏べからざるか。されば四十餘年の經經を捨テ法華經に入らざらん人人は。世間の孝不孝はしらす佛法の中には第一の不孝の者なるべし。故ニ第二譬論品に云ッ今此三界乃至雖復教詔而不信

受等云云。四十餘年の經經をすてずして法華經に並へて行せん人人は主師親の三人のをほせを用ゐざる人人なり。教と申すは師親のをしへ詔と申すは主上の詔敕なるべし。佛は閻浮第一の賢王聖師賢父なり。されば四十餘年の經經につきて法華經へうつらざる。又うつれる人人も彼經經をすてうつらざるは三徳備へたる親父の仰々を用ゐざる人天地の中に住べき者にはあらず。この不孝の人の住處を經の次下^キに定テ云々若人^キ不信乃至其人命終入阿鼻獄等云云。設法華經をりしらずともうつり付ざらん人人不孝の失疑なかるべし。不孝の者は又惡道疑なし故佛は入阿鼻獄と定給ぬ。何況爾前の經經に執心を固^{かたく}なして法華經へ遷^{うつ}ざるのみならず。善導が千中無一法然が捨閉闍拋とかけるはあに阿鼻地獄を脱るべしや。其所化並に檀那は又申に及ばず。雖復教詔而不信受と申すは孝に二あり世間の孝の不孝は外典の人人これをしりぬべし。内典の孝不孝は設論師等なりとも實教を辨^わざる權教の論師の流を受たる末論師なんごは後生しりがたき事なるべし。何況末末の人人をや。涅槃經の三十四云々人身を受けん事は爪上の土三惡道に墮らん事は十方世界の土。四重五逆乃至涅槃經を謗する事は十方世界の土四重五逆乃至涅槃經を信する事

は爪^{つめ}の上の土なんごとかれて候。末代には五逆の者と謗法の者は十方世界の土のごとしとみへぬ。されども當時五逆罪つくる者は爪の上の土つくらざる者は十方世界の土と説候へば。經文うらごとなるやうにみへ候をくはしくかんがへみ候へば不孝の者を五逆罪の者とは申候か。又相似の五逆と申す事も候。さるならば前王の正法實法を弘^{ひろ}させ給と候を。今の王の權法相似の法を尊て天子本命の道場たる正法の御寺の御歸依うすくして。權法邪法の寺の國國に多くいできたれるは。愚者の眼には佛法繁盛とみへて佛天智者の御眼には古き正法の寺寺やうやくうせ候へば。一には不孝なるべし賢なる父母の氏寺をすつるゆへ二には謗法なるべし。若しからは日本國當世は國一同に不孝謗法の國なるべし。此國は釋迦如來の御所領。佛の左右臣下たる大梵天王第六天の魔王にたはせ給て。大海の死骸をとどめざるがごとく寶山の曲林をいとうがごとく此國の謗法をかへんとればすかど勘へ申なりと申。この上捨てられて候四十餘年の經經の今に候いかになんご。俗難せば返答して申すべし塔くむあししろ(是代)は塔くみあげては切すつるなりなど申すべし。此譬へは立義の第二の文に今大教若起方便教絶と申釋の心なり。妙と

申すは絶といふ事絶と申す事は此經起れば已前の經經を斷止と申す事なるべし。正直捨方便の捨の文字の心又嘉祥ノ日出ぬるに星かくるの心なるべし。但爾前の經經は塔のあししろなれば切すつるとも。又塔をすり(修繕)せん時は用ふべし又切すつべし。三世の諸佛の説法の儀式かくのごとし。又俗ノ難ニ云ク慈覺大師の常行堂等の難これをは答ふべし。内典の人外典をよむ得道のためにはあらず才學のためか。山寺の小兒の俱舎の頰をよむ得道のためか。傳教慈覺は八宗を極給へり一切經をよみ給ふ。これみな法華經を詮と心へ給はん梯磴なるべし。又俗ノ難ニ云ク何にさらば御房は念佛をば申給はぬ。答テ云ク傳教大師は二百五十戒をすて給。時にあたりて法華圓頓の戒にまされ(紛)しゆへなり。當世は諸宗の行多けれども時にあたりて念佛をもてなして法華經を謗するゆゑに金石迷とやすければ唱候はず。例せば佛十二年が間常樂我淨の名をいみ給き。外典にも寒食のまつりに火をいみあかき物をいむ。不孝ノ國と申す國をば孝養の人ほどを(通)らず。此等の義なるべし。いくたびも選擇をばいふへずして先ッかうたつ(立)べし。又御持佛堂にて法門申したりしが面目なんどかゝれて候事かへすがへす不思議にをばへ候。るのゆへは僧となりぬ

其上へ一閻浮提にありがたき法門なるべし。設等覺の菩薩なりともなほとかをもうべき。まして梵天帝釋等は我等が親父釋迦如來の御所領をあづかりて正法の僧をやしなうべき者につけられて候。毗沙門等は四天下の主此等が門まもり又四州の王等は毗沙門天が所從なるべし。其上日本秋津嶋は四州の輪王の所從にも及ばず但嶋の長なるべし。長なんどにつかへん者どもに召されたり上なんどかく上面目なんど申は。かたがたせんところ日蓮をいやしみてかけるか。總じて日蓮が弟子は京にのぼりぬれば始はわすれぬやうにて後には天魔つきて物にくるう(狂)せう房がごとし。わ(和)御房もろれてい(其體)になりて天のにくまれかほむる(蒙)のぼりていくばくもなきに實名をかうる(替)でう(條)物くるわし。定てことばつき音なんども京なめり(誰)になりたるらん。ねずみがかわほり(蠅)になりたるやうに鳥にもあらずねずみにもあらず。田舎法師にもあらず京法師にもにせずせう房がやうになりぬとをばゆ。言をば但いなかことばにてあるべしなかなかあしきやうにて有なり。尊成とかけるは隱岐の法皇の御實名かかたがた不思議なるべし。かつしられて候やうに當世の高僧眞言天台等の人人の御いのりは叶まじきよし。前前に申候上。

今年鎌倉の眞言師等は去年より變成男子の法をこなはる。隆辨などは自歎する事かぎりなし。七八百餘人の眞言師東寺天台の大法祕法盡して行せしがついにむなしくなりぬ。禪宗律僧等又一同に行しかどもかなはず。日蓮が叶まじと申とて不思議なりなんぞをぞし候しかども皆むなしくなりぬ。小事たる今生の御いのりの叶ぬを用てしるべし大事たる後生叶べしや。眞言宗の漢土弘始は天台の一念三千を盜取て眞言の教相と定て理の本とし。枝葉たる印眞言を宗と立宗として天台宗を立下す條謗法の根源たるか。又華嚴法相三論も天台宗日本になかりし時は謗法ともしられざりしが。傳教大師圓宗を勘いだし給て後謗法の宗ともしられたりしなり。當世眞言等の七宗の者しかしながら謗法なれば大事のいのり叶べしともをばへず。天台宗の人人は我宗は正なれども邪なる佗宗と同ずれば我宗の正をもしらぬ者なるべし。譬へば東に迷つ者、對當の西に迷と東西に迷つゆへに十方に迷つなるべし。外道の法と申は本内道より出て候而ども外道の法をもて内道の敵となるなり。諸宗は法華經よりいで天台宗を才學として而も天台宗を失つなるべし。天台宗の人人は我宗は實義とも知ざるゆへに。我宗のはるび我身のかろくなるをば

しらすして佗宗を助けて我宗を失つなるべし。法華宗の人が法華經の題目南無妙法蓮華經とはとなわすして南無阿彌陀佛と常に唱へば法華經を失つ者なるべし。例せば外道は三寶を立。其中に佛寶と申は南無摩醯脩羅天と唱へしかば佛弟子は翻邪の三歸と申て南無釋迦牟尼佛と申せしなり。此をもつて内外のしるしとす。南無阿彌陀佛とは淨土宗の依經の題目なり。心には法華經の行者と存とも南無阿彌陀佛と申は傍輩は念佛者としりぬ。法華經をすてたる人ともうべし。叡山の三千人は此旨を辨へずして王法にもすてられ叡山をもほろぼさんとするゆへに。自然に三寶に申事叶はず等と申給へし。人不審云、天台妙樂傳教等の御釋に我やうに法華經並に一切經を心わざらん者は惡道に墮べしと申釋やあると申ば玄、三籤、三及、已今當等をいだし給へし。傳教大師六宗ノ學者日本國の十四人を呵云、顯戒論ノ下云、昔聞齊朝之光統、今見本朝之六統、實哉法華、何況也等云云。華嚴眞言法相三論、四宗を呵云、依憑集云、新來、眞言家、則泯、筆受之相承、舊到、華嚴家、則隱、影響之軌模。沈空、三論宗、者忘、彈呵之屈恥、覆、稱心之醉、著有、法相宗、非、僕陽之歸、依、撥、青龍之判經、等云云。天台妙樂傳教等は眞言等の七宗の人人は設、戒定はまた

く(全)とも謗法のゆへに惡道脱のがるべからずと定さだめられたり。何なに況況禪宗淨土宗等は勿論なるべし。されば止觀は偏に達磨をころは(破)して候ぬれ。而當世の天台宗の人人は諸宗に得道をゆるすのみならず諸宗の行をうばい取て我行とする事いかん。當世の人人ことに眞言宗を不審せんか立申たてすべきやう。日本國に八宗あり眞言宗大に分て二流あり所謂東寺天台なるべし。法相三論華嚴東寺の眞言等は大乘宗設と定慧は大乘なれども東大寺の小乘戒たつを持ゆへに戒は小乘なるべし。退大取小の者小乘宗なるべし。叡山の眞言宗は天台圓頓の戒をうく全レ眞言宗の戒なし。されば天台宗の圓頓戒にをちたる眞言宗なり等申まべし。而座主等の高僧名を天台宗にかりて一向眞言宗よて法華宗をさぐる(下)ゆへに。叡山皆謗法になりて御いのりにしるしなきか。問と云い天台法華宗に對當して眞言宗の名をけづらる、證文如何。答こた云い學生式ニ云い傳傳教大天台法華宗年分學生式首一年分度者、人柏原光被被加加天天仁九年令住住叡山二十二年不出出山門ヲ修修學學兩業一凡止觀業者凡遮那業者等云云。顯戒論緣起上云い請請加加新法華宗一表一首。沙門最澄。華嚴宗二二人天台法華宗二一人等云云。又云い天台業二一人一人令令讀讀經經止觀一此等

は天台宗の内に眞言宗をば入して候に候ぬれ。嘉祥元年六月十五日、格格云い右入唐廻テ請請益益傳傳燈燈法師位圓仁、表表備備伏伏尋尋天台宗、傳傳本朝ニ者延曆廿四年廿五年、特賜ト天台、年分度者二人一人、習習眞言、業一人、學學止觀、業一。然則天台宗、止觀、眞言兩業ハ者是桓武天皇之所ニ崇建一矣等云云。叡山にをいては天台宗にたいしては眞言宗の名をけづり天台宗を骨とし眞言をば肉となせるか。而レに末代に及て天台眞言兩宗中中あしうなりて骨と肉と分わ。座主は一向に眞言となる骨なき者のごとし大衆は多分天台宗なり肉なきもの、ごとし。佛法に諍とあるゆへに世間の相論も出來して叡山靜静ならず朝下にわづらい(類)多多。此等、大事を内内は存存べし。此法門はいまだをしぬざりさよくよく存知すべし。又念佛宗は法華經を背背て淨土の三部經につくゆへに阿彌陀佛を正として釋迦佛をあなづる。眞言師大日をせん(證)とをもうゆへに釋迦如來をあなづる。戒にをいては大小殊なれども釋尊を本とす餘佛は證明なるべし。諸宗殊なりとも釋迦を仰仰べきか。師子の中の蟲師子をくらう。佛教をば外道はやぶりがたし内道の内に事いできたりて佛道を失失べし佛の遺言なり。佛道の内には小乘をもて大乘を失失權大乘もて實大乘を失失べし此等は又外

道のごとし。又小乗權大乘よりは實大乘法華經の人人がかへりて法華經をば失はんが大事にて候べし。佛法の滅不滅は叡山にあるべし。叡山の佛法滅せるかのゆゑに異國我朝をほろぼさんとす。叡山の正法の失るゆゑに大天魔日本國に出來して法然大日等が身に入り。此等が身を橋として王臣等の御身にうつり住。かへりて叡山三千人に入ゆゑに師檀中不和にして御祈禱するしなし。御祈請するしなれば三千の大衆等檀那にすてはてられぬ。又王臣等問、天台眞言ノ學者問云、念佛禪宗等の極理は天台眞言とは一ツかとはせ給へば。名は天台眞言にかりて其心も辨ぬ高僧の天魔にぬかれて答云、禪宗の極理は天台眞言ノ極理なり彌陀念佛は法華經の肝心なりなんと答へ申なり。而を念佛者禪宗等のやつばら(奴原)には天魔乗うつりて當世の天台眞言の僧よりも智慧かしくきゆゑに全しからず。禪はほるかに天台眞言に超たる極理なり或云、諸教は理深我等衆生ノ解微なり。機教相違せり得道あるべからずなんと申すゆゑに。天台眞言等の學者王臣等檀那皆覆とられて御歸依なければ。現身に餓鬼道に墮て友の肉をはみ佛神にいかりをなし檀那をすう(呪咀)し。年年に災を起し或我生身の本尊たる大講堂ノ教主釋尊をやきはらい

或は生身の彌勒菩薩をほろぼす。進では教主釋尊の怨敵となり。退では常來彌勒の出世を過あやまたんとくるい候か。この大罪は經論にいまだとかれず。又此大罪は叡山三千人の失とがにあらず公家武家の失となるべし。日本一州上下萬人一人もなく謗法なれば大梵天王帝桓並天照大神等。鄰國の聖人に仰つけられ謗法をためさんとせらるゝか。例せば國民たりし清盛入道王法をかたふけ(傾)たてまつり。結句は山王大佛殿をやきはらいしかば天照大神正八幡山王等よりき(與カ)せさせ給て。源頼義が末頼朝仰下して平家をほろぼされて國土安穩なりき。今一國舉て佛神の敵となれり。我國に此國を領すべき人なきかのゆゑに大蒙古國は起とみへたり。例せば震旦高麗等は天竺についで(次)は佛國なるべし。彼國國禪宗念佛宗になりて蒙古にほろぼされぬ。日本國は彼二國の弟子なり二國のほろぼされんにあに此國安穩なるべしや。國をたすけ家ををばはん人人はいろぎ禪念が難事を經文のごとくいましめ(禁)らるべきか。經文のごとくならば佛神日本國にまします。かれを請まいらせんと術はねばろけならでは叶がたし。先世間の上下萬人云、八幡大菩薩は正直の頂たかねにやどり給。別のすみかなし等云云。世間に正直の人なければ大菩薩

のすみかまします。又佛法の中に法華經計りて正直の御經にてははれはしませ。法華經の行者なければ大菩薩の御すみかたはせざるか。但日本國には日蓮一人計りて世間出世正直の者にては候へ。其故は故最明寺入道に向て禪宗は天魔のろい(所爲)なるべし。のちに勘文もてこれをつげしらしむ。日本國の皆人無間地獄に墮べし。これほど有る事を正直に申すものは先代にもありがたくころ。これをもつて推察あるべし。外の小事曲まがべしや。又聖人は言ことばをかざらずと申す。又いまだ顯るる後をしるを聖人と申か。日蓮、聖人の一分にあたり此法門のゆへに二十餘所をわれ結句流罪に及ま身に多のさず(疵)をかをほ被り弟子をあまた殺つせたり。比干にもこゑ伍なし(子胥)にもをとらず。提婆菩薩の外道、殺師つ子尊者の檀彌利王だんみりに頸をはねられしにもをどるべきか。もししからは八幡大菩薩は日蓮が頂をはなれさせ給てはいづれの人の頂にかすみ給はん。日蓮を此國に用ずばいかんがすべきとなげかれ候なりと申す。又日蓮房の申候佛菩薩ぶつ並び諸大善神をかへしまいらせん事は別の術なし。禪念佛宗の寺寺を一つもなく失はし其僧らをいましめ。叡山の講堂を造り靈山の釋迦牟尼佛の御魂を請ま入りたてまつらざらん外は。諸神もかへり給へ

からず諸佛も此國を扶た給はん事はかたしと申す。

泰堂云、前略)法門可被申様ノ一書ハ三位房華洛ノ遊化聊カ大士ノ意ニ協ハザル事アリテ示教アリシ書也(中略)文中台教ニ興同、意アルモ進公京地弘化ノ爲ノ一時ノ手書ナレハ大士弘通ノ格例アリ

明治三十五年三月正中山ノ御眞蹟ニ拜照シ奉ル本書ノ題號ハ正中山ノ目錄ニ依ル(稻田海素慶記)

○眞間釋迦佛御供養逐狀

啓三五〇九

鈔二五三七

語五三三

拾八三

扶一五二八

釋迦佛御造立の御事。無始曠劫よりいまだ顯れましますぬ己心の一念三千の佛造り顯しませますか。はせまいりてをがみまいらせ候わばや。欲令衆生開佛知見乃至然我實成佛已來は是也。但し佛の御開眼の御事はいろぎいろぎ伊よ(尊)房をもてはたし(果)まいらせさせ給候へ。法華經一部御佛の御六根によみ入ままいらせて生身の教主釋尊になしまいらせてかへりて迎むかえ入りまいらせさせ給へ。自身並に子にあらずばいかんがと存候。御所領の堂の事等は大進の阿闍梨がききて候。かへすがへすがみ結縁しまいらせ候べし。いつや大黒を供養して候し其後より世間なげかずしてはするか。此度は大海のしほ(潮)の満るがごとく月の満するが如く。福きたり命いのちながく後生は靈山とればし

めせ。

九月二十六日

進上 富木殿御返事

日蓮花押

明治三十五年四月正中山御眞蹟ニ拜照シ奉ル(稻田海素慶記)

○大豆御書 微下四四 考八四九

大豆一石かしてまつて拜領し畢、法華經の御寶前に申上候。一滯の水を大海になげぬれば三災にも不_レ失_キ。一華を五淨によせぬれば劫火にもしぼまず。一豆を法華經になげぬれば法界みな蓮なり。恐惶謹言。

十月二十三日

日蓮花押

御所御返事

○金吾殿御返事 考三三三

止觀ノ五正月一日よりよみ候て現世安穩後生善處と祈請仕_レ候。便宜に給べく候。本末は失_レ候しかどもこれにすり(修理)させて候。多_ク本入ルベ

きに申候。

大師講鵝目五連給_レ候_ニ畢。此大師講三四年に始_レ候が今年は第一にて候つるに候。抑此法門之事勘文、依_テ有無_ニ可_レ弘_ル不_レ弘_カ之歟。去年方方に申_テ候しかどもいなせ(否應)の返事候はず候。今年十一月之比方方へ申_テ候へば少少返事あるかたも候。をばかた人の心もやわらぎてさもやとをばしたりげに候。又上のけさん(見参)にも入_テ候やらむ。これほどの僻事申_テ候へば流死の二罪の内は一定と存_シが。いま、でなにと申_ス事も候はぬは不思議とをばへ候。いたれる道理にて候やらむ。又自界叛逆難の經文も値_ベきにて候やらむ。山門なんどもいにしへ(古)にも百千萬億倍すぎて動搖とうけ給_レ候。うれならず子細ども候やらん。震旦高麗すでに禪門念佛になりて守護ノ善神の去_ルかの間彼ノ蒙古に聳_ル候。我朝_モ又此邪法弘_テて天台法華宗を忽_ル諸のゆへに山門安穩ならず。師檀違叛の國と成_リ候ぬれば十が八九はいかんがとみへ候。人身すでにうけぬ邪師又まぬがれぬ。法華經のゆへに流罪に及_ヒぬ今死罪に行れぬこ_ノ本意ならず候へ。あわれさる事の出來し候へかしとこ_ノうはげみ候て方方に強_ガ言をかきて擧_ゲをき候なり。すでに年五十に及びぬ餘命いくばくならず。いた

づらに曠野にすてん身を同くは一乘法華のかたになげて。雪山童子藥王菩薩の跡をたひ仙豫有得の名を後代に留て。法華涅槃經に説き入られまいらせんと願ところ也。南無妙法蓮華經。

十一月二十八日

日蓮花押

御返事

明治三十五年三月正中山ノ御眞蹟ニ拜照シ奉ル此鈔題下ノ端書無之且ツ鈔末「いたづらに」ヨリ以下闕失セシモ富士北山本門寺寶藏日澄上人手寫ノ本ニ依テ照校セリ 稻田海素慶記

○富木殿御返事

白米一ぼかひ(行器)本斗六升たしかに給候。とされう(齋料)も候はざりつるに悦入候。何事も見參にて申べく候。

乃時

花押

富木殿

○善無畏三藏鈔

微下ニ考五一

法華經は一代聖教の肝心八萬法藏の依りどころ也。大日經華嚴經般若經深密經等の諸の顯密の諸經は震旦月氏龍宮天上十方世界の國土の諸佛の説教恆沙塵數也。大海を視水とし三千大千世界の草木を筆としても書盡しがたき經經の中をも。或は此を見或は計り推するに法華經は最第一にれはします。而るを印度等の宗日域の間に佛意を窺はざる論師人師多くして。或は大日經は法華經に勝たり。或人人は法華經は大日經に劣るのみならず華嚴經にも及ばず。或人人は法華經は涅槃經般若經深密經等には劣る。或人人は邊邊あり互に勝劣ある故に。或人ノ云ク隨テ機ニ勝劣あり時機に叶へば勝れ叶はざれば劣る。或人ノ云ク有門より得道すべき機あれば空門をりしり有門をほむ。餘も是を以て知べしなんと申す。其時の人人の中に此法門を申しやぶる人なければ。れろかなる國王等深く是を信せさせ給ひ田畠等を寄進して徒黨あまたになりぬ。其義久く舊ぬれば只正法なんめりと打思て疑ふ事もなく過行程に末世に彼等が論師人師より智慧賢き人出來して。彼等が持つところの論師人師の立義一一に或は所依の經經に相違するやう。或は一代聖教の始末淺深等を辨へざる故に専ら經文を以て責申す時。各各宗宗の元祖の邪義難扶故に陳方を

失ひ。或は疑テ云ク論師人師定て經論に證文ありぬらん我智及ばざれば扶ケがたし。或は疑テ云ク我師は上古の賢哲なり今我等は末代の愚人なりなんと思フ故に。有徳高人をかたらひて怨のみなすなり。しかりといへども予自佗の偏黨をなげすて論師人師の料簡を闊て。專ラ經文によるに法華經は勝れて第一にれはすと得テ意侍る也。法華經に勝れてはする御經ありと申す人出來候はば思食べし。此は相似の經文を見たがへて申歟又人の私に我と經文をつくりて事を佛説によせて候歟。智慧れるかなる者辨へずして佛説と號するなどと思食べし。慧能が壇經善導が觀念法門經天竺震旦日本國に私に經を説キをける邪師其數多し。其外私に經文を作り經文に私の言を加へなんぞせる人人是多し。雖レ然 愚者、是を眞と思フ也。譬ば天に日月にすぎたる星有なんぞ申せば眼無き者はさもやなんと思はんが如し。我師は上古の賢哲汝は末代の愚人なんぞ申事をば愚なる者はさもやと思フ也。此不審は今に始りたるにあらず陳隋の代に智顛法師と申せし小僧一人侍りき後には二代の天子の御師天台智者大師と號し奉る。此人始りやしかりし時。但漢土五百餘年の三藏人師を破るのみならず月氏一千年の論師をも破せしかば。南北の智人等雲の如く起

り東西の賢哲等星の如く列りて雨の如く難を下し風の如く此義を破りしかども終に論師人師の偏邪の義を破して天台一宗の正義を立テにき。日域の桓武の御宇に最澄と申す小僧侍りき後には傳教大師と號し奉る。欽明已來の二百餘年の諸の人師の諸宗を破りしかば始は諸人いかりをなせしかども後には一同に御弟子となりにき。此等の人人の難に我等が元祖は四依の論師上古の賢哲也汝は像末の凡夫愚人也とて難じ侍りしか。正像末には依べからず實經の文に依べきが人には依べからず專ら道理に依べき歟。外道佛を難じて云ク汝は成劫の末住劫の始の愚人也我等が本師は先代の智者二天三仙是也なんぞ申せしかども。終に九十五種の外道とて捨られしか。日蓮八宗を勘へたるに法相宗華嚴宗三論宗等は權經に依て或は實經に同じ或は實經を下せり。是論師人師より誤りぬと見ぬ。俱舎成實は子細ある上律宗などは小乘最下の宗也。人師より論師權大乘より實大乘經なれば。眞言宗大日經等は未及ニ華嚴經等一何ニ況ヤ涅槃法華經等に及べしや。而るに善無畏三藏は華嚴法華大日經等の勝劣を判する時理同事勝の謬釋を作りしより已來。或はれごり(傲)をなして法華經は華嚴經にも劣りなん何ニ況ヤ眞言經に及べしや。或は云ク印眞言

のなき事は法華經に諍ふべからず。或は云く天台宗の祖師多く眞言宗を勝と云^と世間の思も眞言宗勝れたるなんめりと思へり。日蓮此事を計るに人多く迷ふ事なれば委細にかんがへたる也。粗餘處よそに注せり見るべし。又志あらん人人は存生の時習^と傳ふべし。人の多くれもふにはわらるべからず又時節の久近にも依べからず専ら經文と道理とに依べし。淨土宗は曇鸞道綽善導より誤り多くして多くの人人を邪見に入^れけるを。日本の法然是をうけ取て人ごとに念佛を信せしむるのみならず天下の諸宗を皆失はんとするを。叡山三千の大衆南都興福寺東大寺の八宗より是をせく(善)故に。代代の國王敕宣を下し將軍家より御教書をなしてせけ(善)ともことまらず。彌彌繁昌して返て主上上皇萬民等にいたるまで皆信伏せり。而るに日蓮は安房國東條片海かたふみの石中の賤民が子也威徳なく有徳のものにあらず。なにはにつけてか南都北嶺のどどめがたき天子ノ虎牙の制止に叶はざる念佛をふせぐべきとは思へとも。經文を龜鏡と定め天台傳教の指南を手ににぎりて。建長五年より今年文永七年に至るまで十七年が間是を責たるに。日本國の念佛大體留とどり了しまぬ眼前に是れ見わたり。又口にすてぬ人人はあれども心計りは念佛は生死をはなる道には

あらざりけると思ふ。禪宗以て如是。一を以て萬を知れ眞言等の諸宗の誤りにだに留ん事手ににぎりてればゆる也。況や當世の高僧眞言師等は其智牛馬にもれと^り螢火ほたるの光にもしかず。只死せるもの、手に弓箭をゆひつけ(結付)ねごとするものに物をとふが如し。手に印を結び口に眞言は誦よすれども其心中には義理を辨へる事なし。結句慢心は山の如く高く欲心は海よりも深し。是は皆自^ら經論の勝劣に迷ふより事起り祖師の誤りをたださざるによる也。所詮智者は八萬法藏をも習ふべし十二部經をも學すべし。末代濁惡世の愚人は念佛等の難行易行等をば抛て一向に法華經の題目を南無妙法蓮華經と唱へ給^つべし。日輪東方の空に出させ給へば南浮の空皆明かなり大光を備へ給へる故也。螢火ほたるは未^だ照^ら三國土^つ。寶珠は懷中に持ぬれば萬物皆ふらさずと云事なし。瓦石は財たからをふらさず。念佛等は法華經の題目に對すれば瓦石と寶珠と螢火と日光との如し。我等が昧眼を以て螢火の光^りを得て物の色を辨ふべしや。旁かた凡夫の叶とがたき法は念佛眞言等の小乘權經也。又我師釋迦如來は一代聖教乃至八萬法藏の說者也。此娑婆無佛の世の最先に出させ給て一切衆生の眼目を開き給^ふ御佛也。東西十方の諸佛菩薩も皆此佛の教をなるべし。譬ば皇帝已前

は人父をしらずして畜生の如し。堯王已前は四季を辨へず牛馬の癡なるに同じかりき。佛世に出させ給はざりしには比丘比丘尼の二衆もなく只男女二人にて候き。今比丘比丘尼の眞言師等大日如來を御本尊と定めて釋迦如來を下し。念佛者等が阿彌陀佛を一向に持て釋迦如來を抛なげたるも教主釋尊の比丘比丘尼也。元祖が誤りを傳へ來るなるべし。此釋迦如來は三の故ましまして佗佛にかはらせ給ひて娑婆世界の一切衆生の有縁の佛となり給ふ。一には此娑婆世界の一切衆生の世尊にてたはします。阿彌陀佛は此國の大王にはあらず。釋迦佛は譬ば我國の主上のごとし先ッ此國の大王を敬て後に佗國の王をば敬ふべし。天照太神正八幡宮等は我國の本主也迹化の後神のちと顯れさせ給ふ。此神になほひく人此國の主となるべからず。されば天照太神をば鏡にうつし奉りて内侍所ないじどころと號す。八幡大菩薩に敕使有て物申ものまをあはさせ給き。大覺世尊は我等が尊主也先ッ御本尊と定むべし。二には釋迦如來は娑婆世界の一切衆生の父母也先ッ我父母を孝し後に佗人の父母には及ばすべし。例せば周の武王は父の形かたちを木像に造て車くるまにのせて戰いくさの大將と定めて天威を蒙り殷の紂王をうつ。舜王は父の眼の旨めいたるをなげきて涙をながし手をもてのごひかしかば

本もとのごとく眼あきにけり。此佛も又如ごと是ごと我等衆生の眼をば開佛知見とは開き給しか。いまだ佗佛は開き給はず。三には此佛は娑婆世界の一切衆生の本師也。此佛は賢劫第九人壽百歳の時中天竺淨飯大王の御子十九にして出家し三十にして成道し。五十餘年が間一代聖教を説き八十にして御入滅。舍利を留めて一切衆生を正像末に救ひ給ふ。阿彌陀如來藥師佛大日等は佗土の佛にして此世界の世尊にてはまします。此娑婆世界は十方世界の中の最下の處譬ば此國土の中の獄門の如し。十方世界の中の十惡五逆誹謗正法の重罪逆罪の者を諸佛如來擯出し給しを釋迦如來此土にあつめ給ふ。三惡並に無間大城に墮て其苦をつぐのひて人中天上には生れたれども。其罪の餘殘ありてややもすれば正法を謗し罵のの智者ち罪つくりやすし。例せば身子は阿羅漢なれども瞋恚のけしきあり。畢陵は見思を斷せしかども慢心の形みゆ。難陀は姪欲を斷じても女人に交る心あり。煩惱を斷じたれども餘殘あり何に況や凡夫にをいてをや。されば釋迦如來の御名をば能忍と名なて此土に入給い一切衆生の誹謗をどがめずよく忍び給ふ故也。此等の祕術は佗佛のかけか給へるところ也。阿彌陀佛等の諸佛世尊悲願をねこさせ給て心にははぢかをねばし

めして。還て此界にかよひ四十八願十二大願などは起させ給ふなるべし。觀世音等の佗土の菩薩も亦復如是。佛には常平等の時は一切諸佛は差別なけれども。常差別の時は各各に十方世界に土をしめて有縁無縁を分ち給ふ。大通智勝佛の十六王子十方に土をしめて一一に我弟子を救ひ給ふ。其中に釋迦如來は此土に當り給ふ。我等衆生も又生を娑婆世界に受ぬいかにも釋迦如來の教化をばはなるべからず。而りといへども人皆是を不知。委く尋ねあきらめば唯我一人能爲救護と申て釋迦如來の御手を離るべからず。而れば此土の一切衆生生死を厭ひ御本尊を崇めんとればしめさば。必先釋尊を木畫の像に顯して御本尊と定めさせ給て。其後力ねはしまさば彌陀等の佗佛にも及べし。然るを當世聖行なき此土の人人の佛をつくりかへせ給に。先釋尊をささとするは其佛の御本意にも釋迦如來の御本意にも叶ふべからざる上。世間の禮儀にもはづれて候。されば優填大王の赤梅檀いまだ佗佛をばきざませ給はず千塔王の畫像も釋迦如來也。而るを諸大乘經による人人我所依の經經を諸經に勝れたりと思ふ故に教主釋尊をば次さまにし給ふ。一切の眞言師は大日經は諸經に勝れたりと思ふ故に此經に證とする大日如來を我等が有縁の佛と思ひ。念佛者等は觀經等を信する故に阿彌陀佛を娑婆有縁の佛と思ふ。當世はことに善導法然等が邪義を正義と思て淨土の三部經を指南とする故に。十造る寺は八九は阿彌陀佛を本尊とす。在家出家一家十家百家千家にいたるまで持佛堂の佛は阿彌陀也。其外木畫の像一家に千佛萬佛まします大旨阿彌陀佛也。而るに當世の智者とればしき人人是を見てわざはひとは思はずして我意に相叶ふ故に只稱美讚歎の心のみあり。只一向惡人にして因果の道理をも辨へず一佛をも不持者は還て失なきへんもありぬべし。我等が父母世尊は主師親三德を備て一切の佛に擯出せられたる我等を唯我一人能爲救護とはげませ給ふ。其恩大海よりも深し其恩大地よりも厚し其恩虚空よりも廣し。二の眼をぬいて佛前に空の星の數備ふとも。身の皮を剥いで百千萬天井にはることも涙を闕伽の水として千萬億劫佛前に花を備ふとも。身の肉血を無量劫佛前に山の如く積み大海の如く湛ふとも。此佛の一分の御恩を報し盡しがたし。而るを當世の僻見の學者等設ひ八萬法藏を極め十二部經を讀む大小の戒品を堅く持ち給ふ智者なりとも。此道理に背かば惡道を免るべからずと思食ふべし。例せば善無畏三藏は眞言宗の元祖烏長柰國の大王佛種王の太子也。

教主釋尊は十九にして出家し給き。此三藏は十三にして捨位^レ月氏七十箇國九萬里を歩^{あちまのり}回^りて諸經諸論諸宗を習傳へ。北天竺^{こんぞく}金粟王の塔の下にして天に仰ぎ祈請を致し給へるに虚空の中に大日如來を中央として胎藏界の曼荼羅^{まんだら}顯れさせ給ふ。慈悲の餘り此正法を邊土に弘んと思食^して漢土に入給ひ玄宗皇帝に奉^り授^け祕法^つ。早魃の時雨の祈をし給しかば三日が内に天より雨ふりしなり。此三藏は千二百餘尊の種子尊形三摩耶一事もくもりなし。當世の東寺等の一切の眞言宗一人も此御弟子に非るはなし。而るに此三藏一時^{あるとき}に頓死ありき。數多^{あまた}の獄卒來て鐵繩七すぢ懸たてまつり閻魔王宮に至る。此事第一の不審也。いかなる罪あて^有此責に値給ひけるやらん。今生は十惡は有もやすらん五逆罪は造らず。過去を尋ぬれば大國の王となり給ふ事を勤るに十善戒を堅く持ち五百の佛陀に仕へ給ふ也何の罪かあらん。其上十三にして捨位^レ出家し給き閻浮第一の菩提心なるべし。過去現在の輕重の罪も滅すらん其上月氏に所^レ流布^{スル}經論諸宗を習^ヒ極^メ給^ヒ也何の罪か消^へざらん。又眞言密教は佗に異なる法なるべし。一印一眞言なれども手に結び口に誦^すすれば三世の重罪も滅せずと云ことなし。無量俱低劫^{くたいこふ}の間所作^レ衆の罪障も此曼荼羅を見れば一時に皆消滅すところ申^シ候へ。況や此三藏は千二百餘尊の印眞言を諳^まに浮べ即身成佛の觀道鏡に懸^かり兩部灌頂の御時大日覺王となり給き。如何にして閻魔の責に豫り給けるやらん。日蓮は顯密二道の中に勝^しさせ給^て我等易^{やす}易^{やす}と生死を離るべき教に入^らんと思候て。眞言の祕教をあらあら習ひ此事を尋ね勤るに一人として答をする人なし。此人惡道を免れずは當世の一切の眞言並に一印一眞言の道俗三惡道の罪を免るべきや。日蓮此事を委^まく勤るに二^つの失有^りて閻魔王の責に豫り給へり。一^つには大日經は法華經に劣るのみに非ず涅槃經華嚴經般若經等にも及ばざる經にて候を。法華經に勝れたりとする謗法の失也。二^つには大日如來は釋尊の分身也而るを大日如來は教主釋尊に勝れたりと思ひし僻見也。此謗法の罪は無量劫の間千二百餘尊の法を行すとも惡道を免るべからず。此三藏此失難^が免^れ故に諸尊の印眞言を作^なごも叶はざりしかば。法華經第二譬論品の今此三界皆是我有其中衆生悉是吾子而今此處多諸患難唯我一人能爲救護の文を唱へて鐵の繩を免れさせ給き。而るに善無畏已後の眞言師等は日經は一切經に勝るゝのみに非ず法華經に超過せり。或は法華經は華嚴經にも劣るなんご申人もあり。此等は人は異なれども其謗

ば一時に皆消滅すところ申^シ候へ。況や此三藏は千二百餘尊の印眞言を諳^まに浮べ即身成佛の觀道鏡に懸^かり兩部灌頂の御時大日覺王となり給き。如何にして閻魔の責に豫り給けるやらん。日蓮は顯密二道の中に勝^しさせ給^て我等易^{やす}易^{やす}と生死を離るべき教に入^らんと思候て。眞言の祕教をあらあら習ひ此事を尋ね勤るに一人として答をする人なし。此人惡道を免れずは當世の一切の眞言並に一印一眞言の道俗三惡道の罪を免るべきや。日蓮此事を委^まく勤るに二^つの失有^りて閻魔王の責に豫り給へり。一^つには大日經は法華經に劣るのみに非ず涅槃經華嚴經般若經等にも及ばざる經にて候を。法華經に勝れたりとする謗法の失也。二^つには大日如來は釋尊の分身也而るを大日如來は教主釋尊に勝れたりと思ひし僻見也。此謗法の罪は無量劫の間千二百餘尊の法を行すとも惡道を免るべからず。此三藏此失難^が免^れ故に諸尊の印眞言を作^なごも叶はざりしかば。法華經第二譬論品の今此三界皆是我有其中衆生悉是吾子而今此處多諸患難唯我一人能爲救護の文を唱へて鐵の繩を免れさせ給き。而るに善無畏已後の眞言師等は日經は一切經に勝るゝのみに非ず法華經に超過せり。或は法華經は華嚴經にも劣るなんご申人もあり。此等は人は異なれども其謗

法の罪は同じ歟。又善無畏三藏法華經と大日經と大事とすべしと深理をば同せさせ給ししかども。印と眞言とは法華經は大日經に劣りけることばせし僻見計り也。其已後の眞言師等は大事の理をも法華經は劣りりと思へり印眞言は又不レ及以申ス。謗法の罪遙にかさみたり。閻魔の責にて墮獄の苦を延べしとも見へず直に阿鼻の炎ほのほをや招くらん。大日經には本一念三千の深理なし此理は法華經に限ルべし。善無畏三藏天台大師の法華經の深理を讀出させ給しを盜み取て大日經に入れ。法華經の莊嚴として説れて候大日經の印眞言を彼經の得分と思へり。理も同シと申スは僻見也眞言印契を得分と思ふも邪見也。譬ば人の下人の六根は主の物なるべし而るを我財たからと思ふ故に多くの失出とが來る。此譬を以て可レ解ル諸經ヲ劣る經に説く法門は勝たる經の得分と成べきなり。而るを日蓮は安房、國東條の郷清澄山きよさやまの住人也。幼少の時より虚空藏菩薩に願を立て云く日本第一の智者となし給へと云云。虚空藏菩薩眼前に高僧とならせ給て明星の如くなる智慧の寶珠を授させ給き。其しるしにや日本國の八宗並に禪宗念佛宗等の大綱粗伺ひ侍りぬ。殊には建長五年の比より今文永七年に至るまで此十六七年の間禪宗と念佛宗とを難ずる故に。禪宗念佛宗の學者

蜂の如く起り雲の如く集る。是をつむ詰る事一言二言には過ず。結句は天台眞言等の學者自宗の廢立を習ひ失て我心と佗宗に同じ。在家の信をなせる事なれば彼邪見の宗を扶ツんが爲に天台眞言は念佛宗禪宗に等しと料簡しなして日蓮を破するなり。此は日蓮を破する様なれども我と天台眞言等を失ふ者なるべし能能恥べき事也。此諸經諸論諸宗の失とがを辨わける事は虚空藏菩薩の御利生本師道善御房の御恩あるべし。龜魚かめうしすら恩を報ずる事あり何ニ況ヤ人倫をや。此恩を報せんが爲に清澄山に於て佛法を弘め道善御房を導き奉んと欲す。而るに此人愚癡にねはする上念佛者也三惡道を免るべしとも見わず。而も又日蓮が教訓を用ふべき人にあらず。然れども文永元年十一月十四日西條華房の僧坊にして見參に入し時。彼人ノ云ク我智慧なければ請用しょうようの望もなし年老ていらへ綵なければ念佛の名僧をも不レ立たて世間に弘まる事なれば唯南無阿彌陀佛と申計ケ也。又我心より起らざれども事の縁有て阿彌陀佛を五體まで作り奉る。是又過去の宿習なるべし。此科に依て地獄に墮おべきや等云云。爾時に日蓮意に念はく別して中違なかたがひまいらす事無れども。東條左衛門入道蓮智が事に依て此十餘年の間は見奉らず。但し中不和なるが如し。穩便の義を存

じれだやかに申事こり禮義なれとは思しかども。生死界の習ひ老少不定也
又二度見參の事難かるべし。此人の兄道義房義尙此人に向て無間地獄に墮べ
き人と申て有しが。臨終思つゞ様にもましまさざりけるやらん此人も又しかる
べしと哀れに思し故に思切つゞて強強に申たりき。阿彌陀佛を五體作り給へる
は五度無間地獄に墮給ふべし。其故は正直捨方便の法華經に釋迦如來は我等
が親父阿彌陀佛は伯父おぢと説せ給ふ。我伯父をば五體まで作り供養せさせ給て
親父をば一體も造り給はざりけるは豈不孝の人に非ずや。中中山人やまかた海人あまなん
どが東西をしらず一善をも修せざる者は還て罪淺き者なるべし。當世道心
者が後世を願ふとも法華經釋迦佛をば打捨て阿彌陀佛念佛なんごを念念に
不捨な申すはいかがあるべかるらん。打見る處は善人とは見なれども親を
捨て、佗人につく失免とがるべしとは見ぬす。一向惡人はいまだ佛法に歸せず釋
迦佛を捨奉る失も不見エ。有緣信する邊もや有んずらん。善導法然並に當世
の學者等が邪義に就て阿彌陀佛を本尊として一向に念佛を申人人は。多生曠
劫をふるとも此邪見を翻へして釋迦佛法華經に歸すべしとは見ぬす。されば
雙林最後の涅槃經に十惡五逆よりも過てをうろしき者を出させ給ふに。謗法

闡提と申て二百五十戒を持ち三衣一鉢を身に纏へる智者共の中にこり有べし
と見ぬ侍れど。こまごまと申て候しかば此人もこゝろゆるげに思てればしき。
傍座の人人もこゝろゆるげにをまはれしかども。其後承りしに法華經を持た
るゝの由承りしかば。此人邪見を翻し給ふ歎善人に成なり給ぬと悦び思ひ候處
に。又此釋迦佛を造らせ給事申計つなし。當座には強つなる様に有しかども法
華經の文のまゝに説候しかばかう斯なれさせ給へり。忠言逆ヒ耳ニ良藥苦シ
口ニと申事は是也。今既に日蓮師の恩を報ず定て佛神納受し給はん歎。各各此
由を道善房に申聞せ給ふべし。假令強言なれども人をたすくれば實語實語
なるべし。設ひ輒語なれども人を損ずるは妄語強言也。當世學匠等の法門は
輒語實語と人人は思食したれども皆強言妄語也。佛の本意たる法華經に背く
故なるべし。日蓮が念佛申す者は無間地獄に墮べし禪宗眞言宗も又あつ謬りの宗
也なんご申候は。強言とは思食すとも實語輒語なるべし。例せば此道善御
房ノ法華經を迎へ釋迦佛を造ラせ給事は日蓮が強言より起る。日本國の一切衆
生も亦復如シ是。當世此十餘年已前は一向念佛者にて候しが。十人が一二人は
一向に南無妙法蓮華經と唱へ二三人は兩方になり。又一向念佛申す人も疑ヒ

をなす故に心中に法華經を信じ又釋迦佛を書き造り奉る。是亦日蓮が強言より起る。譬は栴檀は伊蘭より生じ蓮華は泥より出たり。而るに念佛は無間地獄に墮ると申せば。當世牛馬の如くなる智者どもが日蓮が法門を假染にも毀るは。糞犬が師子王をばへ癡猿が帝釋を笑ふに似たり。

文永七年

日蓮花押

義淨房淨顯房

○眞言七重勝劣 微上二ハ考三二ハ

- 一 法華大日二經七重勝劣事
- 一 尸那扶桑人師判一代事
- 一 鎮護國家三部事
- 一 内裏有三寶當内典三部事
- 一 天台宗歸伏人人四句事
- 一 今經位配人事
- 一 三塔事

一 日本國佛神座席事

法華大日ノ二經ノ七重勝劣ノ事

- 一 法華經第一 已今當第一 藥王今告汝於諸經中最在其上 本門第一 迹門第二
- 一 涅槃經第二 是經出世
- 一 無量義經第三 次說方等十二部經摩訶般若 華嚴海空眞實甚深眞實甚深
- 一 華嚴經第四
- 一 般若經第五 上ニ云ク於三三部ノ中一此經ヲ爲レ王ト。中ニ云ク猶不二成就一者當レ作ニ此法一決定成就ヲ。所謂乞食精勤念誦大恭敬。巡八聖跡。禮拜行道或ハ復轉ニ讀メ大般若經七遍或ハ一百遍一。下ニ云ク三時常ニ讀ニ大乘般若等ノ經一。
- 一 蘇悉地經第六 三國ニ未ニ弘通一法門也
- 一 大日經第七

尸那扶桑ノ人師判ニ一代ノ聖教ヲ事

華嚴經第一

涅槃經第二

法華經第三

般若經第一

法華經第一

涅槃經第二

華嚴經第二

深密經第一

法華經第二

般若經第三

華嚴經第一

法華經第二

涅槃經第二

大日經第一

法華經第二

南北ノ義 晉齊等五百餘年。三百六十餘人以ニ光宅一爲ノ長

吉藏ノ義 梁代ノ人也

南岳ノ御弟子也

天台智者大師ノ御義 陳隋二代ノ人

妙樂等用レ之

玄奘ノ義 唐ノ始太宗ノ御宇ノ人ナリ

法藏澄觀等ノ義 唐ノ半ハ則天皇后ノ御宇ノ人

善無畏不空等ノ義 唐ノ末玄宗ノ御宇ノ人ナリ

諸 經第三

法華經第一

涅槃經第二

諸 經第三

大日經第一

華嚴經第二

法華經第三

大日經第一

法華經第二

諸 經第三

傳教ノ御義 人王五十代桓武ノ御宇及ヒ平城嵯峨之御代ノ人。比叡山延曆寺

弘法ノ義 人王五十二代嵯峨淳和二代ノ人。東寺高野等

以ニ善無畏一爲レ師ト仁明文常清和ノ三代

慈覺ノ義 叡山講堂總持院

智證同レ之ニ。園城寺

鎮護國家ノ三部ノ事

法華經

密嚴經

仁王經

不空三藏 大曆ニ法華寺ニ置レ之ヲ。大曆二年改ニ護摩寺ニ立ニ法華寺一 中央ニ法華經脇士ニ兩部ノ大日ニ

法華經

人王三十四代推古天皇ノ御宇

淨名經

聖德太子 四天王寺ニ置レ之ヲ。攝津國難波郡佛法最初ノ寺也

勝鬘經

法華經

人王五十代桓武天皇ノ御宇

金光明經

傳教大師 比叡山延曆 止觀院ニ置レ之ヲ

仁王經

年分得度者 一人遮那業 一人止觀業

大日經

人王五十四代仁明天皇ノ御宇

金剛頂經

慈覺大師 比叡山東塔ノ四總持院ニ被レ置レ之ヲ

蘇悉地經

御本尊大日如來金蘇ノ二疏十四卷被ニ安置

内裏ニ有ニ寶ニ當ニ内典ノ三部ニ事

神

璽 國ノ手驗也

寶

劍 禦ク國敵ヲ財也

平家亂ノ時ニ入レ海不レ見

内侍所

天照太神影ヲ浮給神鏡ト云フ

左馬頭賴茂 被レ打燒失

天台宗ニ歸伏人人ニ有ニ四句

一ニ身心俱ニ移ル

三論ノ嘉祥大師 華嚴ノ澄觀法師

二ニ心移身不レ移ラ

眞言ノ善無畏不空 華嚴ノ法藏 法相ノ慈恩

三ニ身移心不レ移ラ

慈覺大師 智證大師

四ニ身心俱ニ不レ移ラ 弘法大師

今經ノ位ヲ配レ人ニ事

征夷將軍

鎌倉殿

無量義經

攝政

涅槃經

院

迹門十四品

天子

本門十四品

三塔ノ事

置ニ止觀遮那ノ二業一。本尊藥師如來。

中

堂—傳教大師御建立 延暦年中御建立王城ノ丑寅ニ當ル

桓武天皇ノ御崇重。天子本命ノ道場ト云

止

觀院

天然ニハ鸞鷲山ト云振旦ヨハ天台山ト云扶桑ニハ比叡山ト云。
三國傳燈ノ佛法此ニ極リ

鎮護國家ノ道場ト云。本尊大日如來ト

講

堂—慈覺大師ノ建立 承和年中ノ建立。止觀院ノ西ニ置ニ眞言三部一是ヲ東塔ト云也

總持院

傳教ノ御弟子第三ノ座主

西塔

釋迦堂—圓澄ノ建立

寶藏院

傳教ノ御弟子

横川

觀音堂—慈覺ノ建立

楞嚴院

日本國佛神ノ座ノ事

問フ吾朝以ニ何佛ヲ爲シ一ノ座ト以ニ何法ヲ爲シ一ノ座ト以ニ何僧ヲ爲シ一ノ座ト耶。答フ以テ觀世音菩薩ヲ爲シ一ノ座ト以テ眞言ノ法ヲ爲シ一ノ座ト以テ東寺ノ僧ヲ爲シ一ノ座ト也。問フ日本國王三十代ニ佛法渡リ始テ後山寺雖ニ種種ニ以テ延暦寺ヲ天子本命ノ道場ト定メ鎮護國家ノ道場ト定ム。然日本最初ノ本尊釋迦ヲ爲シ一ノ座ト。不レ然ラ延暦寺ノ藥師ト以テ爲シ一ノ座ト歟。又代代ノ帝王起請ヲ書テ山ノ弟子トならんと定メ給フ。故ニ以テ法華經ヲ爲シ法ノ一ノ座ト以テ延暦寺ノ僧ヲ可レ爲シ一ノ座ト。何ゾ佛ヲ本尊トせず以テ菩薩ヲ爲シ諸佛ノ一ノ座ト哉。答フ尤モ雖レ可レ然ル慈覺ノ御時叡山は眞言になる東寺は弘法ノ眞言ヲ建立ス故ニ共に眞言師也。共に眞言師なるが故に東寺ヲ本とし眞言ヲ崇ム。眞言ヲ崇ムる故に觀音を以テ本尊トす。眞言には菩薩ヲば佛にまされりと談スる也。故に内裏に毎年正月八日内道場ノ法被レ行ハ東寺ノ一ノ長者ヲ召テ被レ行ハ。若一ノ長者不レ有ラ暇二ノ長者可レ行フ三までは不レ可レ及ニ云云。故に佛には觀音法には眞言僧には東寺ノ法師也。比叡山ヲば鬼門ノ方ト下スレ之ヲ譬ハ如シ武士ト云テ不レ崇ム。故に日本國は亡國トならんとス。問フ神ノ次第如何。答フ天照太神ヲ爲シ一ノ座ト八幡大菩薩ヲ爲シ第二ノ座ト是より巳下ノ神は三千二百三十二社也。

高祖遺文錄卷之十一

○真言天台勝劣事

啓三五 鈔二五一 語五二〇 音下四二 拾七四九 扶一四一四

問、依何經論立真言宗耶。答、大日經金剛頂經蘇悉地經並菩提心論依此三經一論立真言宗也。問、大日經與法華經一何勝耶。答、法華經或ハ七重或ハ八重勝也。大日經ハ七八重劣也。難云、驚云、自古至今、自法華一真言劣云、義都無之。依之弘法大師立十住心法華、自真言三重劣釋給へり。覺錄は法華は真言の履取に不レ及釋せり。打任ては密教勝れ顯教劣也と世譽て此を許す七重の劣と云義は甚珍者をや。答、真言は七重の劣と云事珍と義也と被驚理也。所以に法師品云、已ニ説今説當説而於其中一此法華經最爲難信難解云云。又云、於諸經中、最在其上云云。此文の心は法華は一切經の中に勝たり。次に無量義經云、次説方等十二部經摩訶般若華嚴海空云云。又云、眞實甚深甚深甚深云云。此文の心は無量義經は諸經の中に勝て甚深の中にも猶甚深也。然ごも法華の序分にして機もいまだなましき不熟故に正説の法華には劣也。次に涅槃經九云、是經出世如彼

果實多所利益安樂一切能令衆生見於佛性。如法華中、八千聲聞得授記、一成大果實、如秋收冬藏、更無所作云云。籤ノ一云、一家ノ義意謂、二部同味、然涅槃尙劣云云。此文の心は涅槃經も醍醐味。同醍醐味なれども涅槃經は尙劣也。法華經は勝たりと云へり。涅槃經は既に法華の序分の無量義經よりも劣り醍醐味なるが故に華嚴經には勝たり。次に華嚴經は最初頓説なるが故に般若には勝れ涅槃經の醍醐味には劣れり。次に蘇悉地經云、尙不成者或復轉讀大般若經七遍云云。此文の心は大般若經は華嚴經には劣り蘇悉地經には勝と見たり。次に蘇悉地經云、於三部中此經爲王云云。此文の心は蘇悉地經は大般若經には劣り大日經金剛頂經には勝と見たり。以テ此義大日經は法華經より七重の劣とは申也。法華本門に望れば八重の劣とも申也。次に弘法大師の立十住心法華は三重劣と云事は。安然の教時義と云文に十住心の立様を破して云、五の失有り。謂、一者大日經の義釋に違する失。二者金剛頂經に違する失。三者守護經に違する失。四者菩提心論に違する失。五者衆師に違する失也。此五の失を陳する事無してつまり給へり。然間法華は眞言より三重の劣と釋し給

へるが大なる僻事也。謗法に成ぬと覺ゆ。次に覺鏖の法華は眞言の履取に不_レ及と舍利講の式に書たるは任_レ舌_ニ言_ニ也。無_キ證據_一故_ニ專_ラ可_シ謗法_一。次に舉_レ世_テ密教勝_レ顯教劣_一許_レ此_ラ云_フ事_ニ是_レ偏_ニ信_ニ弘法_ヲ不_レ信_レ法_ヲ也。所以に弘法をば安然和尚有_ニ五失_ニ云_テ不_レ用_レ時_ニは世間の人は何様に密教勝と可_レ思_フ。抑密教勝_レ顯教劣_一とは何の經に説たるや。是又無_キ證據_ニ事_ヲを舉_テ世_ヲ申_ス也。猶難_ニ云_フ大日經等は是中央大日法身無始無終の如來法界宮或は色究竟天化自在天にして爲_ニ菩薩_ノ説_ニ眞言_ヲ給_ヘり。法華は釋迦應身靈山にして爲_ニ二乘_ノ説_ニ給_ヘり或は釋迦は大日の化身也とも云へり。成道の時は大日の印可を蒙_テ唵_字の觀を被_レ教_ヘ後夜に佛になる也。大日如來だにもましまさずば争か釋迦佛も佛に成給へま。以_テ此等_ノ道理_ヲ案_スるに法華より眞言勝たる事は不_レ及_ニ云_ニ也。答_テ云_フ依法不依人の故にいかやうにも經説のやうに可_レ依_也。大日經は釋迦の大日となて説_ニ給_ヘる經也故に金光明_ト最勝王經_ト第一には中央釋迦牟尼と云へり。又金剛頂經_ノ第一にも中央釋迦牟尼佛と云へり。大日と釋迦とは一の中_ニ大_ニの佛なるが故に大日經をば釋迦の説とも云べし大日の説とも云べし。又毗盧遮那と云は天竺の語大日と云は此土の語也。釋迦牟尼_ヲ名_ニ毗盧遮那_トと云時は

大日は釋迦の異名也。加之_ラ舊譯の經に盧舍那と云をば新譯の經には毗盧遮那と云。然間新譯の經の毗盧遮那法身と云は舊譯の經の盧舍那陀受用身也。故に大日法身と云は法華經の自受用報身にも不_レ及_レ況_ニ法華經の法身如來にはまして不_レ可_レ及_レ法華經の自受用身と法身とは眞言には絶_レ分_{不_レ知_也。法報不分_ニ三_ノ莫_レ辨_と天台宗にもさらはる_レ也。隨_テ華嚴經の新譯には或_ハ稱_ニ釋迦_ト或_ハ稱_ニ毗盧遮那_トと説_ケり故に大日は只是釋迦の異名也。なにしに別の佛とは可_レ得_レ意_也。次に法身の説法と云事何_レの經の説_テや。弘法大師の二教論には依_テ楞伽經_ニ立_テ法身_ノ説法_ヲ給_ヘり。其楞伽經と云は釋迦の説にして未顯眞實の權教也。法華經の自受用身に及ばざれば法身の説法とはいへごもいみじくもなし。此上に法_ハ定_テ不_レ説_{報_ハ通_ニ二義_ニの二身の有_ルをば一向不_レ知_也。故に大日法身の説法と云は定_テ當_ニ法華_ノ陀受用身_ニ也。次に大日無始無終と云事既に我昔_シ坐_ニ道場_ニ降_ニ伏_ス於_ニ四魔_トとも宣_ベ又降_ニ伏_シ四魔_ヲ解_ニ脱_シ六趣_ヲ滿_ニ足_ス一切智智之明_ヲ等_ニ云_云。此等の文は大日は始て四魔を降伏して始て佛に成_テこ_レ見_{たれ}全く無始の佛とは不_レ見_也。又佛に成_テ何程を經ると不_レ説_カ事は權經の故也實經にこ_レ五百塵點等をも説_キたれ。次に法界宮_者色究竟天_歟又何_レの處_テ}}

や。色究竟天或は陀化自在天は法華宗には別教の佛の説處と云ていみじからぬ事に申す也又爲菩薩の説とも高名もなし。例せば華嚴經は一向菩薩の爲なれども尚法華の方便と云はるれ。只佛出世の本意は難成佛ニ二乗の佛に成るを一大事とし給へり。されば大論には二乗の佛に成を密教と云ひ二乗作佛を不説顯教と云へり。此趣ならば眞言の三部經は二乗作佛の旨無が故に還て顯教と云ひ法華は二乗作佛を旨とする故に密教と可云也。隨て諸佛祕密之藏と説は無子細。世間の入密教勝と云はいかやうに得意耶。但し若於顯教ニ修行者久經ニ三大無數劫等ト云へるは既に三大無數劫と云故に。是指ニ三藏四阿合經ニ顯教と云て權大乘までは不云。況や法華實大乘までは都て不云也。次に釋迦は大日の化身唵字を被レ教へて佛には成たれと云事此は偏に六波羅蜜經の説也。彼經一部十卷は是釋迦の説也非ニ大日説也。是未顯眞實の權教也。隨て成道の相も三藏教の教主の相也六年苦行の後の儀式なるをや。彼經説の五味と天台は盜取て立己カ宗ニ云ふ無實を被ニ云付弘法大師の大なる辭事也。所以に天台は依ニ涅槃經ニ立給へり全く六波羅蜜經には不依。況天台死去の後百九十年あて貞元四年に渡る經也何として天台は見給べき。

不實の過弘法大師にあり。凡る彼經説は皆未顯眞實也以テ之ヲ法華經を下さん事甚た荒量也。猶難云ク如何に云とも印眞言三摩耶尊形を説事は大日經程法華經には無ク之。事理俱密の談は眞言ひとりす。されたり。其上眞言、三部經は釋迦一代五時の攝屬に非ず。されば弘法大師の寶鑰には釋摩訶衍論を證據として法華は無明の邊域戲論の法と釋し給へり。爰を以て法華劣り眞言勝と申す也。答凡印相尊形は是權經の説にして非ニ實教、談ニ設レ之權實大小の差別淺深有べし。所以に阿合經等にも印相有が故に必法華に印相尊形を不レ得レ説非レ不レ説之ヲ。説クまじければ是を説かぬに可有れ。法華は只三世十方の佛の本意を説て其形がとあるからあるとは不レ可云。例せば世界建立の相を説かねばとて法華は俱舍より劣るとは不レ可云。次に事理俱密の事法華は理祕密眞言は事理俱密なれば勝とは何レの經に説るや。抑法華の理祕密者何様の事や。法華の理者迹門開權顯實の理歟其理は眞言には絶テ分不レ知理也。法華の事者又久遠實成の事也此事又眞言になし。眞言に所云事理は未開會の權教の事理也何ヲ法華に可レ勝乎。次に一代五時の攝屬に非と云事是自レ往古一證也。唐決には四教有が故に方等部に攝すと云へり。教時義

には一切智智一味の開會を説^クが故に法華の攝と云へり。二義の中に方等の攝と云は吉義也。所以に一切智智一味の文を以て法華の攝と云事甚だいはれなし。彼は法開會の文にして全く人開會なし争か法華の攝と云るべき。法開會の文は方等般若にも盛に談ずれども法華に等^し事なし。彼大日經の始終を見^ルに四教の旨具^にあり尤^モ方等の攝と可^レ云。所以に開權顯實の旨不^レ有法華と云まじ。一向小乘三藏の義無れば阿含部とも不^レ可^レ云。般若畢竟空を説かねば般若部とも不^レ可^レ云。大小四教の旨を説が故に方等部と不^レ云者何れの部とか云ん。又一代五時を離て外に有^レ佛法不^レ可^レ云若^ク有らば二佛並^ニ出^ルの失あらん。又其法を釋迦統領の國土にきたして不^レ可^レ弘。次に弘法大師釋摩訶衍論を爲^テ證據^ト法華を無明の邊域戲論の法と云事是以の外の事也。釋摩訶衍論者龍樹菩薩の造也。是釋迦如來の御弟子也争か以^テ弟子論^ヲ師の一代第一と被^レ仰^セ法華經を押下^{シテ}戲論の法等と可^レ云耶。而も論に無^ク其明文^ニ隨て彼論の法門は別教の法門也權教の法門也。是圓教に不^レ及^ク又非^ニ實教^ニ何^カしてか法華を可^レ下^ス。其上彼論に幾^クの經をか引らん。されども法華經を引事は都て無^シ之權論の故也。地體弘法大師の華嚴より法華を下されたる

は遙に佛意にはくひ違^ヒたる心地也。不可^レ用不可^レ用。

日蓮花押

○秋元殿御返事 考八四

御文委^ク承^リ候^ヒ畢^シ。御文ニ云^ク末法の始五百年にはいかなる法を弘むべしと思ひまいらせ候しに。聖人の仰を承^リ候に法華經の題目に限て可^レ弘^ム由聽聞申して御弟子の一分に定り候。殊に五節供はいかなる由來何なる所表何を以て正意としてまつり候べく候や云云。夫此事は日蓮委^ク知る事な^リ。雖然^ト粗得^テ意候。根本大師の御相承ありげに候總じて眞言天台兩宗の習也。委^ハ曾谷殿へ申候次での御時は御談合あるべ^ク歟。先^ツ五節供の次第を案するに妙法蓮華經の五字の次第の祭^リ也。正月は妙の一字のまつり天照太神を歲の神とす。三月三日は法の一字のまつり也辰^ヲを以て神とす。五月五日は蓮の一字のまつり也午^ヲを以て神とす。七月七日は華の一字の祭^リ也申^ヲを以て神とす。九月九日は經の一字のまつり戌^ヲを以て神とす。如^ク此得^テ心南無妙法蓮華經と唱へさせ給へ現世安穩後生善處疑^ヒなかるべし。法華經の行者をば一切の諸天不退に守護す

べき經文分明也。經の第五云、諸天晝夜常爲法、故而衛護之云云。又云、天、諸童子以爲給使、刀杖不加、毒不能害云云。諸天者梵天帝釋日月四大天王等也。法者法華經也。童子者七曜二十八宿摩利支天等也。臨兵戰者皆陳列在前是又刀杖不加の四字也。此等は隨分の相傳也能案給べし。第六云、一切世間、治生產業、皆與實相不相違背云云。五節供の時も唯南無妙法蓮華經と唱へて悉地成就せしめ給へ委細は又又可申候。次に法華經は末法の始、五百年に弘まり給ふべきと聽聞仕り御弟子となること仰候事。師檀となる事は三世の契り種熟脱の三益別人を求んや。在在諸佛土常與師俱、生若親近法師、速得菩提、道隨順是師一學得見恆沙佛の金言違ふべきや。提婆品云、所生之處常聞此經の人はあに貴邊にあらずや。其故は次、上に未來世中若有善男子善女人と見たり。善男子とは法華經を持つ俗の事也。彌信心をいたし給へし信心をいたし給へし。恐恐謹言。

正月十一日

日蓮花押

秋元殿御返事

安房國はた(保田)より出

○壽量品得意鈔 考五四二

教主釋尊壽量品を説給に。爾前迹門のき、(所聞)をあげて云、一切世間、天人及阿脩羅、皆謂今釋迦牟尼佛出釋氏宮去伽耶城不遠坐於道場得阿耨多羅三藐三菩提云云。此文の意は初華嚴經より終法華經安樂行品に至まで。一切の佛の御弟子大菩薩等の知る處の思の心中をあげたり。爾前の經に二つの失あり。一には存行布故仍未開權と申て迹門方便品の十如是の一念三千開權顯實二乗作佛の法門を不説過也。二には言始成故尙未發迹と申て久遠實成の壽量品を不説過也。此二つの大法は一代聖教の綱骨一切經の心髓也。迹門には二乗作佛を説て四十餘年の二つの失一つを脱したり。雖然未説壽量品實の一念三千もあらはれず二乗作佛も不定。水にやぎる月の如く無根草の浪の上に浮べるに異ならず。又云、然善男子我實成佛已來無量無邊百千萬億那由佉劫等云云。此文の心は華嚴經の始成正覺と申て始て佛になると説給ふ阿含經の初成道淨名經の始坐佛樹大集經の始十六年大日經の我昔坐道場仁王經の二十九年。無量義經の我先道場法華經方便品

の我始坐道場等を一言に大虚妄也と打破る文也。本門壽量品に至て始成正覺やぶるれば四教の果やぶれ四教の果やぶれぬれば四教の因やぶれぬ。因とは修行弟子ノ位也。爾前迹門の因果を打破て本門の十界因果をときあらはす是則本因本果の法門也。九界も無始の佛界に具し佛界も無始の九界にうなへて。實の十界互具百界千如一念三千なるべし。かうしてかへ(返)てみるときは。華嚴經の臺上盧舍那阿含經の丈六の小釋迦方等般若金光明經阿彌陀經大目經等の權佛等は。此壽量品の佛の天月のしばらくかげ(影)を大小のうつはもの(器物)に浮べ給を。諸宗の智者學匠等は近々は自宗にまどひ遠々は法華經の壽量品を不知。水中の月に實月のれもひをなして。或は入て取んとれもひ或は繩をつけてつなぎとどめんとす。此を天台大師釋云々不識天月但觀池月と。心は爾前迹門に執著する者はうら(天)の月をしらずして但池の月をのぞみ見が如くなりと釋せられたり。又僧祇律の文に五百の(ましろ)山より出でて水にやどれる月をみて入てとらんとしけるが。實には無き水月なれば月とられずして水に落入て猿は死にけり。猿者今ノ提婆達多六群比丘等也とあかし給へり。一切經の中に此壽量品ましまさずは天に無き日月二國に大王なく山海に玉なく人

にたましむ無らんがごとし。されば壽量品なくしては一切經いたづらごとなるべし。無根草ひさしからずみなもとなき河、遠からず無親子、人にいやしまる。所詮壽量品の肝心南無妙法蓮華經ころ十方三世の諸佛の母にて御坐候へ。恐恐謹言。

四月十七日

日蓮花押

○四條金吾女房御書

微上考三三

懐胎のよし承候^ニ畢。うれについては符の事仰候。日蓮相承の中より撰み出して候能能信心あるべく候。たとへば祕藥なりとも毒を入ぬれば藥用すくなし。つるぎ(劍)なれどもわるびれたる(臆病)人のためには何かせん。就中夫婦共に法華の持者也法華經流布あるべきたね(種)をつぐ所の玉の子出^テ生^レ目出^テ度覺候^ガ。色心二法をつぐ人も争かをりなはり候べき。とくこくこりうまれ候はむすれ。此藥をのませ給はば疑^ヒなかるべきなり。闇なれども燈入りぬれば明かなり濁水にも月入ぬればすめり。明かなる事日月にすぎんや淨き事蓮華にまさるべきや。法華經は日月と蓮華となり故に妙法蓮華經と名く。日蓮又

日月と蓮華との如くなり。信心の水すまば利生の月必ず應を垂れ守護し給べし。とくごくうまれ候べし法華經ニ云ク如是妙法。又云ク安樂産福子云云。口傳相承の事は此辦公にくはしく申ふくめて候。則如來使なるべし返返も信心候べし天照太神は玉をうさのをのみこと(素盞雄尊)にさづけて玉の如くの子をまふけたり。然間日の神我子となづけたり。さてこり正哉吾勝とは名けたれ。日蓮うまらるべき種をさづけて候へば争か我子にとるべき。有一寶珠價直三千等。無上寶聚不求自得。釋迦如來皆是吾子等云云。日蓮あに此義にかはるべきや。幸なり幸なりめでたしめでたし。又又申べく候。あなかしこあなかしこ。

文永八年五月七日

四條金吾殿女房御返事

日蓮花押

○月滿御前御書

若童生れさせ給由承り候目出たぐ覺へ候。殊に今日は八日にて候。彼と云此と云と所願しを(湖)の指が如く春の野に華の開けるが如し。然ればいりぎいりぎ名をつけ奉る月滿御前と申すべし。其上此國の主八幡大菩薩は卯月八日

にうまれさせ給ふ。娑婆世界の教主釋尊も又卯月八日に御誕生なりき。今の童女又月は替れども八日いらまれ給ふ釋尊八幡のうまれ替りとや申さん日蓮は凡夫なれば能は知ず。是併日蓮が符を進らせし故也。さこり父母も悦び給覽。殊に御祝として餅酒鳥目一貫文送給候。畢是また御本尊十羅刹に申上て候。今日佛生れさせまします時に三十二の不思議あり。此事周書異記と云文にしるし置けり。釋迦佛は誕生し給て七歩し口を自開いて天上天下唯我獨尊三界皆苦我當度之の十六字を唱へ給ふ。今の月滿御前はうまれ給てうぶるに南無妙法蓮華經を唱へ給ふ歟。法華經ニ云ク諸法實相。天台云ク聲爲佛事等云云。日蓮又かくの如く推し奉る。譬ば雷の音耳しいの爲に聞事なく日月の光り目くらの爲に見る事なし。定て十羅刹女は寄合てうぶ(産)水をなで養ひ給らん。あらめでたやあらめでたや御悦び推量申候。念頃(念)に十羅刹女天照太神等にも申て候。あまりの事に候間委は申さず。是より重て申べく候。穴賢穴賢。

日蓮花押

四條金吾殿御返事

十章鈔 啓三三三 鈔三三 語四三四 音下三八 拾六五七 扶一二五六

華嚴宗と申す宗華嚴經の圓と法華經の圓とは一なり。而法華經の圓は華嚴の圓の枝末と云云。法相三論又又かくのごとし。天台宗彼の義に同せば別宗と立つなにかせん。例せば法華涅槃は一圓也先後に依て涅槃尙をとるとさだむ。爾前之圓法華の圓を一ならば先後によりて法華豈劣ららんや。詮するところこの邪義のをこり此妙彼妙圓實不異圓頓義齊前三爲巖等の釋にばかされ。懸て起る義なり。止觀と申も圓頓止觀の證文には華嚴經の文をひきて候ふ。又二ノ卷の四修三昧は多分は念佛と見へて候なり。源濁れば流清から末と申て爾前之圓與法華經の圓一と申す者が止觀を人によませ候はば但念佛者の心をこくにて候なり。但止觀は迹門より出たり本門より出たり本迹に互と申す二の義いにしぬよりこれあり。これは且これをもく。故知一部之文共成圓乘開權の妙觀と申て止觀一部は法華經の開會の上に建立せる文なり。爾前の經經をひき乃至外典用て候も爾前外典の心にはあらず。文をばかれ(借)とも義をばけづりすて(削)たるなり。境雖寄昔智必依圓と申

て文殊問方等請觀音等の諸經を引て四種を立れども心は必法華經なり。散引諸文該平一代文體正意唯歸三經と申これなり。止觀に十章あり大意釋名體相攝法偏圓方便正觀果報起教旨歸なり。前六重依修多羅と申て大意より方便までの六重は先四卷に限る。これは妙解迹門の心をのべたり。今依妙解以立正行と申は第七の正觀十境十乘の觀法本門の心なり。一念三千此よりはじまる。一念三千と申事は迹門にすらなを許されず何況爾前に分たへ絶たる事なり。一念三千の出處は略開三之十如實相なれども義分は本門に限る。爾前は迹門の依義判文迹門は本門の依義判文なり。但眞實の依文判義は本門に限べし。されば圓の行まらまらなり。沙をかすべ大海をみるなを圓の行なり。何況爾前の經をよみ爾陀等の諸佛の名號を唱るをや。但これらは時時の行なるべし。眞實に圓の行に順じて常に口ずさみにすべし。事は南無妙法蓮華經なり。心に存すべき事は一念三千の觀法なり。これは智者の行解なり日本國の在家の者には但一向に南無妙法蓮華經ととなへさすべし。名は必體にいたる徳あり。法華經に十七種の名ありこれ通名なり別名は三世の諸佛皆南無妙法蓮華經とつけさせ給しなり。阿彌陀釋迦等の諸佛も因

位の時、必ず止觀なりき口すさみは必南無妙法蓮華經なり。此等をしらざる天台眞言等の念佛者口すさみには一向に南無阿彌陀佛と申ふあひだ。在家の者は一向に念ふやう天台眞言等は念佛にてありけり。又善導法然が入門はすわすわれを學せんよりは法華經をよまんよりは一向に念佛を申て淨土にして法華經をもささるべしと申る。此の義日本國に充滿せし故に天台眞言の學者。在家の人人にすてられて六十餘州の山寺はうせはてぬるなり。九十六種の外道は佛慧比丘の威儀よりをこり。日本國の謗法は爾前之圖、與ニ法華、圓一ツという義の盛なりしよりこれはじまれり。あわれなるかなや。外道は常樂我淨と立しかば佛世にいでませ給ては苦空無常無我とかせ給き。一乘、空觀に著して大乘にすゝまざりしかば。佛誠云、五逆は佛のたね塵沙の疇は如來の種も名はよかりしぞかし。而も佛名をいみ給き。惡だに佛の種となるましてせん(善)はとてをばうれども。佛二乘に向ては惡をば許して善をばいましめ給き。當世の念佛は法華經を國に失う念佛なり。設せんたりとも義分

あたれりといふとも先、名をいむべし。其故、佛法は國に隨つべし。天竺には一向大乘一向大乘大小兼學の國ありわかれたり震旦亦復如是。日本國は一向大乘の國大乘の中の一乘の國なり。華嚴法相三論等の諸大乘猶相應せず何況小乘の三宗をや。而當世にはやる(流行)念佛宗と禪宗とは源方等部より事をこれり法相三論華嚴の見を出べからず。南無阿彌陀佛は爾前にかざる法華經にをいては往生の行にあらず開會の後佛因となるべし。南無妙法蓮華經は四十餘年にわたらず但法華八箇年にかざる。南無阿彌陀佛に開會せられず法華經は能開念佛は所開。法華經の行者は一期南無阿彌陀佛と申さずとも南無阿彌陀佛並に十方の諸佛の功德を備へたり。譬如如意寶珠、備金銀等、財。念佛は一期申とも法華經の功德を(具)すべからず。譬へば金銀等の如意寶珠をかねざるがごとし。譬へば三千大千世界に積たる金銀等の財も一ツの如意寶珠をばかう(眷)べからず。設開會をさされる念佛なりとも猶體内の權なり體内の實に及ばず。何況當世に開會を心得たる智者も少なくころをばすらめ。設さる人ありとも弟子眷屬所從なんどはいかにかあるべかるらん。愚者、智者の念佛を申給をみては念佛者ぞ見候らん法華經の行者とははも候

はじ。又南無妙法蓮華經と申、人をばいかなる愚者も法華經の行者とて申候はんすらん。當世に父母を殺す人よりも謀反ををこす人よりも。天台眞言の學者と云はれて善公が禮讃をうたひ然公が念佛をさしづる(轉)人人はをろろしく候なり。この文を止觀よみあげさせ給て後ふみのさ(文座)の人にひろめ(弘)てわたらせ給べし。止觀よみあげさせ給はばすみやかに御わたり候へ。沙汰の事は本より日蓮が道理だにもつよく(強)ば事切事かたしと存て候しか。人ごとに問註は法門にはにすいみじうしたりと申候なるときに事切べしともをばへ候はず。少弼殿より平ノ三郎左衛門のもとにわたりて候とてうけ給候。この事のび(延)候わば問註はよきと御心得候へ。又いつにてもよも切の事は候はじ。又切すは日蓮の道理とて人人はをい候はんすらめ。くるしく候はず候。當時はことに天台眞言等の人人の多く來候なり。事多故(留)候了(了)。

五月 日

日蓮 花押

明治三十五年三月二十八日正中山ノ御眞蹟ニ拜照シ奉ル(稻田海案履記)

○四條金吾殿御書 後下九 考八一。

雪のごとく白く候白米一斗古酒のごとく候油一筒御布施一貫文。能使者を以て盆料送り給候。殊に御文の趣難有はれに覺候。抑孟蘭盆と申は源目連尊者の母青提女と申人。慳貪の業によりて五百生餓鬼道にをち給て候を目連救ひしより事起りて候。雖然佛にはなす其故は我身いまだ法華經の行者ならざる故に母をも佛になす事なし。靈山八箇年の座席にして法華經を持ち南無妙法蓮華經と唱て多摩羅跋梅檀香佛となり給。此時母も佛になり給。又施餓鬼の事仰候法華經第三云、如從飢國來忽遇大王膳云云。此文は中根の四大聲聞醍醐の珍膳をわと(音)にもさかざりしが。今經に來て始て醍醐の味をあく(飽)までになめ(嘗)て昔しうへ(飢)たる心を忽にやめし事を説給文也。若爾者餓鬼供養の時は此文を誦して南無妙法蓮華經と唱てとぶらひ(帛)給べく候。總じて餓鬼にをいて三十六種類相わかれて候。其中に鑽身餓鬼と申は目と口となき餓鬼にて候。是は何なる修因と申に此世にて夜討強盜などをなして候によりて候。食吐餓鬼と申は人の口よりはき出す物を食し候是も修因如上。又人の食をうばふに依り候。食水餓鬼と云は父母孝養のために手向

る水などを呑餓鬼なり。有財餓鬼と申は馬のひづめ(蹄)の水をのむがき(餓鬼)なり。是は今生にて財ををしみ食をかくす故也。無財がきと申は生れてより以來飲食の名をもさかざるがきなり。食法がきと申は出家となりて佛法を弘むる人。我は法を説けば人尊敬するなれと思ひて名聞名利の心を以て人にすぐれんと思て今生をわたり。衆生をたすけず父母をすくふべき心もなき人を食法がきとて法をくらふがきと申なり。當世の僧を見るに人にかくして我一人ばかり供養をうくる人もあり。是は狗犬の僧と涅槃經に見たり。是は未來には牛頭と云フ鬼となるべし。又人にもせめて供養をうくる人も欲心に住して人に施す事なき人もあり。是は未來には馬頭と云フ鬼となり候。又在家の人人も我父母地獄餓鬼畜生にちて苦患をうくるをばとぶらは(用)ずして。我は衣服飲食にあきみち牛馬眷屬充滿して我心に任せてたのしむ人をばいかに父母のうらやましく恨み給らん。僧の中にも父母師匠の命日をとぶらふ人はまれなり。定て天の日月地の地神いかりいさぎをり給て不孝の者とれもはせ給らん。形は人にして畜生のごとし。人頭鹿とも申べき也。日蓮此業障をけしはて未來は靈山淨土にまいるべしとれもへば。種々の大難雨のごとくふり雲のごとくにわき候へども法華經の御故なれば苦をも苦ともはせず。かゝる日蓮が弟子檀那となり給人人殊に今月十二日、妙法聖靈、法華經の行者也日蓮が檀那也。いかでか餓鬼道にれち給べきや。定て釋迦多寶佛十方の諸佛の御寶前にましまさん。是こり四條金吾殿の母よ母よと同心に頭をなで悦びほめ給らめ。あはれいみじき子を我はもちたりと釋迦佛とかたらせ給らん。法華經云ク若有善男子善女人一聞妙法華經、提婆達多品淨心、信敬不疑、惑者不墮地獄餓鬼畜生、三十方佛前所生之處、常聞此經、若生人天、中受勝妙樂、若在佛前、蓮華化生と云云。此經文に善女人と見へたり妙法聖靈の事にあらずんば誰が事にやあらん。又云ク此經難持者、暫持者、我即歡喜、諸佛亦然如是之人、諸佛所歎云云。日蓮讚歎したてまつる事はもののかずならず。諸佛所歎と見たり。あらたのもしやあらたのもしやと。信心をふかくとり給べし信心をふかくとり給べし。南無妙法蓮華經南無妙法蓮華經。恐恐謹言。

七月十二日

日蓮花押

四條金吾殿御返事

○行敏御返事

考六五六

行敏初度ノ難狀

雖未入見參以テ事次申承常ノ習候歟。抑如ニ風聞ノ者所立之義尤以テ不審。法華ノ前說一切ノ諸經ハ皆是妄語。非ニ出離ノ法一。大小ノ戒律ハ誑ニ惑世間一令墮ニ惡道ニ法ト是。念佛ハ爲ニ無間地獄ノ業ニ。禪宗ハ天魔ノ說若レ依テ行者ハ増ニ長惡見一。事若實者佛法ノ怨敵也。仍テ遂ニ對面テ欲レ破ニ惡見ヲ將タ又無ニ其義一者爭不レ被レ痛ニ惡名一哉。付ニ于是非ニ委ク可ニ示シ賜一也。恐恐謹言。

七月八日

僧 行 敏 花 押

日蓮阿闍梨御房

聖人御返事

條條御不審ノ事私ノ問答ハ難ク事行ニ候歟。然者被レ經ニ上奏テ隨テ被レ仰下ニ之趣上可レ被レ糾ニ明。是非フ候歟。如レ此蒙レ仰候條尤モ所ニ庶幾ニ候。恐恐謹言。

七月十二日

日 蓮 花 押

行敏御房御返事

○行敏訴狀御會通

啓三五二五 鈔二五三九 語五二四 拾八一五 扶一五一九

當世日本第一ノ持戒ノ僧良觀聖人。竝法然上人ノ孫弟念阿彌陀佛道阿彌陀佛等、諸聖人等。訴ニ訟日蓮ヲ狀ニ云ク欲下早被レ召ニ決セ日蓮ヲ摧ニ破シ邪見ヲ與隆正義事云云。日蓮云ク摧ニ破シ邪見ヲ與隆正義者一眼ノ龜ノ入ニ浮木ノ穴ニ幸甚幸甚。彼狀ニ云ク右八萬四千之教乃至是非諸理豈可然哉云云。道綽禪師云ク當今末法ハ是五濁惡世唯有三淨土ノ一門可レ通ニ入ス路ニ云云。善導和尚云ク千中無一云云。法然上人云ク捨閑閣拋云云。念阿上人等云ク是非諸謗法也云云。相違本師三人ノ聖人ノ御義豈非逆路伽耶陀者。將タ又忍性良觀聖人與力彼等ノ立義ニ此被レ存正正義ト歟。又云ク而日蓮偏執ニ法華一部ニ誹謗諸餘ノ大乘ヲ云云。無量義經ニ云ク四十餘年未顯真實。法華經ニ云ク要當說真實ト又云ク宣示顯說ト。多寶佛加テ證明ヲ云ク皆是真實ト十方諸佛ハ云ク舌相至梵天ト云云。非毀已今當ノ三說ヲ讚ニ歎法華經一部ヲ釋尊ノ金言也諸佛ノ傍例也。敢テ非日蓮カ自義ト。

其上此難ハ去延曆大同弘仁之比南都ノ徳一大師カ難ニ破傳教大師ヲ言也。其難已ニ破法華宗ヲ建立シ畢。又云ク所謂法華前説ノ諸經ハ皆是妄語云云。此又非ニ日蓮カ私ノ言。無量義經ニ云ク未タ顯ニ眞實ヲ妄語異名也。法華經第二ニ云ク寧有ニ虛妄ニ不云云。第六ニ云ク説此良醫虛妄ノ罪ヲ不云云。涅槃經ニ云ク如來雖無ニ虛妄之可言。若知衆生因ニ虛妄ノ説ニ云云。天台云ク則爲如來綺語之語云云。四十餘年之經經ヲ稱ニ妄語ト又非ニ日蓮カ私言。又云ク念佛ハ無間ノ業ト云云。法華經第二ニ云ク我則墮ニ慳貪ニ此事爲不可云云。第二ニ云ク其人命終入ニ阿鼻獄ト云云。大覺世尊但説ニ觀經念佛等ノ四十餘年ノ經經ヲ不演ニ説法華經ヲ難脱ニ惡道ト云云。何況未代ノ凡夫一生之間但自留念佛之一行ニ不進ニ佗人。豈ニ不墮ニ無間。例如シ民ノ子不隨ニ玉彩。何況道綽善導法然上人等修ニ行念佛等ヲ輩舉ニ法華經ノ名字ヲ對ニ當念佛ニ論ニ勝劣難易等ヲ。謂フ未有一人得者十即十生百即百生千中無ニ等者不招カ無間ノ大火ヲ。又云ク禪宗ハ天魔波旬ノ説ト云云。此又非ニ日蓮カ私ノ言。彼宗ノ人人ノ云ク教外別傳ト云云。佛ノ遺言ニ云ク我經之外有ニ正法者天魔ノ説也云云。教外別傳之豈ニ説ニ此科ヲ乎。又云ク大小ノ戒律ハ世間誑惑ノ法ト云云。日蓮カ云ク小乘戒ハ佛世猶破之ヲ。其上月氏國有ニ三寺所謂一向小乘、

寺一向大乘ノ寺、大小兼行ノ寺云云。一向小乘與一向大一如水火ノ將又分ニ隔道路。日本國去聖武皇帝與ニ孝謙天皇御宇ニ小乘ノ戒壇ヲ建立ニ三所。其後桓武ノ御宇ニ傳教大師責ニ破之ニ其詮ハ小乘戒ハ不當ニ未代ノ機ニ云云。護命景深、本師等非負ニ其諍論ニ六宗ノ碩徳各捧テ退狀ヲ歸シ依ニ傳教大師ニ傳ニ受ス圓頓ノ戒體ト云云。其狀于今不朽汝自開見。而良觀上人當世日本國ノ小乘ハ不存ニ昔ノ科。又云ク年來ノ本尊彌陀觀音等ノ像ヲ入レ火ニ流ス水ニ等云云。此事憶指ニ出證人ヲ可申ス。若無ニ證據ニ良觀上人等自取リ出本尊ヲ入レ火ニ流シ水ニ欲レ負ニ科於日蓮ニ歟。委細ハ糾明之ヲ時無ニ其隱ニ歟。但無ニ御尋問ハ其重罪ハ護ニ渡ス良觀上人等ニ破ニ失ニ二百五十戒ヲ因縁不如此大妄語ニ無間大城之人勿レ求ニ佗處。又云ク集凶徒於室中云云。法華經ニ云ク或有阿練若等云云妙樂云ク東春云ク輔正記ニ云ク。以此等ノ經釋等ヲ引ニ向當世日本國ニ汝等カ所ノ舉建長寺壽福寺極樂寺多寶寺大佛殿長樂寺淨光明寺等ノ寺寺ハ妙樂大師ノ所ノ指第二最甚惡所也。東春云ク即是出家處攝一切ノ惡人ト云云。又云ク兩行ハ向ニ公處ニ等云云。又云ク兵杖等云云。涅槃經ニ云ク天台云ク章安云ク妙樂云ク爲ニ法華經守護ノ弓箭兵杖ハ佛法ノ定法也例如下國王爲ニ守護ニ集刀杖。但良觀上人等所ニ弘通ニ法日蓮カ難難

脫之間既不可令路顯一歟。故爲隱彼邪義相。語諸國守護地頭雜人等。言日蓮並弟子等。阿彌陀佛入火流水汝等。大怨敵也云云。切頸追出。所領等勸進故。日蓮之身被批弟子等。及殺害數百人也。此偏良觀念阿道阿等。上人出大妄語。有レ心人人。可驚可怖云云。毗瑠璃王殺七萬七千。諸得道人。月氏國大族王。滅之。率都婆。癡僧伽藍。凡一千六百餘處。乃至大地震動。墮無間地獄。毗盧釋迦王。生取釋種九千九百九十萬人。並從殺戮。積屍如莽。流血成池。弗沙彌多羅王。與四兵一回五天。殺僧侶。燒寺塔。設賞迦王。毀壞佛法。訖利多王。斥逐僧徒。毀壞佛法。欽明敏達用明三王。詔曰。炳然宜斷佛法云云。二臣自詣於寺。斫倒堂塔。毀破佛像。縱火燒之。取所燒佛像。棄難波堀江。喚出二尼。奪其法服。並加答云云。大唐武宗。滅之。失四千六百餘處。僧尼還俗者計二十六萬五百人。去永保年中。山僧燒拂園城寺云云。御願十五所。寺院九十所。塔婆四基。鐘樓六角。經藏二十所。神社十三所。僧坊八百餘。宇舍宅二千餘等云云。去治承四年十二月二十二日。太政入道淨海燒失東大興福兩寺。殺僧尼等。此等佛記云。此等惡人。非佛法怨敵。如三明六通。羅漢僧侶等。滅失我正法。所謂

守護經云。涅槃經云。

日蓮花押

○一昨日御書 啓三一九五 鈔一九五五 音下三三 語四二二 拾六三三 扶一二九

一昨日罷入見參候之條。悅入候。抑人之在レ世。誰カ不レ思。後世。佛之出世。專爲救衆生也。爰日蓮自成比丘。旁開法門。已覺諸佛之本意。早得離之大要。其要者。妙法蓮華經是也。一乘之崇重。三國之繁昌。儀流前。誰カ貽疑網哉。而專背正路。偏行邪途。然問聖人捨國善神成。七難並起。四海不閉。方今世悉歸關東。人皆貴土風。就中日蓮得生於此土。豈不レ思吾國哉。仍造立正安國論。故最明寺入道殿之御時。以宿屋入道。入見參畢。而近年之間。多日之程。犬戎亂浪。夷敵伺國。先年所勸。申近日令普合者也。彼太公之入殷國也。依西伯之禮。張良之量。秦朝也。感漢王之誠。是皆當于時。得於賞。回謀於帷帳之中。決勝於千里之外者也。夫如未萌者。六正聖臣也。弘法華者。諸佛之使者也。而日蓮忝開鷲嶺鶴林之文。覺鵝王鳥瑟之志。剩勸將來。粗得普合。雖不及先哲。定可希後

人^{ニハ}者也。知^リ法^ヲ思^フ國^ヲ志^シ尤^モ可^キ被^レ賞^ス之處。邪法邪教之輩讒奏讒言之間久^ク懷^キ大忠^ヲ而未^ダ達^ス微望^ヲ。剩^サ能^ク入^ル不快^ノ之見參^ニ偏^ニ愁^ニ難治^之次第^ヲ者也。伏^シ惟^ニ不^レ昇^ニ泰山^ニ者不^レ知^ニ天^ノ高^ニ不^レ入^ニ深谷^ニ者不^レ知^ニ地^ノ厚^ニ。仍^テ爲^ニ御存知^ノ立正安國論^ニ一卷進覽^ス之^ヲ。所^ノ樹^ヘ載^ス之文九牛之一毛也。未^ダ盡^ス微志^ヲ耳。抑^モ貴邊^ノ者當時天下之棟梁也。何^ッ損^{セン}國中之良材^ヲ哉。早^ク回^{ラシ}賢慮^ヲ須^ク退^ク異敵^ヲ。安^シ世^ヲ安^シ國^ヲ爲^シ忠^ト爲^シ孝^ト矣。是偏爲^ニ身^ノ不^レ述^ハ之^ヲ爲^シ君^ノ爲^シ佛^ヲ爲^シ神^ヲ爲^シ切衆生^ヲ所^ノ令^ル言^上也。恐恐謹言。

文永八年九月十二日

謹上 平左衛門尉殿

日蓮花押

○土木殿御返事 考八九

封人人御中

日蓮

上のせめさせ給にこり法華經を信じたる色もあらはれ候へ。月はかけ(虧てみち(滿)しを(潮)はひ(干)てみつる事疑なし。此も罰あり必徳あるべし。なにしにかなげか(歎)ん。

此十二日辰ノ時御勘氣。武藏守殿御あづかりにて十三日丑ノ時にかまくら(鎌倉)をいでて佐土の國へながされ候が。たうはほんま(本間)のいち(依智)と申^スところのいちの六郎左衛門尉殿ノ代官右馬太郎と申^ス者あづかりて候が。いま四五日はあるべげに候。御歎^キはさる事に候へどもこれには一定と本よりご(期)して候へばなげかす候。いままで頸^ノ切^ルぬこり本意なく候へ。法華經の御ゆへに過去に頸^ヲをうしないたらば。かゝる少身のみにて候べきか。又數數見擯出^トとかれて度度失^ハにあたりて重罪をけし(消)てこり。佛にもなり候はんずれば。我と苦行をいたす事は心がらなり。

九月十四日

日蓮花押

土木殿御返事

明治三十五年六月四日 京都本満寺ニ於テ御眞蹟ニ拜照シ奉ル(稻田海素庵記)

○四條金吾殿御消息 後上^六 考二二三

度度の御音信申^ツくしがたく候。さてもさても去^リ十二日の難^ノとき。貴邊たつのくち(龍口)までつれさせ給^ト。しかのみならず腹を切らんと仰^ラられし事こ

土木殿御返事 (遺二ノ二九)

六百八十九

(外二十二ノ十七)

る不思議とも申ばかりなけれ。日蓮過去に妻子所領眷屬等の故に身命を捨し
 所いくるばくかありけむ。或は山にすて海にすて或は河或はいる等路のほど
 りか。然ごも法華經のゆへ題目の難にあらざれば捨し身も蒙る難等も成佛の
 ためならず。成佛のためならざれば捨し海河も佛土にもあらざるか。今度法華
 經の行者として流罪死罪に及ぶ。流罪は伊東死罪はたつのくち。相州、たつ
 のくちころ日蓮が命を捨たる處なれ佛土にねとる(考)べしや。其故はずでに
 法華經の故なるがゆへなり經云、十方佛土中唯有一乘法、此意なるべき歟。此
 經文に一乘法と説給は法華經の事也。十方佛土の中には法華經より外は全
 なきなり除佛方便説と見たり。若然者日蓮が難にあう所ごとく佛土なる
 べき歟。娑婆世界の中には日本國日本國の中には相模、國相模、國の中には片
 瀬片瀬の中には龍口に。日蓮が命をとめをく事は法華經の御故なれば寂
 光土ともいふべき歟。神力品云、若於林中若於園中若山谷曠野是中乃至而般
 涅槃とは是歟。かゝる日蓮にともなひて法華經の行者として腹を切らんと
 給事。かの弘演が腹をさいて主の懿公がきも(肝)を入たるよりも百千萬倍す
 ぐれたる事也。日蓮靈山にまいりてまづ四條金吾ころ法華經の御故に日蓮と

をなじく腹切んと申候なりと申上候べきや。又かまくらどのの仰せとて内
 内佐渡の國へつかはすべき由承り候。三光天子の中に月天子は光物とあら
 はれ龍ノ口の頸をたすけ。明星天子は四五日巳前に下て日蓮に見参し給ふ。い
 ま日天子ばかりのこり給ふ定て守護あるべきかたのものもしたのものし。法師品
 云、則遣變化人爲之作衛護疑あるべからず。安樂行品云、刀杖不加普門品
 云、刀尋段段壞此等の經文よも虚事にては候はじ。強盛の信力よりありがたく
 候へ。恐恐謹言。

文永八年九月二十一日

日蓮花押

四條金吾殿

○五人土籠御書 考八

五人 御中 參 日蓮

せんあくてご房をはつけさせ給。又しらうめか一人あらんするが。ふびん
 に候へは申。

今月七日さど(佐渡)の國へまかる(罷)なり。各各は法華經一部づつありばして

候へば我身並父母兄弟存亡等に回向しまし候らん。今夜のかん(寒)するにつけていよいよ我身より心くるしさ申はかりなし。ろ(牢)をいで(出)させ給なば明年のはる(春)がならずきたり給へみみへまいらすべし。せうどのの但一人あるやつをつけよかしをもう心。心なしをもう人。一人もなければしぬ(死)まで各各御はぢ(恥)なり。又大進阿闍梨はこれにさた(沙汰)すべき事かたがたあり。又をのをのの御身の上をもみはて(見果)させんがれう(料)にとぞめ(留)をくなり。くはしくは申候へんずらん。恐恐謹言。

十月三日

日蓮花押

五人御中

明治三十五年五月二十七日於京都妙覺寺以御眞蹟奉拜照但有難讀文檢乞賢察(稻田海素慶記)

○轉重輕受法門

啓二七六六 鈔二七三二 註一七二九 語三二八 拾四二五 扶一〇三二

三人御中

日蓮

修利槃特と申は兄弟二人なり。一人もありしかばすりはんごくと申すなり。各各三人は又かくのごとし。一人來せ給へば三人と存候なり。涅槃經に

轉重輕受と申法門あり。先業の重き今生につきずして未來に地獄の苦を受べきが。今生にかゝる重苦に値候へば。地獄の苦ばつときへて。死候へば人天三乘一乘の益をうる事候。不輕菩薩の惡口罵詈せられ杖木瓦礫をかほる(蒙)もゆへなきにはあらず。過去の誹謗正法のゆへかどみへて其罪畢已と説候は。不輕菩薩の難に値ゆへに過去の罪の滅かどみへはんべり。又付法藏二十五人は佛をのぐさ(除)たてまつりては皆佛のかねて記をさ給へる權者なり。其中第十四提婆菩薩は外道にころされ第二十五師子尊者は檀彌栗王に頸を刎られ。其外佛陀密多龍樹菩薩なども多の難にあへり。又難なくして王法に御歸依いみじくて法をひろめたる人も候。これは世に惡國善國有法に攝受折伏あるゆへかどみへはんべる。正像猶かくのごとし中國又しかなり。これは邊土なり末法の始なり。かゝる事あるべしとは先にをもひさだめぬ期をこらまら候つれ。この上の法門はいにしに申をき候ときめづらしからず。圓教の六即位に觀行即と申は所行如所言所言如所行云云。理即名字の人は圓人なれども言のみありて眞なる事かたし。例せば外典の三墳五典には讀人かすをしらす。かれがごとくに世をさめふれまう事千萬が一もか

たし。されば世のをささる事も又かたし。法華經は紙付に音をあげてよめども彼の經文のごとくふれまう事かたく候か。譬喩品ニ云、見下有四讀ニ誦シ書ニ持經ナ者ト輕賤憎嫉而懷ニ結恨ヲ。法師品ニ云、如來現在猶多シ怨嫉ニ況ニ滅度ノ後。勸持品ニ云、加ヘ刀杖ヲ乃至數數見ニ擯出サ。安樂行品ニ云、一切世間多シ怨難レ信シ。此等は經文には候へども何世にかゝるべしともしられず。過去の不輕菩薩覺德比丘なんごころ身にあたりてよみ(讀)まいらせて候けるとみへはんべれ。現在には正像二千年はさてをきぬ未法に入ては此日本國には當時は日蓮一人みへ候か。昔の惡王の御時多クの聖僧の難に値候けるには。又所從眷屬等弟子檀那等いくづばくかなげき候けん今をもちてをしはかり候。今日蓮法華經一部よみて候。一句一偈に猶受記をかほ蒙れり何ニ況ヤ一部をやと。いよいよたのもし。但れほけなく國土までところをもひ(思)て候へども。我と用られぬ世なれば力及ばず。しげきゆへにとどめ候と畢。

文永八年辛未十月五日

日蓮花押

大田左衛門尉殿
蘇谷入道殿

金原法橋御房

御返事

明治三十五年三月二十六日於中山法華經寺以御眞蹟奉拜照 稻田海素虔記

○土籠御書 微上四九 考四二九

日蓮は明日佐渡ノ國へまかるなり。今夜のさむき(寒)に付ても。ろう(牢)のうちのありさま思やられていたはし(痛)く候へ。あはれ殿は法華經一部。色心二法共にありばしたる御身なれば。父母六親一切衆生をもたすけ給べき御身也。法華經を餘人のよみ候は口ばかりことば(言)ばかりはよめども心はよまぬ。心はよめども身によまぬ。色心二法共にありばされたるこり貴く候へ。天諸童子以爲給使刀杖不加毒不能害と説れて候へば別ノ事はあるべからず。籠をばし出させ給候はばとくとききたり給へ。見たてまつり見わたてまつらん。恐恐謹言。

文永八年辛未十月九日

日蓮花押

筑後殿

土籠御書 (道一一ノ三四)

六百九十五 (外十一ノ十五)

○此經難持十三箇秘訣

抑モ此經難持、偈六行九十六字之要文ハ者。釋尊靈山於テ本迹二門、中間二十方分身ノ諸佛ヲ召集。多寶塔中而二佛並座。一會、大衆、虛空、事、寂光ニ引上ケ給テ。六難九易ノ法門ヲ說キ顯畢、佛意祕密、一、大事法華至極ノ法門ヲ所シ說顯ニ之九十六字ノ要文也。祕密ノ中、祕密也。此文ノ中ニ有二十三箇大事ノ相承。一、諸佛勸請若實ノ三句ノ。二、諸天勸請已上ノ二箇ハ佛ハ者本地神ハ者。三、諸神勸請同ク上ノ三句ノ文也。四、法華ノ行者ハ如說修行是則勇。五、法華ノ行者ハ六度萬行是則精進ノ文也。六、法華ノ行者ハ圓頓戒是名持。七、法華ノ行者即身成佛是則疾得無。八、法華ノ行者住處住淨善地ノ文四土。九、法華ノ行者開眼供養佛滅度後○世ノ十俗諦常住。十、法華ノ行者廣宣流布於恐○供養。十一、法華ノ行者一乘佛種一故ニ繼圖ノ文也。十二、法華ノ行者一乘佛種一故ニ繼圖ノ文也。十三、法華ノ行者一乘佛種一故ニ繼圖ノ文也。是ノ此經難持偈六行九十六字ノ要文ハ者。釋尊靈山ノ多寶塔中ニ御聲徹シ下方ニ直ニ傳ニ本化上行菩薩一給フ。然日蓮自然ニ自解佛乘得此此文ノ意也。此文ヲ一心ニ信心心不二ニ奉レ誦シ人ハ上ニ契ニ三世十方ノ諸佛ノ御内證ニ。中ハ預リ諸天善神ノ擁護ニ日本ノ善神ハ守リ之ヲ諸ノ龍神ハ敬ヒ之ヲ。下則令三六親眷屬到ニ菩提ノ大道ニ。自身心中ノ諸願必定成就シ未來ノ得脫如レ指レ掌ヲ。終

中ノ諸願必定成就シ未來ノ得脫如レ指レ掌ヲ。終

○寺泊御書 啓二七三四 鈔一六六三 註一七二五 語三三四 音下二 拾四三 扶一〇二七

鷲目一結給ヒ候畢シ。心ざしあらん諸人は一處にあつまりて。御聽聞あるべし。

今月十月十日起ニ相州愛京郡依智ノ郷ニ付ニ武藏ノ國久目河ノ宿ニ經テ于十二日付ニ越後ノ國寺泊ノ津ニ自レ此互テ大海ヲ欲レ至ニ佐渡ノ國ニ順風不定ラ不レ知ニ其ノ期ヲ。道ノ間ノ事心モ莫ク及又不レ及レ筆但照ニ可ニ推シ度ル。又自レ本存知之上始テ非レ可レ歎止レ之ヲ。法華經第四ニ云ク而モ此經ハ者如來現在猶多ニ怨嫉ニ況ヤ滅度ノ後。第五ノ卷ニ云ク一切世間多ク恐難レ信シ。涅槃經二十八ニ云ク爾時一切ノ外道ノ衆咸ク作是言ヲ大王今者唯有一大惡人ニ瞿曇沙門。一切世間ノ惡人爲ニ利養ノ故ニ往ニ集其所ニ而爲テ眷屬ト不能レ修レ善ヲ。呪術力ノ故ニ調伏ス。迦葉及舍利弗目犍連等ヲ云云。此涅槃經ノ文ハ一切ノ外道我本師ニ天三仙ノ所說ノ經典ヲ被レ毀テ佛陀ニ所レ出ス惡言也。法華經ノ文ハ佛ヲ非レ爲レ怨。經文天台ノ意ニ云ク一切ノ聲聞緣覺並樂ヲ近成テ菩薩等云云。不レ欲レ聞不レ欲レ信不レ當ニ其機ニ出レ言ヲ莫レ謗。皆定ニ怨嫉ノ者ト了。

以テ在世ニ推^ス滅後^ニ一切諸宗ノ學者等ハ皆如シ外道ノ彼等^カ云フ一大惡人者當^ニ日蓮^ニ一切惡人集^ル之^ニ者日蓮^カ弟子等是也。彼外道ハ先佛ノ說教流傳之後謬^レ之^ヲ後佛^ヲ爲^レ怨^ト今諸宗ノ學者等亦復如^シ是^ノ所詮依^テ佛敎^ニ起^ス邪見^ヲ轉^ス目^ノ者欲^シ轉^ス大山^ニ。今八宗十宗等多門ノ故^ニ至^ニ諍論^ヲ。涅槃經第十八^ニ贖命重寶^ト申^ス法門あり。天台大師ノ料簡^ニ云ク命者法華經也重寶者涅槃經也所^レ說^ク前三教也。但涅槃經^ニ所^レ說^ク圓敎^ハ如何。此法華經^ニ所^レ說^ク佛性常住^ヲ重^テ說^テ之^ヲ令^ニ歸本^ニ以^テ涅槃經^ノ圓常^ヲ攝^ス法華經^ニ。涅槃經^ノ得分^ハ但^タ限^ル前三教^ニ。天台ノ立義^ノ三^ニ云ク涅槃贖命^ノ重寶^{重^テ抵^テ掌^ヲ耳也云云。籤^ノ三^ニ云ク今家引^ク意^ハ指^シ大經^ノ部^ヲ以^テ爲^ス重寶^ト等云云。天台大師ノ四念處^ト申^ス文^ニ法華經^ノ引^テ雖^シ示^シ種種道^之文^ヲ先四味^ヲ又定^シ重寶^ト了^ス。若爾者法華經^ノ前後^ノ諸經^ハ爲^シ法華經^ノ重寶也。世間ノ學者^ノ想^ハ云ク此^ハ天台一宗^ノ義也諸宗^ノ不^レ用^レ之^ヲ等云云。日蓮案^レ之^ヲ云ク八宗十宗等皆自佛滅後^ニ起^シ之^ヲ論師人師立^ツ之^ヲ。以^テ滅後^ノ宗^ヲ不^レ可^レ計^ル現在^ノ經^ヲ。天台^ノ所判^ハ依^テ叶^ニ一切經^ニ屬^ス於^ニ一宗^ニ不^レ可^レ弃^レ之^ヲ。諸宗ノ學者等執^シ自師^ノ誤^ヲ故^ニ或^ハ事^ヲ寄^レ機^ニ或^ハ讓^リ前師^ニ或^ハ語^ニ賢王^ヲ結句最後惡心強盛起^シ鬪諍^ヲ無^レ失者^ヲ損^レ之^ヲ爲^シ樂^ト。諸宗之中^ニ眞言宗殊^ニ至^ニ僻案^ヲ。善無畏金剛智等^ノ想^ハ云ク一念三千}

天台^ノ極理一代^ノ肝心也顯密二道^ノ可^レ爲^ル詮^之心地^ノ三千^且置^ク之^ヲ此^ノ外印^ト眞言^ニ佛敎^ノ最要等云云。其後眞言師等事^ヲ寄^シ此義^ニ無^キ印眞言^一經^ニ下^レ之^ヲ如^シ外道^ノ法^ノ。或^ハ義^ニ云ク大日經^ノ釋迦如來^ノ外^ノ說^{。或^ハ義^ニ云ク敎主釋尊第一^ノ說^{。或^ハ義^ニ現^ニ釋尊^ト說^キ顯經^ヲ現^ニ大日^ト說^キ密經^ヲ不^レ得^シ道理^ヲ無^盡僻見起^ス之^ヲ譬^ハ如下^ニ不^レ辦^ル乳^ノ色^一者作^ル種種^ノ邪推^ヲ不^レ當^ラ本色^ニ。又如^シ象^ノ譬^ノ。今汝等可^レ知^ル大日經等^ハ法華經已前^ニ如^ク華嚴經等^ノ已後^ニ如^ク涅槃經等^ノ。又天竺^ノ法華經有^ニ印眞言^一譯者略^レ之^ヲ羅什^ハ名^ニ妙法經^ト加^ヘ印眞言^ヲ善無畏^ハ名^ニ大日經^ト歟。譬如^シ正法華添品法華法華三昧薩^云分陀利等^ノ也。佛^ノ滅後於^ニ天竺^ニ得^ル此詮^ヲ龍樹菩薩於^ニ漢土^ニ始^テ得^ル之^ヲ天台智者大師也。眞言宗^ノ善無畏等華嚴宗^ノ澄觀等^ニ論宗^ノ嘉祥等法相宗^ノ慈恩等名^ハ依^レ自宗^ニ其心落^リ天台宗^ニ。其門弟等不^レ知^シ此事^ヲ如何^ヲ免^ニ謗法^ノ失^テ乎。或^ハ人難^シ日蓮^ヲ云ク不^レ知^シ機^ヲ立^テ藏義^ヲ值^フ難^ニ。或^ハ人云ク如^ク勸持品^ノ者深位^ノ菩薩^ノ義也違^テ安樂行品^ニ。或^ハ人云ク我^モ存^シ此義^ヲ不^レ言^ハ云云。或^ハ人云ク唯敎門計^リ也。雖^シ具^シ我^モ存^シ之^ヲ和^ハ切^ラ足^ク清丸^ハ給^テ于^ニ穢丸^ト云フ名^ヲ欲^ス及^シ死罪^ニ。時^ノ人咲^フ之^ヲ雖^シ然^リ其人未^ク流^シ善名^ヲ汝等^カ邪難^モ亦可^レ爾^ル。勸持品^ニ云ク有^ニ諸^ノ無智^ノ人^ニ惡口罵詈^ス等云云。日蓮當^リ此經文^ニ汝等何^ヲ不^レ入^ラ此經文^ニ。}}

及加刀杖者等ト云云。日蓮ハ讀ニ此經文ヲ。汝等何ヲ不レ讀マ此經文。常在大衆中欲毀我等過等云云向國王大臣婆羅門居士等云云惡口而擧蹙數數見擯出上。數數者度度也日蓮擯出度度流罪ハ二度也。法華經ハ三世說法ノ儀式也過去ノ不輕品ハ今ノ勸持品今ノ勸持品ハ過去ノ不輕品也今ノ勸持品ハ未來可レ爲ニ不輕品。其時日蓮ハ即可レ爲ニ不輕菩薩。一部八卷二十八品天竺ノ御經ハ布ニ一由旬ニ承定テ可レ有ニ數品。今漢土日本ノ二十八品ハ略之中ノ要也。正宗ハ置ク之ヲ。至テ流通ニ寶塔品ノ三箇ノ敕宣ハ令レ被ニ靈山虛空ノ大衆ニ。勸持品ノ二萬八萬八十萬億等ノ大菩薩ノ御誓言ハ不レ及ニ日蓮ノ淺智ニ但恐怖惡世中ノ經文ハ指ニ末法ノ始ヲ也。此恐怖惡世中ノ次下ノ安樂行品等ニ云ク於末世等云云。同本異譯ノ正法華經ニ云ク然後末世又云ク然後來末世。添品法華經ニ云ク恐怖惡世中等云云。當時當世三類ノ敵人ハ有レ之レ但八十萬億那由佗ノ諸菩薩ハ不レ見ニ一人如ニ乾潮ノ不レ滿月ノ虧テ不レ滿清レ水ヲ浮ハ月ヲ植レ木ヲ棲レ鳥ヲ。日蓮ハ八十萬億那由佗ノ諸菩薩ノ爲ニ代官ト申ス之ヲ。彼諸菩薩ノ請ニ加被ヲ者也。此入道佐渡國へ可レ爲ニ御供ニ之由承リ申ス之ヲ。可レ然ル用途ト云かたがた有レ煩ヒ之故ニ還レ之ヲ。御志始テ不レ及レ申候。人人ニ如ク是申給ヘ。但シ困僧等惡心ニ候。便宜之時早早可レ聽レ之ヲ。穴賢穴賢。

十月二十二日辰時

土 木 殿

日 蓮 花 押

○佐渡御勘氣鈔 考六五五

九月十二日に御勘氣を蒙て。今年十月十日佐渡ノ國へまかり候也。本より學文し候し事は佛教をきはめて佛になり思ある人をもたすけんと思ふ。佛になる道は必ず身命をすつるほどの事ありてこり佛にはなり候らめとをしははからる。既に經文のごとく惡口罵詈刀杖瓦礫數數見擯出と説れて。かゝるめに值候こり法華經をよむにて候らめと。いよいよ信心もれこり後生もたのもしく候。死して候はば必ず各各をもたすけたてまつるべし。天竺ニ師子尊者と申せし人は檀彌羅王に頸をはねられ。提婆菩薩は外道につきころさる。漢土に竺道生と申せし人は蘇山と申す所へながさる。法道三藏は面にかなやき(火印)をやかれて江南と申す所へながされき。是皆法華經のごとく(德佛法のゆへなり。日蓮は日本國東夷東條安房ノ國海邊の旃陀羅が子也。いたづらにくち(朽)ん身を法華經の御故に捨まいらせん事に石に金をかふるにあらすや。各各なげか

せ給へからず。道善の御房にもから申ささせまいらせ給へし。領家の尼御前へも御ふみと存候へども先かゝる身のふみなればなつかしやとればさざるらんと申ぬると。便宜あらば各各御物語申させ給候へ。

十月 日

日蓮花押

○富木入道殿御返事 徴下ニ三 考八ニ八

此比は十一月下旬なれば相州鎌倉に候し時の思には四節の轉變は萬國皆同かるべしと存候し處に。此北國佐渡國に下著候て後。二月は寒風頻に吹て霜雪更に降ざる時はあれども日の光をば見ることなし。八寒を感現身一人の心は同禽獸不知主師親何況佛法の邪正師の善悪は思もよらざるをや。此等は且置之。去十月十日に付られ候し入道寺泊より還し候し時。書遣法門候き推量候らむ已に眼前也。佛滅後二千二百餘年に月氏漢土日本一閻浮提の内に天親龍樹内鑑冷然外適時宜云云。天台傳教は粗釋し給へども弘殘之ヲ一大事の祕法を此國に初て弘之。日蓮豈非其乎。前相已に顯れぬ去正嘉之大地震前代未聞の大瑞也。神世十二人王九十代佛滅後二千二百餘

年未曾有の大瑞也。神力品云於佛滅度後能持是經故諸佛皆歡喜現無量神力等云云如來一切所有之法云云。但此大法弘まり給ならば爾前迹門の經教は一分も益なかるべし。傳教大師云日出星隱云云。遵式記云未法ノ初照ス西等云云。法已に顯れぬ前相先代に超過せり。日蓮粗勘之是時の然らしむる故也。經云有四導師一名上行云云。又云惡世末法時能持是經者。又云若接須彌擲置佗方云云。又貴邊に申付し一切經の要文智論の要文五帖一處に可被取集候。其外論釋の要文散在あるべからず候。又小僧達談義あるべしと仰らるべく候。流罪の事痛歎せ給ふべからず。勸持品云不輕品云。命有有限不可惜遂可願者佛國也云云。

文永八年十一月二十三日

日蓮花押

富木入道殿御返事

小僧達少少還候。此國爲體在所之有様可有御問候。難載筆端候。

○秀句十勝鈔 啓三一 鈔二二三 音下三一 拾六一 扶一一五四

佛說已顯真實勝一
 佛說經名示義勝二
 無問自說果分勝三
 五佛道同歸一勝四
 佛說諸經校量勝五
 佛說十喻校量勝六
 即身六根互用勝七
 即身成佛化道勝八
 多寶分身付屬勝九
 普賢菩薩勸發勝十

秀句
法華經
超過一
代有十

秀句三卷傳教大師ノ作
人王五十代桓武平城嵯峨
弘仁十三年六月四日遷化

佛說已顯真實勝一

未顯已顯比肩ヘテ諍ソヒ先キテ乘一乘訴テ權チ是非ハ。現在ノ蠶食者造テ偽章數卷ヲ謗シ法ヲ亦レ謗シ人ヲ謗シ法華經ヲ則レ爲シ權ト亦レ爲シ密ト云云。羽翼ニ云問フ若シ法華是權教ノ攝者何カ故シ經ニ云ヒ世尊法久後要當說真實ト又ニ云フ今爲汝等說最實事ト是即說テ四十年前ノ教ハ是權法華ノ後ノ教ハ是實教ノ攝ト。即同下無量義經ニ云フ四十年前ノ前方便ノ說故ニ

得果差別上何レ法華ヲ名シ權教ト。答フ是據テ不定性ノ根機熟前後ニ而說ク不レ約シ頓悟ト。此レ復レ云フ何レ不定性ノ二乘從リ四十年前ハ不レ熟シ一乘ノ根機ニ由テ此ニ如來不レ爲シ說カ一乘ヲ故ニ名シ世尊法久後ト。今至法華會ニ其根純熟堪聞ニ一乘ヲ故ニ名シ要當說真實ト。頓悟ノ菩薩從リ始テ華嚴ニ至テ涅槃ノ教ニ恆ニ聞キ一乘ヲ常ニ授ル記ヲ故ニ不レ名シ法久後ト。常ニ聽ク受ル一乘ヲ真實ノ法ヲ故ニ不レ名シ復タ要當說真實ト。又ニ云フ舍利弗自領解云我昔從佛ニ聞キ如レ是ノ法ヲ見ル諸ノ菩薩ノ受記作佛ヲ而我等ハ不レ預ス斯ノ事ニ甚ク自感シ傷シ失ル於レ如來ノ無量ノ知見ヲ已上。蠶食者取テ經ノ意ヲ云ク此レ即從リ華嚴ノ會ニ後四十餘年見テ頓悟ノ菩薩ノ受記作佛ヲ發シ咨嗟ヲ悔ム。准シ此文ニ知ス約シ頓悟ノ菩薩ニ不レ名シ世尊法久後ト不レ稱シ要當說真實ト。唯舍利弗等ノ不定性ノ聲聞四十年前ノ前住シ小乘果ニ未ダ聞カ一乘ヲ未ダ受ル佛記ヲ故ニ約シ聲聞ニ名シ法久後ト。今至法華ノ會ニ聞キ一乘ヲ法ヲ受ル佛ノ記ヲ故ニ稱シ要當說真實ト。此秀句ハ弘仁十二年太歲仁十三年六月四日遷化傳教大師御作。秀句三卷法華十勝。得一羽翼三卷七教二理四證二理。

佛說經名示義勝二

當レ知ル果分之經具三十七ノ名ヲ秀句ノ一名ニ無量義經ト。迹中諸經不レ談シ佛意ニ故名ニ有量ニ無量一況ヤ成道後處ニ一名ニ最勝修多羅ト。三名ニ大方廣ト。四名ニ教菩薩法ト。五ノ名ニ處開廢名ニ無量一。二名ニ最勝修多羅ト。三名ニ大方廣ト。四名ニ教菩薩法ト。五ノ名ニ

佛所護念。六名一切諸佛祕密法。七名一切諸佛藏。八名一切諸佛祕密處。九名能生一切諸佛。十名一切諸佛道場。十一名一切諸佛所轉法輪。十二名一切諸佛堅固舍利。十三名一切諸佛大巧方便經。十四名說一乘經。十五名第一義住。十六名妙法蓮華經。私云經字有無異本也十七名最上法門。錢七分略知三法華論十七名中意者第十六既秀句云當知歷劫修行頓悟菩薩終不得成無上菩提。未可知菩提。大直道。故終不得之言。大小俱有。直道直至。已顯。日興。是故法華經。宗。諸宗中。最勝。法相之贊。慈恩大師法華疏等並畏智空。大日經。疏法藏。華嚴經。疏等法華並一切經。意順不。

無問自說果分勝三

謹案法華經方便品云爾時世尊從三昧乃至所不能知。又偈云不退。已上又經云佛所成就乃至乃能究盡。已上如是等示果分。法。又云諸佛世尊唯以一大事因緣故出現於世。已上當知爲一乘。故出。現。於世。不爲三乘。出。現。於世。果分。一乘徧施。衆生。寧。門外。索。車。門側。住。庵。哉。知。父。知。家。知。車。知。道。豈入。歷劫。路。過。迂回。道。哉。故譬論品云今所應作唯

佛智慧。已上菩薩。智慧。不。所。應。作。是。故。又云若善男子善女人我滅度後竊爲一人說法華經乃至一句當知是人則如來使如來所遣行如來事。已上明知說法華經一人即是如來。使。即。行。如。來。事。又云略之。又神力品云以要言之如來一切所有之法。也如來一切自在神力。也如來一切祕要之藏。也如來一切甚深之事皆於此經宣示顯說。已上明。知。果。分。一。切。所。有。之。法。果。分。一。切。自。在。神。力。果分。一切。祕要之藏。果分。一切。甚深之事皆於法華宣示顯說也。夫華嚴經者。但說住上地上。因分未說。如來內證。果分。故天親十地論云。因分可說。果分不可說。者。即其事也。當知。果。分。勝。於。因。分。夫三十唯識論。一卷二紙。天親本頌。依華嚴等。經。立。三。唯。識。義。乃至是。故。不。足。對。比。妙。法。華。宗。夫。中。百。十二。門。七。卷。論。者。龍。提。二。菩。薩。所。造。採。集。大。乘。無。相。空。教。已。明。知。但。說。因。分。空。歷。劫。修。行。未。說。果。分。空。大。直。道。誠。願。一。乘。君。子。依。憑。佛。說。莫。信。口。傳。仰。信。誠。文。莫。信。信。僞。會。天。台。所。釋。法。華。經。宗。勝。於。諸。宗。寧。空。所。傳。哉。真。已。上。爲。卷。之。一。又。有。法。華。經。花。押。

五佛道同歸一勝四

總諸佛過去。諸佛現在十方。諸佛未來。諸佛當出。於世云云。當知未來諸

佛彌勒無著等先以方便說三乘法。法相所傳三乘等宗未究竟故。不
 眞實說。華嚴三論二宗所傳准之。可知也。又云佛滅度後六百年。經
 宗論宗。九百年中。法相一宗。說歷劫。行引接衆生。是故未顯眞實。
 並被包含也。又云指法華之前四時之教。經云四十餘年未顯眞實。阿毗
 達摩兩箇宗修多羅。華嚴宗四十餘年。被包含故。未究竟。故佛無會釋
 也。又云華嚴一道深密。一乘成不成。二說俱存。是故諍論之本。法華一
 乘。皆悉成佛。是一說。故不諍論本。佗宗所依。經隨其本性。說天台法
 華宗。出世本法。說當知後一之宗。勝於諸宗也。日蓮疑云。華嚴涅槃金光
 明深密等。天台妙樂傳教。御釋可知。難知密嚴經云。十地華嚴等大樹。與
 神通勝鬘及餘經。皆從此經出。如是。密嚴經一切經。中勝。大雲經。第四
 云。是經。即是諸經。轉輪聖王何。以故。是經典。中宣說衆生。實性佛性常住。
 法藏故。大論云。本起經斷一切衆生疑。經華手經法華經雲經大雲經法雲經彌勒
 問經六波羅蜜經摩訶般若波羅蜜經。如是等。無量無邊阿僧祇經。或佛說或
 化佛說。或大菩薩說。或聲聞說。或諸得道天說。是事和合。皆名摩訶衍。
 此諸經。中般若波羅蜜最。大。

佛說諸經校量勝五

謹案法華經法師品云。我所說諸經。而於此經。中法華最第一。已上。當
 知。斯法華經。者諸經之中。最爲第一。釋迦世尊立宗之言。法華爲極。金口
 校量深。可。信受。哉。又云。爾時。而此經。者如來現在。猶多怨嫉。況滅度後。
 已上。當知。已說。四時。經今說。無量義當說。涅槃經。易信易解。隨佗意。故。此法
 華經。最。爲難信難解。隨自意。故。隨自意。說。勝於隨佗意。但無量義。隨佗
 意。指。未合。一邊。不。餘部。隨佗意也。語代。則像。終。末。初。尋。地。唐。東
 羯。西。原。人。則五濁之生。鬪諍之時。經云。猶多怨嫉。滅度後。此言。良有以也。又
 安樂行品云。文殊師利。是法華經。於無量國。中。乃至名字。不可得。聞。何。況
 得。見。受。持。讀。誦。已上。當知。天台所釋。法華宗。名字。難。聞。何。況。讀。誦。佗宗。無
 此。歎。何。不。歸。法華。有。人。問。曰。法相宗。人造。法華。贊。盛。弘。法華。其。疏。記
 等。數。百。卷。又。三。論。宗。人造。法華。疏。盛。講。法華。今天。天台。法華。宗。有。何。異。釋。
 勝。於。二。宗。耶。答。若。論。異。釋。者。玄。疏。籤。記。四。十。卷。今。指。一。隅。令。知。三。方。一。法
 相。宗。人。以。成。唯。識。爲。尊。主。一。屈。法。華。義。令。歸。唯。識。雖。贊。法。華。經。還。死。法
 華。心。故。湛。然。記。云。唯。識。滅。種。死。其。心。以。一。乘。妙。行。爲。三。眼。以。三。再。生。敗。種。

爲二心腑一以二顯本遠毒一爲二其命一。而卻以二唯識滅種一死二其心一。以二婆沙苦確一掩二其眼一。以二毒豈一
 爲二釋疑一母二其命一以二常住不遍割二其喉一。以二二界八獄一爲二八科一形レ斯爲レ小以二一乘四德一爲二小
 義二無レ可二會歸一據レ斯。當レ知レ其義懸別ナルヲ。又二論宗ノ人雖レ造二法華ノ疏一其義
 未二究竟一是レ故ニ嘉祥大徳ハ歸二伏ス稱心一。案ニ高僧傳ノ第十九ヲ灌頂晩ニ出二稱心
 精舍一開講。法華ヲ跨ニ於朗朗龍ニ超ニ於雲雲印ニ僧印方集奔隨負レ篋ヲ書誦ス。有レ
 吉藏法師一興皇ノ入室嘉祥結レ肆ヲ獨リ擅求ニ借シテ義記ヲ尋ニ閱メ淺深ヲ乃チ知レ體解心
 醉有レ所レ從ル矣。因テ廢レ講散レ衆投ニ足。天台ニ滄ニ稟シ法華ヲ發誓弘演也。當レ知
 雖レ有レ法華ノ疏ニ不レ如二天台ノ釋一。

嘉祥ノ法華玄ニ十卷

三種法輪

華嚴ハ根本

三昧ハ枝末

法華ハ攝末歸本

又云會ニ破ニ

已一般 若

今一法 華

當一涅槃等

又云五時

阿含般若方等

法華涅槃

記ノ三ニ云ク嘉祥身沾ニ妙化ニ義已ニ灌神ニ文。又云ク舊章須レ改ム若シ依ニ舊立ニ師資
 不レ成セ。伏膺之說靡レ施頂戴之言奚ソ寄。輔ノ三ニ云ク嘉祥者寺ノ名在ニ會稽ニ王

義之捨宅ヲ所立吉藏ハ胡郷ノ所生世ニ稱ニ覺海ト。心ニ包ニ難伏之慧ヲ口ニ瀉ニ
 如流之辯ヲ著ニ述シ章疏ヲ領徒ヲ盛化ヲ。大師吉初テ至ル陳ノ都ニ有ニ沙彌法盛ニ造レテ
 席ニ數問フ法師吉無レ對。法盛時ニ年十七身小聲大。法師吉嘲曰。爾那ソ不
 摧レ聲ヲ補ハ體ヲ吉法盛應レ聲ニ對テ曰ク法師何ソ不削レ鼻ヲ填。眸○吉藏良久ク咽更ニ
 調メ曰ク汝好好問フ爾梨好好爲レ汝答。法盛曰ク野干ノ和上ハ著在ニ經文ニ胡作ニ閣
 梨ト出ニ何典據ニ。吉藏泣テ謂テ曰ク尺水ハ計無ニ丈波。法盛曰ク余カ水ハ雖レ不能レ泛ニ
 於鯨鰓一亦足レ淹ニ於蟻蜂一。吉藏又問フ誰カ爲ニ汝カ師一汝ハ誰カ弟子。法盛曰ク宿
 王種覺天人衆ノ中ニ廣ク說ク法華ヲ是我等カ師我ハ是弟子。講散乃チ捨テ山水納一領ヲ
 用テ奉ニ大師一。遂ニ即チ伏膺シ講ニ法華ヲ身ヲ爲ニ肉磔ト用テ登ニ高座一。後因レ借ニ
 章安ノ義記ヲ乃彌達ニ淺深ニ體解ケ口ニ鉗身踊リ心醉ニ廢レ講ヲ散レ衆ヲ投ニ足。天台ニ滄ニ
 稟シ法華ヲ。弘演頂戴永永。豈ニ生ニ異轍ヲ。續高僧傳ノ十九ニ云ク道宣 晩ニ出テ發シ
 誓ヲ弘演ス。至ニ十七年ニ智者現シ疾ヲ瞻ニ侍シ曉夕ニ艱劬盡レ心ヲ。爰ニ及ニ滅度ニ親
 承ニ遺旨ヲ乃奉テ留書並諸ノ信物ヲ哀泣跪授ス。晋王乃五體ヲ投シ地ニ悲淚頂受シ事遵ニ
 賓禮ニ情敦ニ法親ニ。尋楊州ノ總管府司馬王弘送テ頂ヲ還レ山ニ爲ニ智者ノ設ニ千僧齊一
 置ニ國清寺一。日蓮云ク以ニ此龜鏡一案云ク謗法謗人ハ不レ向ニ其法ト人一罪不レ滅セ歟。

弘法慈覺智證、如何法藏澄觀慈恩善導善無畏金剛智不空、如何。又經云、當知未說法華前、所說諸經等、不足於中、珠。又經云、於諸經中、最在其上。明知天台所釋、法華之宗、釋迦世尊所立之宗、是諸如來、第一之說。於諸經中、最在其上。大牟尼尊豈有愛憎、是法、道理是、可讚耳。天親論師、為說無上、良有以也。天台法華宗、勝諸宗者、據所宗經、故不讚毀、庶有智君子、尋經定宗。

佛說十喻校量勝六

謹案法華經、藥王菩薩本事品云、宿王華譬、如一切、川流江河諸水之中、海為第一。此法華經、亦復如是、是於諸如來、所說經中、最為深大。天台法華玄云、之明知、佗宗所依、經無有二、大海、德、唯有法華宗、大海深大、德、喻、文句、十云、說、窟、本地、為深、遍、一切處、為大、云云。又云、須彌山為第一。又云、又如、衆星之中、月天子、最為、為照明。又云、水月、本門、譬、又云、又如、日天子、能、除、諸、闇、此經、亦復、如是、能、破、一切、不善、之、闇。又云、燈、炬、星、月、與、闇、共、住、譬、諸、經、存、二、乘、道、果、與、小、星、並、立、上、故、日、能、破、闇、故、法華、破、化、城、除、草、庵、故、又、日、映、奪、星、月、令、

不現、故、法華、拂、迹、除、方便、故、蓮、云、迹、門、譬、月、本、釋、籤、一、云、但、取、日、明、能、映、諸、明、故、秀句、當、知、佗宗、所、依、經、破、闇、之、義、未、圓、滿、故、日、照、高、山、未、照、幽、谷、雖、照、幽、谷、未、照、平、地、天、台、法華、宗、已、照、平、地、時、山、谷、俱、照、故、能、破、不、善、闇、深、有、以、也。又云、當、知、未、顯、真、實、四、十、餘、年、所、說、衆、經、等、如、彼、諸、王、佗宗、所、依、經、諸、經、之、王、等、有、一、兩、句、文、當、分、為、王、故、不、名、轉、輪、王、已、顯、真、實、日、所、說、法華、經、知、此、轉、輪、王。天、台、法華、宗、於、衆、經、中、最、為、其、尊、是、故、勝、於、諸、宗、者、不、是、臆、說。帝、釋、五、佛、子、善、薩、分、喻、大、如、海、高、如、山、圓、如、月、明、如、日、自、又、云、第、六、譬、又、如、大、梵、天、王、一、切、衆、生、之、父、此、經、亦、復、如、是、一、切、賢、聖、學、無、學、及、發、善、提、心、者、之、父。又云、經、與、立、開、合、為、顯、王、中、王、中、之、王、喻、於、法華、明、知、佗宗、所、依、經、不、是、王、中、王、。天、台、法華、宗、獨、為、三、王、中、王、。略、大、日、經、第、七、云、我、依、大、日、經、王、說、金、剛、頂、經、云、大、教、王、經、蘇、悉、地、經、云、於、三、部、中、一、部、中、一、此、經、為、王、云、云。日、薄、云、大、日、三、部、經、小、王、之、中、王、中、王、之、內、將、亦、王、中、王、勝、歟、當、知、佗宗、所、依、經、雖、有、一、分、佛、母、義、但、然、有、愛、闕、嚴、義、。天、台、法華、宗、具、嚴、愛、義、一、切、賢、聖、學、無、學、及、發、善、薩、心、者、之、父、。又、如、一、切、凡、夫、人、中、須、陀、洹、斯、陀、含、阿、那、含、阿、羅、漢、辟、支、佛、為、第、一、此、經、亦、復、如、是。一、切、如、來、所、說、若、菩、薩、所、說、若、聲、聞、所、說、諸、經、法、中、最、為、第、一。有、能、受、持、是、經、典、者、亦、復、如、是、

於一切衆生中亦爲第一ナリ已上。玄略。當知ル他宗所依ノ經ハ未タ最ニ第一ナリ其能ク持ツ經ヲ者モ亦未第一ナリ天台法華宗所レ持ツ法華最爲ニ第一ナリ。故ニ能ク持ツ法華ヲ者モ亦衆生中第一ナリ已ニ據ル佛說ニ豈ニ自ラ歎哉。第八ノ日蓮疑テ云ク眞言宗ノ畏智空法覺證ト與ニ傳教大師未學ノ法華ノ行者ノ四衆ニ勝劣如何。又云ク第一一切聲聞辟支佛ノ中ニ菩薩爲ニ第一此經亦復如是於一切ノ諸ノ經法ノ中ニ最爲ニ第一已上。又云ク如三佛ノ爲ニ諸法ノ王此經亦復如是諸經中ノ王已上。又云ク私入又樂王品ニ舉テ十譬ヲ歎ス教ヲ。今引ク其六大如ク海ノ高如ク山ノ圓ナル如ク月ノ照ス如ク日ノ自在ナル如ク梵王ノ極ナル如ク佛ノ又云ク月ハ能ク虧盈故ニ月ハ漸ク圓ナル故ニ法華亦爾同體ノ權實故會レ漸ナ入ル頓故燈炬星月ハ與レ闇共住ス譬諸經存ニ二乘ノ道果ヲ與レ小立上故日ハ能ク破レ闇故法華ハ破レ化城ヲ除ク艸庵ヲ故ニ又日ハ映ニ發ニ星月ヲ令レ不レ現故法華ハ拂レ迹ヲ除ク方便一故ニ籤一云ク次ニ月ノ譬者實ハ如ク盈權如ク虧同體ノ權實ハ如ク月輪ノ無レ缺會漸テ入レ頓ニ如ク明相ノ漸ク圓ナル故ニ知前教相ノ中ニ云ク是漸頓者與ニ月ノ譬意同經中以レテ星ヲ比シ月天子雖レ舉ニ天子ノ經ニ合既云ク此法華經最爲ニ照明一故今但取レリ圓亦兼テ以レ明爲譬ト次ニ日ノ譬中復タ燈炬今合ニ日ノ譬中云ク破レ化城故但取レリ日ノ明能映ニ諸明一故耳若更合者亦可下レ以レ燈等四一

譬二乘及通別菩薩上立與ニ無明一共ニ住ス故也。故ニ次ニ重テ引ク中ニ略舉星月ヲ而除二方便一故知方便ノ所收復廣キ。此秀句云ク天台ノ法華云ク月ハ能ク乃至燈炬星月ハ與レ闇共住ス。譬諸經存ニ二乘ノ道果ヲ與レ小立上已上乃至譬竟又云ク如ク日天子乃至譬竟。第十喻佛ヲ法王ニ。日蓮云ク迹佛ハ長者ノ位本佛ハ法王ノ位歟。此秀句云ク他宗所依ノ教都無此十喻一唯有法華此十喻。若他宗經雖有ニ此喻當分跨節ヲ分別耳。釋尊立宗法華爲レ極ト本法之故待レ時ヲ待レ機ヲ論師立宗自見爲レ極隨宜之故立空立有誠願有智聖賢女佛說ヲ可レ爲ニ指南一譬竟。論師立宗自見爲レ極云ク授決集云ク徵他學決五十二眞言禪門華嚴二論唯識律宗成俱二論等乃至認誦眞言不レ會ニ三觀一心妙趣一。恐同別人不レ證ニ妙理一所以ニ逐ニ他ノ所期之極准理ニ我宗之可レ徵ス。因明道理ハ與ニ外道一對ス多ク在ニ小乘及以レ別教。若望法華華嚴涅槃等經是攝引門權對機設終以テ引進ス也令邪小之徒會ニ至眞理上也所以論時存ニ于四依擊目之志莫執ニ著之。又須下將レ他ヲ對ニ檢シ自義隨テ決中是非上莫執ニ怨之。大底他多ク在ニ三教故圓旨至少耳云ク日蓮云ク園城寺ノ末學等請具見ニ此決。智證大師一生之間未思定歟。但此一段載ニ師ノ言一歟。悲哉當

世叡山園城東寺等真言宗ノ學者等深ク恃^{シテ}初ノ獲^テ永ク沈^ム井ノ底ニ云云。

即身六根互用勝七

謹^テ案^{スルニ}法華經法師功德品云ク當^レ得^ル八百ノ眼ノ功德千二百ノ耳ノ功德八百ノ鼻ノ功
德千二百ノ舌ノ功德八百ノ身ノ功德千二百ノ意ノ功德上。以^テ是ノ功德ヲ莊^{シテ}嚴^{シテ}六根^ヲ皆
令^ニ清淨^{ナラ}已^ヒ。當^レ知^ル受持^シ法師一讀^シ法師二誦^シ法師三解說四寫^シ法師是^レ五
種法師各依^テ法華經^ニ各獲^ル六千ノ功德。其六即位ノ中ノ第四相似即^レ位也。父母
所生清淨肉眼明^ニ知^ル父母所生即身ノ異名偈云ク雖^レ未^レ得^ル天眼^ヲ肉眼ノ力如^シ是^レ
已^上。當^レ知^ル實經ノ力用^ハ肉眼^ヲ令^レ淨^{カラ}。經都^テ無^シ此眼ノ用^一。天台法華宗
具^ニ有^ル此眼ノ用^一。又云ク雖^レ未^レ得^ル無漏法性之妙身^ヲ以^テ清淨ノ常體^ヲ一切於^レ中
現^ス。天親菩薩謂^ク諸ノ凡夫以^テ經力^ニ故^ニ得^ル勝根ノ用^一已^上。當^レ知^ル諸ノ凡夫人可^ク
修學^ス經也。佗宗所依ノ經都^テ無^キ此力^ニ故^ニ天台法華宗具^ニ有^ル此力^ニ故^ニ。權實可^ク
檢^ス妙行可^レ進^ム互用之文如^シ論^ニ具^ニ說^カ。玄六ニ云ク釋^ニ大^ニ三^ニ根^ハ三^ニ根^者種種ノ義
強^キ故^ニ有^ル千二百ノ功德^ニ三^ニ根^ハ三^ニ根^者力^ヲ弱^キ故^ニ但^レ八百ノ功德者云云。蓋^シ一途ノ別
說^{ナリ}非^ニ經ノ圓意^ニ文。又云ク能等又云ク能縮又云ク能盈。又云ク經ニ云ク若能持^ツ是ノ經^ヲ
功德^ハ則^レ無量如^ク虛空ノ無邊^ニ其福不可^レ限^ル互用之意彰矣。籤九ニ云ク四念處ニ云ク

六根清淨^ニ有^ル真^有似^真如^ク華嚴ノ說^ニ初住十^種六根^一也似^ハ如^シ法華^ノ。日蓮私ニ云ク大日經ノ六
根互用ノ疏等^ニ如^シ天台宗^ノ云云。隨^テ慈覺智證等承^ニ用^ス之^ヲ可^レ爾^ル不^ヤ。文句ノ十
云ク正法華^ニ整束^シ具^ニ六千ノ功德^ニ不^レ論^セ上中下^ヲ。又云ク今經ノ六根清淨^ハ與^ニ大品^一
同^シ以^テ是ノ功德^ヲ莊^{シテ}嚴^{シテ}六根^ヲ與^ニ正法華^一同^シ。玄六ニ云ク正法華功德正等等^ノ千^{ナリ}。
又云ク能等^ハ如^ク正法華^ニ說^カ能縮^ハ如^ク身眼鼻之八百^ノ能盈^ハ如^ク耳舌意^ノ千二百^ノ。
經^ニ云ク若能持^ツ是ノ經^ヲ功德^ハ則^レ無量如^ク虛空ノ無邊^ニ其福不可^レ限^ル互用之意彰矣^カ。
正^ニ云ク受^メ是ノ經典^ヲ持讀書寫^{セバ}當^レ得^ル千眼功德之本八百^ノ名稱千二百^ノ耳根千二
百^ノ鼻根千二百^ノ舌根千二百^ノ身行千二百^ノ意淨^上。是^ヲ爲^ス無數百千品ノ德^ト則^レ能^ク
嚴^シ淨^ス六根ノ功^ヲ。又云ク八百ノ諸ノ名稱清淨目^ノ明朗^又云ク得^ル八百ノ鼻ノ功德^ヲ。又
云ク逮^ニ得^ル身行八百ノ功德^ヲ。首楞嚴經第四^ニ云ク六根之中各各ノ功德^ニ有^ル千二百^ノ。
阿難汝復於^レ中^ニ克^ク定^シ優劣^ヲ如^ク眼ノ觀見^一後暗^ク前^ハ明^前ノ方^ハ全^ク明^後ノ方^ハ全^ク
暗^シ左右旁觀^ニ三分^ノ之二^ニ。統^テ論^{スルニ}所作^ラ功德^不全^ニ三分^ハ言^フ功^ヲ一分^ハ無^シ德^也。當^レ
知^ル眼^ハ唯^レ八百ノ功德^ニ如^ク耳ノ周^ク聽^カ十方無^シ遺動^ハ若^ク邇^遙二靜^ハ無^シ邊際^也。當^レ
知^ル耳根ノ圓^ニ滿^ニ一千二百ノ功德^ヲ如^ク鼻ノ嗅^ニ聞^ニ通^ニ出入^ノ息^ニ有^レ出^有入^而闕^ニ中^ニ
交^ラ驗^ニ於^レ鼻根^ヲ三分^ニ闕^ク一^ヲ。當^レ知^ル鼻^ハ唯^レ八百ノ功德^也。如^ク舌ノ宣揚^ノ盡^ニ諸^ノ世

問出世間ノ智一有ニ方分ニ理ニ無シ窮盡ニ當ニ知ル舌根ノ圓ニ滿一千二百ノ功德ヲ如キハ
 身覺レ觸ヲ識ニ於違順ヲ合時ハ能ク覺シ離ニ中不レ知ラ離ハ一合ハ雙ニ驗ニ於身根ヲ三分ニ
 闕レ一ヲ當ニ知ル身ハ唯八百ノ功德ニ如ク意ノ默ノ容中十方三世ノ一切世間出世間ノ
 法上唯聖ト與レ凡無レ不ニ包容盡ニ其涯際ヲ當ニ知ル意根ノ圓ニ滿一千二百ノ功德ヲ
 深く入ニ一門ニ能令ニ六根一時ニ清淨ニ大論册ニ云ク鼻舌身ハ同ク稱レ覺ト眼ハ稱レ見ト
 耳ハ稱レ聞ト意ハ稱レ知ト

即身成佛化道勝八

謹テ案ニ法華經提婆達多品云ク略ニ當ニ知ル此文ハ顯ニ經ノ力用ヲ六趣之中是畜
 生趣明ニ不善ノ報ヲ男女之中ニハ是則女身明ニ不善ノ機ヲ長幼之中是則小女明ニ不
 久修ヲ雖ニ然妙法華甚深微妙ノ方具得ニ嚴ノ用ヲ即ニ知法華ノ力用ハ諸經ノ中ノ
 寶世ニ所ニ希有ナル又經ニ云ク智積略レ之已ニ當ニ知ル智積菩薩此ニ舉テ歷劫修行ヲ
 難ニ即身成佛ヲ信ニ三阿僧祇ノ佛ヲ不レ信ニ須臾ノ成ヲ今時ニ三カ中ニ大ニ所ニ疑難ニ勢
 不レ過ニ之ノ智積ノ難ニ又經ニ云ク以テ偈ヲ讚テ曰ク深ク達シ罪福ノ相ヲ我ハ闡ニ大乘ノ教ヲ
 度ニ脫苦ノ衆生ヲ已上ノ初ノ深達罪福相者罪福多種故ニ四惡道ヲ爲レ罪ト以テ人天ヲ爲レ
 福ト一又人天ヲ爲レ罪ト以テ二乘ヲ爲レ福ト二兩教ノ二乘ヲ以テ爲レ罪ト六度ノ菩薩ヲ

以爲レ福ト三六度ノ菩薩以爲レ罪ト通教ノ菩薩以爲レ福ト四通教ノ菩薩以爲レ罪ト
 罪ト別教ノ菩薩以爲レ福ト五別教ノ菩薩以爲レ罪ト圓教ノ菩薩以爲レ福ト六如キ
 是ノ罪福ノ相如ク理ノ了達故ニ是ノ故ニ名テ爲レ深達ト若シ未ダ達セ六重ヲ不レ得レ名ニ深
 達ト當ニ知ル龍女舉テ深ク達ニ法身ニ引ク證ヲ於唯佛ニ也次ニ經ニ云ク爾時舍利弗語ニ
 龍女ニ言ク汝謂ニ不レ久得ト無上道ニ是ノ事難シ信云云略ニ當ニ知ル舍利弗信ト小乘
 三藏教ノ三僧祇劫ニ修シ六度ノ行ヲ百劫ニ修中相好ノ業ヲ不レ信下法華ノ直ニ至道場ニ須
 臾ノ頃ニ便成中正覺上ノ次ノ經ニ云ク又女人ノ身猶有ニ五障ニ五者佛身云何ノ女身速
 得ニ成佛ヲ已上ノ有人會云ク是ハ此レ權化實凡ハ不レ成セ難ク權ハ是レ引ク實ヲ實凡不
 成佛ニ權化無用經力令レ沒セ釋迦ハ留智積一文殊弘妙法ヲ龍女ハ顯ニ經力ヲ如キ
 是ノ妙ノ論義ハ已顯眞實ノ經ニ宣示顯說也能化所化俱ニ無ニ歷劫ニ妙法ノ經力即身
 成佛ス又云ク佗宗所依ノ經ハ都テ無ニ即身入一雖ニ一分即入一推ニ八地已上ニ不レ許ニ
 凡夫ノ身ヲ天台法華宗具ニ有ニ即入ノ義ニ即身成佛化道之義寧ロ不レ能ク勝ニ於佗
 宗ニ哉文句ノ八ニ云ク智積ハ執ニ別教ニ爲レ疑テ龍女ハ明レ圓釋レ疑テ身子ハ執ニ三藏ノ
 權難シ龍女ハ以テ一實ニ除レ疑ヲ又云ク龍女ノ現成明證ニ復タ一者獻レ珠ヲ表レ
 得ニ圓因一奉レ佛ニ是將レ因ヲ剋レ果ヲ佛受疾者獲レ果ヲ速也此レ即一念坐道場ニ

成佛不_レ虛也。二正_レ示_レ因圓果滿_レ。胎經云_ク私云爾前圓_レ魔梵釋女皆不_レ捨_レ身_ヲ不_レ受_レ身_ヲ悉_ク於_テ現身_ニ得_レ成佛_ヲ。故_ニ偈_ニ言_ク法性_ハ如_ク大海_ノ不_レ說_レ有_ニ是非_一。凡夫賢聖_ノ人平等_ニ無_ク高下_一唯在_ニ心垢_ノ滅_一取_レ證_ヲ如_レ反_レ掌_ヲ。記八云_ク正_ニ示_レ圓果_ヲ中_ニ云_ク龍女作佛_ト者問_フ爲_ニ不_レ捨_テ分段_ヲ即_チ成佛_{スルヤ}。若不_レ即身_ニ成佛_一此龍女_ノ成佛及胎經_ノ偈云何_ト通_レ耶。答_フ今_ノ龍女_ノ文_ハ從_レ權_ニ而說_テ以_テ證_ニ圓經_ノ成佛速疾_ニ若實行_{不_レ疾權行徒_{引_{。是則權實義等理不_ニ徒然_一故_ニ胎經_ノ偈_ハ從_レ實得_ニ說_ク忍意_{。若實行得者從_レ六根清淨_ニ得_レ無生忍_ヲ應_レ物_ノ所_レ好_ム容_下起_ニ神變_ヲ現身_ニ成佛_シ及證_中圓經_ヲ。既_ニ證_ス無生_ヲ豈_ニ不_レ能_レ知_ル本_{無_ニ捨受_一何_ト妨_ニ捨_テ此_ヲ往_レ彼_ニ。餘教_ノ凡位至_テ此會_ノ中_ニ進_{斷_ニ無明_ヲ亦復如_レ是_一。凡_ノ如_レ此_例必_ス須_ク權實_{不_ニ一_ヲ以_テ釋_ニ疑_ヲ妨_ヲ。文句_ノ八云_ク此_ハ是_レ權巧_ノ力_ヲ得_レ一_身一切_{身_ヲ普現色身_ニ三昧也_一。記_ノ八云_ク言_ハ權巧_ト者_{不_ニ必_一向_ニ唯作_ニ權_ノ釋_ヲ。只云_ク龍女已_ニ得_レ無生_ヲ則約_ニ體用_ニ而論_ニ權巧_ヲ非_レ謂_下專_ラ約_ニ本迹_ニ爲_中權巧_ト也。故_ニ權實_ノ二義_ノ經力俱_ニ成_レ佗人釋_レ此_ヲ或_ハ云_ク七地十地等_ト者_{不_レ能_レ顯_ニ經_ノ力用_ヲ故也。輔_ニ云_ク經_ニ深達罪福相者問_フ此是讚_レ佛_ヲ爲_ニ自讚_ト耶。答_フ觀_ニ經_及疏_ヲ是讚_ニ自身_ノ所證_ヲ以_テ釋_ニ智積_之疑_ヲ。日蓮疑_ク云_ク法華_ノ天台妙樂傳教_ノ心_ハ許_ニ大日經等_ノ即}}}}}}}}}}

身成佛_ヲ乎。慈覺智證等許_レ之_ヲ安慧安然等_モ又許_レ之_ヲ隨_テ日本國_ノ末學_モ許_レ之_ヲ。善提心論_ニ云_ク此論龍猛菩薩造_{不_レ空譯_{。或云_ハ不_レ空造_一。唯真言法_ノ中_即身成佛_{故_ニ是說_ク三摩地_ノ法_ヲ於_ニ諸教_ノ中_ニ闕_テ而_{不_レ書_セ。又云_ク勝義行願_ノ三摩地_{第三_ニ言_ニ三摩地_ト者_{云_ク釋_ニ引_ニ金剛頂經_ニ又引_ニ說_テ此_甚深祕密_ノ瑜伽_ヲ令_下修行者_{於_テ內心_ノ中_ニ觀_レ日月輪_{上_ヲ。又云_ク我見_ニ自_ノ心_ヲ形_チ如_シ日月輪_ノ。又云_ク一切_ノ有情_{於_テ心質_ノ中_ニ有_ニ一_分淨性_一衆行_{皆備_レ其體極微妙_ノ皎然明白_一。乃至輪_ニ回_六趣_ニ亦_{不_ニ變易_一如_シ月_ノ十六分之一_一。又云_ク初_ニ以_テ阿字_ヲ發_ニ起_本心_ノ中_{分_ノ明_ヲ只漸_ク令_下潔白分明_一證_ス無生智_ヲ。夫阿字_ト者_一一切諸法_本不生_ノ義_{。准_ニ毗盧遮那經_ノ疏_ニ釋_ニ阿字_ヲ具_ニ有_ニ五義_一。一者阿字_ト是善提心_一。阿字_ト引_聲是善提行_ノ義_{。二暗字_ト引_聲是證善提_ノ義_{。四惡字_ト引_聲是般涅槃_ノ也。開_ノ字_ト者_一開_ニ佛_ノ知見_ヲ即_ニ雙開_ニ善提心_ヲ如_シ初_ノ阿字_ト是善提心_ノ義也。示_ノ字_ト者_一示_ニ佛_ノ知見_ヲ如_シ第二_ノ阿字_ト是善提行_ノ義也。悟_ノ字_ト者_一悟_レ佛_ノ知見_ヲ如_シ第三_ノ暗字_ト是證善提_ノ義也。入_ノ字_ト者_一入_ニ佛_ノ知見_ヲ如_シ第四_ノ惡字_ト是般涅槃_ノ義也。總_{シテ}而言_ハ之_ヲ具足成就_ノ第五_ノ惡字_ト是方便善巧智圓滿_ノ義也。即讚_ニ阿字_ト是善提心_ノ義_一。頌_ニ曰_ク八葉_ノ白蓮_一一肘_ノ間_ニ炳_ニ現_ス阿字_{素光_ノ色_ヲ。禪智俱_ニ入_ニ金剛縛_ニ召_ニ}}}}}}}}}}}}}}}}

入ス如來ノ寂靜ノ智ヲ。五相成身云云一通達心ニ菩提心ニ金剛心四金剛身五證ニ
 無上菩提ヲ獲ニ金剛堅固ノ身ヲ然モ此五相具ニ備成ル本尊ノ身ト也。大毗盧遮那經ニ云ク
 如是ノ眞實心ハ故佛ノ所宣說。又云ク欲ニ求シ妙道ヲ修ニ持次第ニ從リ凡入ニ佛位ニ
 者。即此三摩地ハ者又云ク故ニ大びるさな經ニ云ク悉地ハ從リ心生ス如ニ金剛頂瑜伽
 經ニ說カ。一切義成就菩薩。又云ク故ニ大びるさな經ニ供養次第法ニ云ク若無ニ勢力
 又云ク讚ニ菩提心ヲ曰ク若シ人求ニ佛慧ヲ通ニ達ニ菩提心ニ父母所生ノ身速ニ證ニ
 大覺位ヲ。已上眞蹟。二教論ノ上ニ云ク弘法大菩薩心論ニ云ク諸佛菩薩昔在ニ因
 地ニ發シ是ノ心ヲ已テ。勝義行願三摩地ニ爲シ戒乃至ニ成佛ニ無ニ時。暫忘。唯眞
 言ノ法中即身成佛故ニ是ニ說ク三摩地ノ法ヲ於テ諸教ノ中ニ闕而不ト書セ。喩曰ク此論ハ者
 龍樹大聖ノ所造千部ノ論ノ中ノ密藏肝心ノ論也。是ノ故ニ顯密ニ教ノ差別淺深及ヒ成
 佛ノ遲速勝劣皆說ニ此中ニ。謂ク諸教者佗受用身及ヒ變化身等ノ所說ノ法諸ノ顯教也。
 是說三摩地法者自性法身ノ所說祕密眞言ノ三摩地門是也。所謂金剛頂ノ十萬頌ノ
 經等是也。菩提心義ノ一ニ五大院抄。一菩提心義ニ菩提心論也。問フ此ニ一文ハ是誰ノ說耶。答フ眞言ノ目錄
 並ニ云フ不空ト。私ニ檢ニ二文ヲ論ハ是レ龍樹ノ造不空ノ譯也。菩提心義ハ無ニ造主ノ名ニ而
 古德皆云ニ不空ノ造ト者有ル疑ト也。○問フ若爾菩提心論ニ亦云ク准ニびるさな經ノ

疏ニ釋ニ阿字ヲ具ニ有ニ五義一文。豈ニ非ニ不空引ニ一行ノ記ヲ乎。答フ彼是後人引ニ彼疏ノ
 文ヲ註ニ入論ノ中ニ。而有論本ニ書ニ長行ニ者ハ寫生ノ悞矣。問フ抑大日ノ疏ニ無ニ所引ノ
 文ニ何ソ言レ准レ疏ニ耶。答フ高野ノ十四ト二十ノ卷ニ脫ニ此文ヲ也。慈覺大師遍明和尚圓
 成和上頂覺僧正等ノ本並ニ有ニ此文ニ故ニ知テ高野ノ鈔ノ本脫去。問フ菩提心義ノ末有ニ
 古德ノ註ニ云ク高野大僧正進官入唐學法ノ目錄ノ中ニ云ク不空ノ譯也。今謂ク恐是彼ノ
 不空ノ集取ニ此ノ語ヲ用否ヤ。答フ縱令不空ノ集可シ集ニ祕藏ノ文ニ何ノ故ソ唯集ニ顯教ノ經
 論ニ故ニ難ニ用ヒ也。問フ若終ニ有レ疑ト不用ニ彼五門ヲ耶。答フ眞言ノ古德閉テ目ヲ信用ス
 今須ク言フ不違レ古ニ且ノ用中彼文ノ五門上。問フ古德ノ有ク云ク有目錄ニ云ク菩提心論ハ
 不空ノ集也故ニ非ニ龍樹ノ說ニ此語用否ヤ。答フ論ニ云ク龍猛菩薩ノ造不空奉テ詔ヲ譯
 而ノ言ニ不空ノ集ト者無ク憑一匠用ト。

多寶分身勸付屬勝九

謹ナ案ニ法華經ノ見寶塔品ヲ云ク。爾ノ時ニ多寶佛於ニ寶塔ノ中ニ分テ半座ヲ與テ釋迦牟
 尼佛ニ而作是ノ言ヲ。以大音聲ニ普ク告ニ四衆ニ誰能ク於テ此娑婆國土ニ廣ク說ニ妙
 法華經ヲ。今正ク是時如來不レ久當ニ入ニ涅槃ニ佛欲ニ以此ノ妙法華經ヲ付屬ニ有レ
 在已上。當レ知ル過去ノ多寶現在ノ釋尊同ク坐ニ塔中ニ。十方現在ノ釋迦ノ分身各坐ニ八

方大會一切衆皆在虛空妙法華經付屬有在。佗宗所依經都無此付屬。天台法華宗具此付屬。是故天親菩薩釋論下卷云多寶如來塔示現一切佛土清淨者。其權大乘經彼權一乘經都無此付屬未顯真實故。今實大乘經具有此付屬已顯真實故。佗宗經付屬不如法華宗。又舉六難一重示九易。又經偈云諸餘經典數如恆沙。夫圓教心書持難得東隅一公制。法華中華釋氏斷大律儀。是則爲難深可信心恐哉。夫解圓融三諦一觀讀法華經濁惡世中其人極難得。今時讀法華其數忽似多。雖然無即身六根清淨果由未解了圓融三諦故難。則指法華也。又云夫圓融三諦一乘本法難持難說所化難得爲一人說佛種不斷是則爲難。難則指法華也。當知未顯真實八萬法藏十二部經不二是妙法。是故爲易也。夫佛知佛見其義難解體內權實非機不信。是故聽法華問其義趣是則爲難。難則指法華也。夫當代說法未令一人證得羅漢。何況二三四五六七八九何況無量無數恆沙衆生。令得阿羅漢乎。而執小乘威儀不順法華二制。復大乘威儀但許兩聚戒。寧解了大小權實之義者哉。既舉得果阿羅漢雖有是益亦未爲難何。

固執其威儀萬億行者引小道。小乘持戒即菩薩之煩惱蓋。謂此事歟。但除不執小儀也。又云佗宗所依經未出九易局。天台法華宗獨居六難頂。誰有智者不別經文哉。如是等校量付屬佗宗經所無。唯有法華經。淺易深難釋迦所判去淺就深丈夫之心也。天台大師信順釋迦助法華宗敷揚震旦。叡山一家相承天台助法華宗弘通日本。夫玄贊之家會法華旨歸唯識之義。是則弘唯識宗不弘法華。無相之家會法華旨歸無相之義。是則弘無相宗不弘法華。是故天台一家會一切經歸法華經。是則敷揚法華會通諸經委曲之義。出玄疏也。日蓮疑云。大日經等九易之內。歟六難之內。習學佛法之輩猶留。意日本國弘法慈覺智證漢土善無畏金剛智不空等云云。日蓮云。漢土日本智人等拘此六人今生亡國後生招無間歟。乞願一切學者等捨人附法勿空一生。

普賢菩薩勸發勝十

謹案法華經普賢菩薩勸發品云。略之當知普賢菩薩決得法華勸發滅後持經者也。得經之義意趣甚多。得卷得義得思得修經六即位。

可レ分別ス耳。又云ク爾ノ時ニ普賢菩薩復白シ佛ニ言ク世尊於ニ後ノ五百歲ニ當レ知ル法華眞實ノ經ハ於ニ後ノ五百歲ニ必應ニ流傳ス也。普賢ノ正身守ル果分ヲ故ニ護テ持經者ヲ令レ得ニ安穩ナ。佗宗所依ノ經都テ無シ此勸發ニ天台法華宗具ニ有リ此勸發一。當レ知ル普賢菩薩現シ身ヲ供テ養ス讀シ誦ス法華者ヲ夫果分之經ハ者因位菩薩ノ人可レ尊フ可レ貴フ故ニ供ニ養ス法華經ヲ。佗宗所依ノ經都テ無シ此供養一亦無シ此安慰一。天台法華宗具ニ有リ此供養一亦有リ此安慰一勸發之功ハ盡ス果分ノ經ニ。又云ク圓融三諦ノ義陀羅尼ハ唯ニ有リ法華餘經都テ無シ。佗宗所依ノ經都テ無レ得ル圓益ヲ天台法華宗具ニ有リ得ル圓益一。勸發之功ハ盡ス果分ノ經ニ。又云ク世尊若後世ノ後五百歲濁惡世ノ中云ク當レ知ル法華經ノ力故ニ後世ノ後五百歲ニ圓機ノ四衆等一。又云ク經ニ又云ク亦復與ニ其ニ陀羅尼咒ヲ得ル是レ陀羅尼一故ニ云云。當レ知ル爲レ護シ法華經ヲ眞言ヲ與ニ持者ニ自身常ニ守護ス。佗宗所依ノ經都テ無シ此勸發ニ天台法華宗具ニ有リ此勸發一。妙法ノ眞言ハ佗經ニ不レ說カ是故ニ法華宗ハ勝リ於ニ論宗ニ亦勝リ於ニ華嚴宗ニ。又云ク夫佛知佛見ノ內證之經ハ難ク信シ難ク解シ果分之教ハ獨リ秀テ諸經ニ無ク對無レ比一。全身ノ舍利亦ハ上亦ハ一深ク信シ金口ヲ。又云ク天台法華宗能說之佛ハ久遠實成所說之經ハ譬中明珠一。能傳之師ハ靈山ノ聽衆所傳之釋ハ諸宗ノ憑據委曲之依憑ハ具ニ有リ別卷也一。又云ク

日蓮疑テ云ク傳教大師不レ破セ眞言宗ヲ乎。答フ依憑天台集序ニ前入唐受法沙門傳ニ天台一傳法ハ者諸家ノ明鏡也。陳隋以降興唐ハ已前ノ人ハ則歷代稱爲ニ大師一法ハ則諸宗之證據ニ矣一。故ニ梁肅ノ云ク夫治世之經ハ非ニ孔門ニ則ニ三王四代之訓一覆而不レ彰一。出世之道ハ非ニ大師ニ則ニ三乘四教之旨一晦而不レ明者也。我日本天下ハ圓機已ニ熟一圓教遂ニ興一此間ノ後生各執シ自宗ニ偏ニ破ニ妙法ヲ。新來ノ眞言家ハ則泯シ筆受之相承ヲ舊到ノ華嚴家ハ則隱シ影響之軌模ヲ沈空ノ三論宗ハ者忘レ彈呵之屈恥ヲ覆フ稱心之心醉一。著有ニ法相宗ハ非ニ僕陽ノ之歸依一撥ニ青龍ノ之判經一。最澄南唐之後ニ稟ク此一宗一東唐之訓ニ閱ニ彼戒疏一。拾ヒ圓珠ヲ於海西ニ獻シ連城ヲ於海東ニ略示シ菽麥之殊一悟シ目珠之別一。謹テ著ニ依憑一卷一贈ニ同我一後哲ニ其時ハ興日本第五十二葉弘仁之七丙申之歲也。大唐新羅諸宗ノ義匠依ニ憑ニ天台一義ニ集ニ一卷一前入唐習業沙門最澄撰。大唐南岳ノ眞言宗沙門一行同ニ天台一三德數息三諦ノ義ニ。其毗盧遮那經ノ疏第七ノ下ニ云ク三落一又是數數ハ是世間也。出世ノ落ハ又是見ニ三三相一謂ク字印ト本尊ト。隨テ取ル其一一合相是也。字印尊等身語心等名レ見ニ實相一。乃至能ク令ニ持誦一者淨一令ニ一切ノ罪一除カ若不レ淨一更ニ一月等一如レ前一也。所說念誦ノ數謂ク牒ニ上一文一也不レ應レ異ニ此法則一也。是レ故ニ令ニ耳聞一息ヲ出ル時ハ字出テ入ル時ハ字入リ令ニ隨レ息ニ出入一也。今謂ク天

台之誦經、是圓頓、數息是此意也。猶如天台ノ法身般若解脫、義云云。天竺ノ名僧聞大唐天台ノ教迹最堪、上簡邪正ヲ渴仰訪問緣。法華文句ノ記、第十卷ノ末云、適與江淮ノ四十餘僧、往禮臺山。因見不空三藏、門人含光奉敕、在山ニ修造云、與不空三藏親遊、天竺ニ。彼有僧問曰、大唐有天台ノ教迹、最堪下簡邪正、曉中偏圓、可三能譯之ヲ。將至此土ニ耶。豈非中國ニ失法ヲ求之ヲ四維ニ。而此方ニ少識者、如魯人ノ耳故、厚德ヲ向道者莫不仰之。敬願學者行者隨力稱讚。應知自行兼人、立異佗典。千年之興五百ノ實復在。今日ニ南岳ノ叡聖天台、明哲昔ハ三業住持、今ハ一尊紹係。豈止灑甘露於振旦ニ亦當震法鼓於天竺ニ生知妙悟。魏晉以來、典籍風諸實、無連類。百餘人請。照了法華、若高輝之臨幽谷、說摩訶衍、似長風之遊大虛。假令文字之師、千群萬衆、數尋彼妙辨、無能窮者。義同指月、不滯筌蹄。理會無生、宗歸一極者也。讚天台一語、吁乎實哉。生知者、上學而知者、次此言有以也。不出庭戶、天下可知。豈空傳哉。此間在比蘇、大唐聞天台。今吾大師雖不函杖、於葱嶺、然靈山之聽、恆存心腑。雖不負經於流沙、而南岳告篤、載簡牘。二藏尋梵偈、於印度、天台振法鼓於天竺。

波倫ハ入漢禮ニ文殊於臺山ニ梵僧來吳ニ謁彌勒於東陽。漢地已ハ有聖秦國何、無賢。支那ノ三藏ハ和諍論於天竺、震旦ノ入師ハ釋群釋於梵本。於彼智略ニ神州亦好於此、義味ニ大唐亦妙。唯敬信於義理、寧口謗人法、招殃哉。貴耳賤目、漢人所嗟、敬遠輕。近此間難免。伏願有心君子、捨愛憎之情、熟察諸宗、憑。今吾天台大師說法華經、釋法華經、特秀於群。獨ニ步於唐。明知如來、使也。讚者ハ積福於安明、謗者ハ開罪於無間。雖然於信者ニ爲天鼓、於謗者ニ爲毒鼓、信謗彼此決定成佛。又偈云、略詎捨福慕罪者哉。願同見於一乘、俱入於合海也。御言爲二卷之下。

明治三十五年三月二十八日於中山法華經寺以御眞蹟奉拜照(稻田海素慶記)

○早勝問答

淨土宗問答。問、六字ノ名號ハ善惡ノ中何耶。答、一義云、今所問善惡ハ世出ノ中何耶。一義云、所云善惡ヲ治定墮獄治定歟。一義云、名號惡ト治定墮獄治定歟。一義云、念佛無間治定其上ニ尋善惡歟。一義云、汝依經ハ權實ノ中何耶。

花押

問フ念佛無間ト云法華無間也。答フ一義ニ云ク法華無間自義歟經文歟。一義ニ云ク念佛無間治定法華無間ト云歟。一義ニ云ク祖師、謗法ヲ治定法華モ無間ト云歟。一義ニ云ク汝カ所云法華ハ超過ノ法華歟又彌陀成佛ノ法華歟。問テ云ク念佛無間ノ證據二十八品ノ中何耶。答フ一義ニ云ク二十八品ノ中有證據一墮獄治定歟。一義ニ云ク誹謗法華ヲ證據也。一義ニ云ク法華ノ文ヲ尋信問フ歟不信問フ歟。一義ニ云ク直ニ入阿鼻獄ノ文ヲ出ス也。一義ニ云ク妙法蓮華經其證據也。一義ニ云ク彌陀ノ背ニ本誓ニ故也。一義ニ云ク彌陀ノ命ヲ斷故也。一義ニ云ク背ニ有緣ノ釋尊ニ故也。念佛無間ハ三世諸佛ノ配立也。問フ止觀ノ念佛ノ事。答フ一義ニ云ク法然所立ノ念佛ハ墮獄治定止觀ヲ問歟。一義ニ云ク西方ノ念佛ト一歟異歟。一義ニ云ク止觀ノ念佛ハ法華ヲ誹謗歟。一義ニ云ク彼文段ヲ可レ問フ。一義ニ云ク依テ止觀ニ淨土宗ヲ建立歟。問フ觀經ハ法華已後ノ事。答フ一義ニ云ク此故ニ法華ヲ謗歟。一義ニ云ク已前無間ハ治定歟。一義ニ云ク汝カ謗法ハ無間をば治定問フ歟。問フ觀經ト法華ト同時也。答フ一義ニ云ク同時故ニ法華ヲ謗歟さては返テ觀經をも謗する也。問フ先師ノ謗法ハ一往也且字ヲ置ク故也。答フ一義ニ云ク且謗せよとは自義歟經文歟。一義ニ云ク始終共ニ謗墮獄ハ治定歟。問フ未顯眞實ハ非ニ往生ニ成佛ノ方也。答フ一義ニ云ク此故ニ法華ヲ謗歟。一義ニ云ク餘

經ハ無得道ト云フ人ハ僻事歟。問フ法華本迹ノ阿彌陀如何。答フ一義ニ云ク法華ノ彌陀ハ法華經を謗せんと誓ヒ給ヒし歟。一義ニ云ク法華ノ彌陀ト三部經ノ同キ歟異歟異ならは無間治定歟。問フ一稱南無佛ト矣何稱名ヲ無益ト云耶。答フ一義ニ云ク此故ニ法華を謗する歟。一義ニ云ク法華ヲ信問フ歟不信問フ歟。問フ法華於諸如來恭敬諸佛ト矣何ノ彌陀ヲ捨耶。答フ一義ニ云ク此故ニ謗ニ法華ヲ歟如レ上。問フ餘深法中示教利喜ト矣何餘經を謗する耶。答フ一義ニ云ク此故ニ法華を謗する耶。一義ニ云ク汝カ誹謗ハ治定問フ歟又自義歟經文歟如レ上。問フ普門品ニ觀世音ノ稱名功德を擧クと見たり何餘ノ佛菩薩ヲ捨耶。答フ一義ニ云ク此故ニ法華を謗する歟。一義ニ云ク此觀音ハ法華を謗する歟。一義ニ云ク依テ此品ニ立ル念佛ヲ歟。私ニ云ク彼經文釋義を引かん時ハ先ツ文段を一一可レ問フ。大段萬事の問には誹謗の言を可レ先ト也。前ノ當家ノ義云云。禪宗問答。問フ禪天魔ノ故如何。答フ一義ニ云ク佛經ニ不レ依故也。一義ニ云ク一代聖教を誹謗する故也。問フ禪者三世諸佛成道ノ始ハ坐禪シ給ヘリ如何。答フ一義ニ云ク汝カ坐禪ハ佛ノ出世に背かば天魔治定歟又坐禪ハ大小ノ中何耶。一義ニ云ク佛ノ端坐六年ハ法華ニ無益ト云フ歟。問フ禪法佛說無益也。答フ一義ニ云ク是自義歟經文歟。一義ニ云クやがて是ガ天魔ノ所爲也。問フ經文是法不可示ト矣如何。答フ

一義ニ云ク此文ハ法華無益ト云フ文歟。一義ニ云ク爾者依ル法華ニ歟。一義ニ云ク文段、以テ可レ責也。問フ龍女ハ坐禪ノ成佛也其故ハ經文ニ深入禪定丁達諸法ト説キ給ヘリ知マ法華無益ト云也。答フ一義ニ云ク此義ハ自義歟經文歟。一義ニ云ク若法華ノ成佛ならば天魔治定歟。一義ニ云ク文殊海中ノ教化ハ論說妙法ト宣たり如何。問フ常好坐禪深入禪定常貴坐禪説けり如何。答フ一義ニ云ク文段ヲ以テ可レ責也。一義ニ云ク此文ハ法華無益ト云フ文歟。一義ニ云ク此文ヲ以テ禪宗ヲ建立歟。問フ唯獨自明丁餘人所不見ト云フ故ニ禪宗ひとり眞性を見て餘人ハ不見ト云フ也。答フ一義ニ云ク文段ヲ以テ可レ責經文ヲ可レ見。問フ像法決疑經ニ云ク一字不説ト矣爾者一代ハ未顯眞實ト聞たり眞實は只迦葉一人教ノ外ニ別傳シ給ヘリ如何。答フ此文ハ佛説歟若佛説ならば汝此文に依ル故ニ自語相違也。一義ニ云ク所レ言迦葉ハ何なる經にて成佛する耶。一義ニ云ク所レ言經文ハ三説ノ中何耶。一義ニ云ク楞伽經ハ佛説歟。問フ三大部ノ觀心有レ之何禪天魔ト云ヤ耶。答フ一義ニ云ク汝ハ三大部にて宗を立ル歟。一義ニ云ク三大部ノ觀心ハ汝カ禪ト同歟。一義ニ云ク汝は天台を師とする歟。一義ニ云ク三大部ノ觀心ハ諸經ヲ捨ル歟。問フ雙非ノ禪ノ事如何。答フ一義ニ云ク一度ハ法華に依り一度ハ法華無益也。一義ニ云ク二義共ニ天魔也。一義ニ云ク此義ニ背者ハ僻事歟。問フ法華宗ハ妙法ノ道理ヲ知ル耶。答フ一義ニ云ク汝ハ天魔ヲ治定問フ歟。一義ニ云ク汝ハ法華ヲ信問フ歟。一義ニ云ク妙法ヲ知テ問フ歟不知問フ歟。一義ニ云ク汝カ所レ問妙法ハ付テ今經ニ有レ百二十ノ妙ニ其品品ヲ問フ歟。一義ニ云ク汝ハ依テ此妙法ニ禪ヲ建立する歟。天台宗問答。問天台宗ヲ無間ト云フ證據如何。答フ一義ニ云ク誹ニ謗法華ヲ故也。一義ニ云ク經文ニ背ク故也。問フ餘經無益ト云事ハ判レ難ク一往ノ意也再往ノ日ハ諸乘一佛乘ト開會ハ何ソ一往ヲ執再往ヲ義ヲ捨ル耶。答フ一義ニ云ク今所レ言開會者何教ノ開會耶。一義ニ云ク於テ今經ニ本迹ノ十妙ノ下ニ各二十ノ開會あり亦教行人理ノ四一開會ノ中何耶。一義ニ云ク能開所開ノ中何耶。一義ニ云ク開會ノ後無ニ善惡ニ云フ歟。一義ニ云ク天台宗ハ法華ヲ信歟。一義ニ云ク開會ノ後諸宗ヲ不レ簡ハ云天台大師僻事歟。其故ハ南三北七云云傳教大師ハ六宗ト云云。一義ニ云ク天台宗ハ可レ致ニ惡行ノ歟性惡不斷ト云故ニ自語相違也ト可レ責也。一義ニ云ク開會ノ後ニ權實ヲ立人ハ僻事歟爾者藥王ノ十論法師ノ三説超過云云。一義ニ云ク此故ニ以テ開會ノ心ヲ慈覺ハ法華ヲ謗歟。一義ニ云ク汝ハ慈覺ノ弟子歟爾者謗法治定歟。問フ善惡不二邪正一如ノ故ニ強善惡ヲ不可レ云也元意ノ重是也。答フ云ク天台ノ出世ハ惡ヲ息爲ノ歟又惡ヲ増爲ノ歟。一義ニ云ク惡事ヲ致法華經二十八品ノ中何處ニ見耶。問フ絶待妙ノ事。答フ一義ニ云ク先ツ文

段ヲ可レ問也。一義ニ云ク何教ノ絶待耶。一義ニ云ク此故ニ慈覺ハ法華ヲ謗歟。問フ相待ハ一往絶待ハ再往ト見如何。答フ自義歟經文歟。一義ニ云ク相待妙一往ト云ク二十八品、中何見耶。一義ニ云ク相待妙ハ法華ニ明歟餘經ニ明歟若法華ニ明法華ハ一往歟。問フ約教約部ノ故ニ約部ノ日ハ一往爾前ノ圓ヲ嫌フ也。答フ一義ニ云ク所ソ言フ約教ハ天台ノ判釋ノ四種ノ約教ノ中何耶。一義ニ云ク約部ノ落居ノ釋歟。一義ニ云ク約部ヲ可レ捨ツ歟。一義ニ云ク約教ノ時爾前ノ圓ヲ嫌者墮獄ハ治定歟。一義ニ云ク約教ノ邊今昔圓同法華經二十八品ノ中何耶。一義ニ云ク玄文ノ第一ノ施開廢ノ三重ノ故ニ明會ノ後餘經ヲ捨云フ文知ル歟不レ知歟。

山門流ノ眞言宗問答。問フ法華第一ト云顯教ノ門也對ニ眞言ニ不可レ云ク第一ト。答フ自義歟經文歟爰ヲ以テ慈覺大師ヲ無間ト申ス也。一義ニ云ク對ニ眞言ニ法華第一ならば亡國治定歟。一義ニ云ク眞言ハ已今當ノ中何耶若外ト云ク一機一緣ノ一往にして不可レ云ク秘密也。問フ法華眞言理同事勝ノ故ニ眞言ニ對すれば戲論ノ法ト云ク歟。答フ一義ニ云クさてこそ汝ハ無間治定なれ。一義ニ云クさては慈覺ハ眞言謗する也其故ハ理同ノ法華ヲ謗故也。問傳教ノ本理大綱集ノ文ヲ以テ顯密同ト云フ事。答フ一義ニ云ク此書ハ傳教ノ御作に非レ也。一義ニ云ク依テ此書ニ法華ヲ慈覺ハ謗歟。

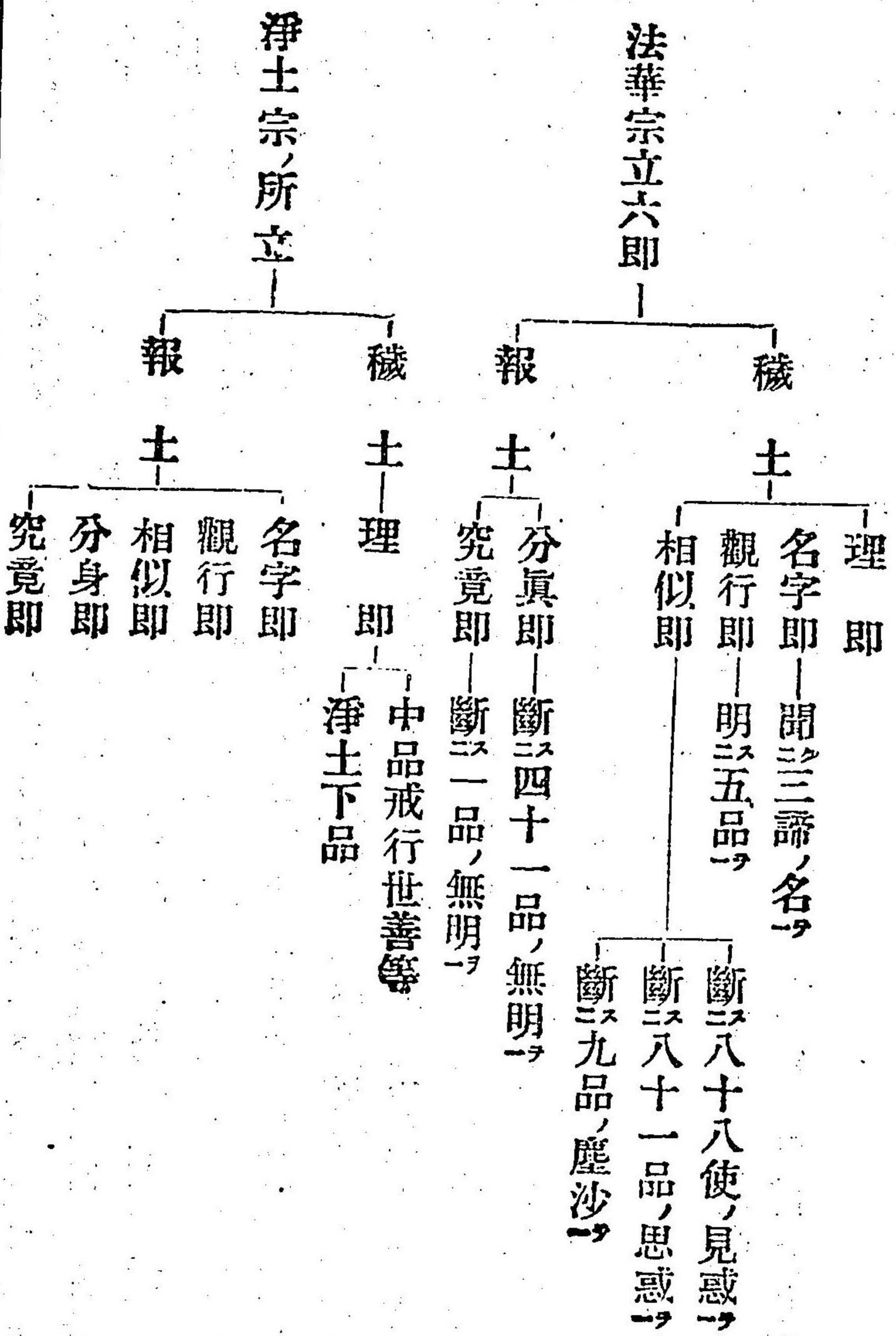
東寺流ノ問答。問フ眞言ノ釋尊ノ說ト云フ事其證據如何。答フ若眞言釋尊ノ說ならば亡國ノ治定歟。若シ然也ト云弘法大師立ル五藏一時法華ヲ六波羅蜜經ノ五藏ノ第四般若波羅蜜藏第五ノ陀羅尼藏眞言ト建立シ給ヘリ如何。問フ眞言宗ヲ未顯眞實トは不可レ言其故ハ釋迦ノ說ノ外ニ建立故也如何。答フ云ク若釋尊ノ說教ならば亡國ノ治定歟。一義ニ云ク六波羅蜜經ハ釋迦ノ說歟大日ノ說歟若釋迦ノ說ならば未顯眞實ハ治定歟。佗云ク釋迦ノ說之顯教無益矣。尋テ云ク六波羅蜜經ハ顯教密教ノ中何耶。佗云ク六波羅蜜經ハ雜部ノ眞言也我家ノ三部ハ純說ノ眞言也。答フ助證正證ト云フ事全ク弘法ノ所判ニ不見シ若弘法ノ義ならば墮獄ハ治定歟。佗云ク眞言ハ速疾ノ教顯教ハ迂回歷劫ノ教也云云。自云ク自義歟經文歟。佗云ク五秘密經ニ云ク若於ニ顯教ニ修行者久ク經ニ三大無數劫ヲ説けリ自其證據也如何。答フさて此經ハ釋迦ノ說歟大日ノ說歟若釋迦ノ說ならば未顯眞實ハ治定歟。問フ法華宗ハ依テ何經ニ造レ佛ノ印契相好ヲ顯教無シ但眞言ノ印ヲ盜ムと覺たり如何。答フ依テ之ニ謗ニ法華ヲ歟。一義ニ云ク汝盜義相違せば亡國ノ治定歟。後一義ニ云ク汝法華宗ノ建立處ノ大段ノ妙法蓮華經本尊ノ落居問フ歟。一義ニ云ク釋尊ノ三部ニ依テ建立故ニ驢牛ノ三身ト下歟若爾也ト云返テ汝ハ誹ニ謗眞言者也ト可レ責。一義ニ云ク三世ノ諸佛ノ印契相好實ニ妙法蓮華經ニ依テ具足義落居

せば亡國ハ治定歟。又盜人ハ治定歟。一義ニ云ク龍女靈山ニ即身ニ印契相好具足南方ニ成道ヲ唱しハ眞言ニ依テ建立歟若爾也云直ニ經文ヲ出可キ責也。問フ亡國ノ證據如何。答フ誹ニ謗法華ヲ故云云。一義ニ云ク三徳ノ釋尊ニ背ク故云云。一義ニ云ク現世安穩後生善處ノ妙法蓮華經ニ奉レ背キ故ニ今生亡國後生無間ト云フ也。一義ニ云ク法華經第三ノ劣經文歟自義歟若爾者亡國治定歟。佗云ク對ニ密教ニ第三ノ劣也。答フ一義ニ云ク此義經文歟自義歟。一義ニ云ク顯教ノ内ニ法華第一事落居歟。若シ爾也ト云ハばさては弘法ハ僻事也顯教ノ内ニ法華ヲ對ニ華嚴ニ第一對ニ眞言ニ第三ト云フ故也。一義ニ云ク對ニ眞言ニ第一者亡國ハ治定歟。佗云ク印眞言ヲ不カ説故ニ第三ノ劣ト云フ也。答フ此故ニ劣トハ經文歟自義歟。一義ニ云ク若シ法華ニ説亡國ハ治定歟。佗云ク大日釋迦各別也。答フ一義ニ云ク此故ニ法華ヲ謗歟。一義ニ云ク若シ一佛ならば亡國ハ治定歟。一義ニ云ク各別ノ劣經文歟自義歟。佗云ク顯教ハ應身密教ハ法身ノ説也此故ニ法華ハ第三ノ劣也。自云ク應身ノ説故ニ法華劣トハ經文歟自義歟。一義ニ云ク法華法身ノ説ならば亡國治定歟。一義ニ云ク眞言ハ應身ノ説ならば亡國ハ治定歟。佗云ク五智五佛ノ時ハ北方ハ釋迦中央ハ大日ト見如何。答フ一義ニ云ク中央釋迦ならば亡國治定歟。一義ニ云ク北方釋迦ト云フ事ハ三部ノ内ニ無シ不空ノ義也佛説ニ非

佗云ク法華ハ穢土ノ説也眞言ハ三界ノ外ノ法界宮ノ説也。答フ一義ニ云ク眞言ハ三界ノ内ノ説ならば亡國治定歟義釋。佗云ク顯教ノ内ニ大日釋迦一體ト説密教ノ内ニ二佛各別也名ハ同シけれども義異ル也如何。答フ此故ニ亡國ト云フ也。一義ニ云ク如ク此云フ事直ニ經文ヲ可シ出ス也。佗云ク龍女ハ眞言ノ成佛法華三密闕故也。答フ自義歟經文歟。佗云ク經文也得陀羅尼得不退轉云云陀羅尼ハ三密ノ加持也。答フ此陀羅尼ヲ眞言ト云フハ自義歟經文歟。一義ニ云クさては弘法ハ僻事也其故ハ此陀羅尼ヲ戲論第三ノ劣ト下ス也。一義ニ云ク自語相違也法華に印有る故也。佗云ク依ニ守護經ノ文ニ釋迦ハ大日より三密ノ法門ヲ習成佛也。答フ此故ニ謗ニ法華ヲ歟。一義ニ云ク此文ハ三説ノ内歟外歟。一義ニ云ク此相違亡國ハ治定歟。佗云ク法華經合掌以敬心欲聞具足道ト云ヘリ何ソ印眞言ヲ捨耶。答フ此故ニ法華ヲ謗歟。一義ニ云ク自義歟經文歟。一義ニ云ク此故ニ眞言ヲ不レ捨テ經文歟。一義ニ云ク此文ハ眞言ヲ持ツテ文歟。一義ニ以テ文段ニ可シ責也。佗云ク弘法大師ヲ無間ト云經文歟自義歟。答フ經文也。佗云ク二十八品ノ中何耶。答フ二十八品ノ中ニ有墮獄治定歟。佗云ク爾也。答フ誹ニ謗法華ヲ治定歟。若シ爾者經文ヲ出可キ責也。

○法華淨土問答鈔 考四ニ六

法華宗立六即



淨土宗所立

辦成之立。 我身難^レ叶^レ故^ニ且^ク捨^ニ閉^シ閣^シ拋^シ聖道ノ行ヲ歸^シ淨土ニ。往^シ生淨土ニ可^キ下聞^ニ法華ヲ得^テ悟^ル無生^ヲ也。日蓮難^シ曰^ク我身難^レ叶^レ於^テ穢土ニ捨^ニ閉^シ閣^シ拋^シ於^テ法華經等教主釋尊等^ヲ至^テ淨土ニ可^レ悟^ル之^ヲ等云云依^テ何經文ニ立^ニ如^キ此義^ヲ乎。又天台宗ノ報土ハ分眞即究竟即。淨土宗ノ報土ハ名字即乃至究竟即等者出^ニ何^ノ經論釋^ニ乎。又於^テ穢土ニ捨^ニ閉^シ閣^シ拋^シ法華經等教主釋尊等^ヲ至^テ淨土ニ可^レ悟^ル法華經^ヲ者出^ニ何經文ニ乎。辦成^ノ立^ニ捨^ニ閉^シ閣^シ拋^シ法華等ノ諸行等^ヲ用^ニ念佛^ヲ文^ハ觀經^ニ云^ク佛告^ク阿難^ニ汝好^ク持^テ是^ノ語^ヲ持^テ是^ノ語^ヲ者即是持^テ無量壽佛^ノ名^ヲ文。往^シ淨土ニ聞^ニ法華^ヲ事^ハ文^ニ云^ク觀世音大勢至^ノ以^テ大悲^ノ音聲^ヲ爲^レ其廣^ク說^ク諸法實相除滅罪^ノ法^ヲ聞^ニ已^テ歡喜^シ應^レ時^ニ即發^シ菩提^ノ之心^ヲ文。餘^ハ繁^ク故^ニ且^ク置^ク之^ヲ。又日蓮難^シ云^ク觀無量壽經^ハ如來成道四十餘年之内也法華經^ハ後八箇年之說也。如^キ何^ノ已說^ノ觀經^ニ兼^テ載^セ未說^ノ法華經^ノ名^ヲ可^レ爲^ニ捨^ニ閉^シ閣^シ拋^シ之^ヲ可^レ說^ト乎。隨^テ至^テ佛告阿難等^ノ之文^ニ者只勸^ニ進彌陀念佛^ヲ文也未^レ聞^ニ捨^ニ閉^シ閣^シ拋^シ於^テ法華經^ヲ。何^ニ況^ヤ無量義經^ニ爲^ニ說^ニ法華經^ヲ先^ツ舉^テ四十餘年^ノ已說^ノ經經^ヲ定^ニ未顯真實^ト畢^ス。豈^ニ未顯真實^ノ觀經之内^ニ舉^テ已顯真實^ノ法華經^ヲ可^レ爲^ニ捨^ニ乃^ニ至^テ拋^シ之^ヲ乎。又云^ク久^ク默^シ此要^ヲ不^レ務^テ速說^ニ等云云。既^ニ教主釋尊四十餘年之間不^レ說^ニ法華^ノ名字^ヲ。何^ノ

對^{シテ}已說觀經念佛^ニ拋^{シテ}此法華經^ヲ乎。次^ニ下品下生諸法實相除滅罪法等云云。夫法華經已前實相其數非^レ一^ニ。先^ツ外道之内長爪實相内道之内小乘乃至爾前四教皆所詮理實相也。何^レ必^ズ已說^ニ觀經^ニ所載實相法華經^ニ同^ク可^レ得^レ意乎。今度儘出^{カナル}證文^ヲ可^レ被^レ救^ハ法然上人無間之苦^ヲ云云。

又辦成之立^ニ。觀經^ハ雖^ニ已說^レ經也^ト未來^ヲ爲^ル面^ト故^ニ未來^ノ衆生^ハ未來^ニ所有^ノ經卷讀^ニ誦^{シテ}之^ヲ可^レ往^ニ生^ス淨土^ニ。既^ニ法華等^ノ諸經未來流布^ノ故^ニ讀^ニ誦^{シテ}之^ヲ可^レ往^ニ生^ス乎。其法華捨閉閣拋^{シテ}依^テ觀經^ノ持無量壽佛^ノ文^ニ法然如^ク是^ノ行^シ給^ク歟。觀經^ノ持無量壽佛^ノ文^ノ上^ニ說^ニ諸善^ヲ一向^ニ勸^ニ持無量壽佛^ヲ故^ニ令^レ申^セ候^{。於^テ實相^ニ多^ク有^ル云^フ難^{。彼^ハ淨土^ノ故^ニ此難^レ不可^レ來^ル。法然上人聖道^ノ行機難^キ堪^ハ故^ニ未來^ノ流布^ノ法華^ヲ捨閉閣拋^ス。故^ニ是慈悲^ノ至進^ナ者^{以^テ此慈悲^ヲ往^ニ生^ス淨土^ニ全^ク不^レ可^レ墮^ス地獄^ニ哉。日蓮難^ク云^フ觀經^ヲ已說^レ經也^ト云云於^テ已說^ニ承伏^歟。觀經之時雖^レ未^レ說^ニ法華經^ニ鑿^ニ未來^ヲ可^レ捨閉閣拋^ス法然上人^ハ得意^給歟云云。佛鑿^ニ未來^ヲ已說^ニ經^ニ載^テ未來^ノ經^ヲ制^ニ止^ス之^ヲ云^フ者^已說^レ小乘經^ニ載^テ未^レ說^ノ大乘經^ヲ可^レ爲^レ制^ニ止^ス之^ヲ歟。又已說^レ權大乘經^ニ載^テ未^レ說^ノ實大乘經^ヲ制^ニ止^ス未來流布^ノ法華經^ヲ者^{何^カ故^ニ於^テ爾前經^ニ不^レ載^ニ法華^ノ名^ヲ由佛說^レ之^乎。法然上人慈悲之事。慈悲之故^ニ拋^シ法華經^ト與^ニ教主釋尊^ニ也^ト云^フ者所詮上^ニ所^レ出^ス證文^ハ者未^レ分明^ニ出^シ證文^ヲ法然上人^ノ可^レ被^レ救^ハ極苦^ヲ歟。上^ノ六品^ノ諸行往生^ヲ對^シ于下^ノ三品^ノ念佛^ニ捨^ツ於諸行^ヲ豈^ニ非^レ捨^ル法華^ヲ乎等云云。觀無量壽經^ノ上六品^ノ諸行^ハ者法華已前^ノ諸行也。設^ヒ對^シ于下^ノ三品^ノ念佛^ニ上六品^ノ諸行^ヲ拋^シ之^ヲ但法華經^ハ不^レ入^ラ諸行^ニ何^レ閣^シ之^乎。又法華^ノ意^ハ爾前^ノ諸行^ト與^ニ觀經^ノ念佛^ニ共^ニ捨^テ之^ヲ畢^テ遂^ニ如來出世^ノ本懷^ヲ給^ハ也。日蓮以^テ管見^ヲ勘^テ于^ニ一代聖教^並法華經^之文^ヲ未^レ見^レ之^ヲ。舉^テ法華經^ノ名^ヲ或^ハ拋^シ之^ヲ或^ハ閉^ル其門^ヲ等^ト云^フ事^ヲ。若爾^者法然上人^ノ所^レ憑^ム彌陀本願之誓文^並法華經^之入阿鼻獄^ノ釋尊^ノ誠文如何^ク可^レ免^ル之^乎。法然上人墮^ニ無間獄^ニ者所化^ノ弟子^並諸檀那等^共墮^ニ阿鼻大城^ニ歟。今度出^シ分明證文^ヲ可^レ被^レ消^ス法然上人^ノ阿鼻之炎^ヲ云云。}}}}

法華經^ト與^ニ教主釋尊^ニ也^ト云^フ者所詮上^ニ所^レ出^ス證文^ハ者未^レ分明^ニ出^シ證文^ヲ法然上人^ノ可^レ被^レ救^ハ極苦^ヲ歟。上^ノ六品^ノ諸行往生^ヲ對^シ于下^ノ三品^ノ念佛^ニ捨^ツ於諸行^ヲ豈^ニ非^レ捨^ル法華^ヲ乎等云云。觀無量壽經^ノ上六品^ノ諸行^ハ者法華已前^ノ諸行也。設^ヒ對^シ于下^ノ三品^ノ念佛^ニ上六品^ノ諸行^ヲ拋^シ之^ヲ但法華經^ハ不^レ入^ラ諸行^ニ何^レ閣^シ之^乎。又法華^ノ意^ハ爾前^ノ諸行^ト與^ニ觀經^ノ念佛^ニ共^ニ捨^テ之^ヲ畢^テ遂^ニ如來出世^ノ本懷^ヲ給^ハ也。日蓮以^テ管見^ヲ勘^テ于^ニ一代聖教^並法華經^之文^ヲ未^レ見^レ之^ヲ。舉^テ法華經^ノ名^ヲ或^ハ拋^シ之^ヲ或^ハ閉^ル其門^ヲ等^ト云^フ事^ヲ。若爾^者法然上人^ノ所^レ憑^ム彌陀本願之誓文^並法華經^之入阿鼻獄^ノ釋尊^ノ誠文如何^ク可^レ免^ル之^乎。法然上人墮^ニ無間獄^ニ者所化^ノ弟子^並諸檀那等^共墮^ニ阿鼻大城^ニ歟。今度出^シ分明證文^ヲ可^レ被^レ消^ス法然上人^ノ阿鼻之炎^ヲ云云。

文永九年^{太歲}壬申正月十七日

日蓮 花押
辦成 花押

奏堂云此一書ハ眞蹟富士門徒讀岐國高瀬法華寺ノ藏^ク本覺寺日住師祖書纂集ノ志願^ヲ與^シタル時波ノ寺僧ヨリ此ヲ騰寫シテ贈^ル依^テ錄^外ニ加^ス錄^ト傳^ヘタリ大士土僧辦成^チ一時教叱^ノ日其席上ノ筆記ニシテ自語相違^ナカラシメ^ル爲^ニ土僧^ニモ亦^ハ花押^ヲ加^ヘシメ給^ヒシ者^カ三十五年六月二十日右法華寺^ニ詣^リテ^ハ探^リシ^モ其後紛失^セシ由^ナリ又石山等^ニ於^テテ知照^セシモ分^ルナラス今^ハ全^ク滅失^セシ^モノナル^{ベシ}(稻田海素記)

高祖遺文錄卷之十一

○生死一大事血脈鈔

考四五

日蓮記之

御狀委細令披見候畢。夫生死一大事血脈者所謂妙法蓮華經是也。其故は釋迦多寶ノ二佛寶塔の中にして讓リ上行菩薩ニ給テ。此妙法蓮華經の五字過去遠遠劫より已來寸時も不離レ血脈也。妙は死法は生也此生死の二法カ十界、當體也。又此云三當體蓮華一也。天台云、當知依正、因果、悉、是蓮華之法云云。此釋に依正と云は生死也生死有レ之因果又蓮華、法事明けし。傳教大師云、生死、二法、一心、妙用有無、二道、本覺、真徳、文。天地陰陽日月五星地獄乃至佛果生死、二法に非ずと云ことなし。如し是生死も唯妙法蓮華經の生死也。天台、止觀ニ云、起、是法性、起滅、是法性、滅云云。釋迦多寶ノ二佛も生死の二法也。然者久遠寶成の釋尊と皆成佛道の法華經と我等衆生との三ッ全、無ニ差別一解て。妙法蓮華經と唱奉る處を生死一大事の血脈とは云、也。此事但日蓮が弟子檀那等の肝要也法華經を持ッとは是也。所詮臨終只今にありと解て信心を致して南無妙法蓮華經と唱る人を。是人命終爲千佛授手令不恐怖不墮惡趣と説れて

候。悅哉非ニ一佛ニ佛ニ非ニ百佛ニ百佛ニ。千佛來迎し取リ手ヲ給はん事歡喜の感涙難レ押へ。法華不信の者は其人命終入阿鼻獄と説れたれば。定て獄卒迎へに來て手をや取リ候はんすらん淺媛淺媛。十王は裁斷し俱生神は呵責せん歎。今日蓮が弟子檀那等南無妙法蓮華經と唱ん程の者は。千佛の手を授け給はん事譬ば鹹夕顔の手を出すが如くと思食せ。過去に法華經の結縁強盛なる故に現在に此經を受持す。未來に佛果を成就せん事不可レ有レ疑也。過去の生死現在の生死未來の生死三世の生死ニ法華經を不ニ離レ切レ法華の血脈相承とは云、也。謗法不信の者は即斷一切世間佛種とて。佛に成べき種子を斷絶するが故に生死一大事の血脈無レ之也。總じて日蓮カ弟子檀那等自佗彼此の心なく水魚の思を成して。異體同心にして南無妙法蓮華經と唱奉る處を生死一大事の血脈とは云、也。然今日蓮が弘通する處の所詮是也。若然者廣宣流布の大願も可レ叶フ者歟。剩、日蓮が弟子の中に異體異心の者有レ之。例せば城者として城を破るが如し。日本國の一切衆生に法華經を信せしめて佛に成る血脈を繼しめんとするに。還て日蓮を種種の難に合せ結句此嶋まで流罪す。而るに貴邊日蓮に隨順し又難に値、給、事心中思遣られて痛しく候。金は大火にも不レ燒

大水にも不_レ漂_レ不_レ朽_レ。鐵は水火共に不堪_レ。賢人は如_レ金、愚人は鐵の如し。貴邊豈に非_ニ眞金_ニ哉。法華經の金を持つ故歟。經ニ云_ク衆山之中_ニ須彌山_ヲ爲_ス第一。此法華經_モ亦復如_レ是。又云_ク火_モ不_レ能_レ燒_ク水_モ不_レ能_レ漂_ク云云。過去の宿縁追_テ來_テて今度日蓮が弟子と成り給歟。釋迦多寶ころ御存知候らめ。在在諸佛土常與師俱生_ヨも虚事候はじ。殊に生死一大事の血脈相承の御尋_テ先代未聞の事也_ト貴貴。此文に委悉也能_レ心得_セ給へ。只南無妙法蓮華經釋迦多寶上行菩薩血脈相承と修行し給へ。火は燒_キ照_スを以て爲_レ行_ト。水は垢穢_ヲを淨_スるを以て爲_レ行_ト。風は塵埃_ヲを拂_スふを以て爲_レ行_ト。又人畜草木の爲に魂となるを以て爲_レ行_ト。大地は草木を生ずるを以て爲_レ行_ト。天は潤_スを以て爲_レ行_ト。妙法蓮華經の五字も又如_レ是本化地涌の利益是也。上行菩薩末法今の時此法門を弘_クが爲に御出現可有_レ之由。經文には見_レ候へども如何_カ候やらん。上行菩薩出現すとやせん出現せずとやせん。日蓮先_ヅ粗_ハ弘_メ候なり。相_カ構_テ強盛の大信力を致して南無妙法蓮華經臨終正念と祈念し給へ。生死一大事の血脈此より外に全く求ることなかれ。煩惱即菩提生死即涅槃とは是なり。信心の血脈なくんば法華經を持つとも無益なり。委細之旨又又可_レ申_ス候。恐恐謹言。

文永九年壬申二月十一日

最蓮房上人御返事

桑門日蓮 花押

○草木成佛口決 考四四九

問_テ云_ク草木成佛者有情非情ノ中何_レ哉。答_テ云_ク草木成佛者非情ノ成佛也。問_テ云_ク情非情共_ニ於_テ今經_ニ成佛_乎。答_テ云_ク爾也。問_テ云_ク證文如何。答_テ云_ク妙法蓮華經是也。妙法者有情成佛也。蓮華者非情成佛也。有情は生の成佛非情は死の成佛。生死の成佛と云が有情非情の成佛の事也。其故は我等衆生生死する時立_テ塔婆_ヲ開眼供養するは死の成佛にして草木成佛也。止觀ノ一ニ云_ク一色一香無_レ非_ニ中道_ニ。妙樂云_ク然亦共_ニ許_ス色香中道_ヲ無情佛性感耳驚心_ス。此一色者五色の中_ニは何れの色_ガや。青黃赤白黒の五色を一色と釋せり一者法性也。爰を以て妙樂は色香中道と釋せり天台大師も無非中道といへり。一色一香の一は二三相對の一には非る也中道法性を_レとして一と云也。所詮十界三千依正等_ヲを_レなへすと云事なし。此色香は草木成佛也。是即蓮華の成佛也。色香と蓮華とは言_ハは_レか_ハれ_ドも草木成佛の事也。口決ニ云_ク草にも木にも成る佛也云云。

此意は草木にも成り給へる壽量品の釋尊也。經云、如來祕密神通之力云云。法界は釋迦如來の御身に非すと云事なし。理の顯本は死を表す妙法と顯る事の顯本は生を表す蓮華と顯る。理の顯本は死にて有情をつかさどる事の顯本は生にして非情をつかさどる。我等衆生のために依怙依託なるは非情の蓮華がなりたる也。我等衆生の言語音聲生の位には妙法が有情となりぬるなり。我等一身の上には有情非情具足せり。爪と髮とは非情也さるにもいたまらず其外は有情なれば切にもいたみくるしむなり。一身所具の有情非情也。此有情非情十如是、因果の二法を具足せり。衆生世間五陰世間國土世間此三世間有情非情也。一念三千の法門をふりすゝぎ(振擲)たてたるは大曼荼羅なり。當世の習ふことないの學者ゆめにもしらざる法門也。天台妙樂傳教内にはかがみ(鑑)させ給へどもひろめ給はず。一色一香とのしり惑耳驚心とや、やき給て。妙法蓮華と云べきを圓頓止觀とかへさせ給き。されば草木成佛は死人の成佛なり。此等の法門は知る人すくなきなり。所詮妙法蓮華をしらざる故に迷るところの法門なり。敢て妄失する事なかれ。恐恐謹言。

二月二十日

日蓮花押

最蓮房 御返事

○開目鈔上 啓四五六 朝鈔二九二二三 註三五二五五〇 鈔三七二五七六 語一〇拾二二 扶二五四
夫一切衆生の尊敬すべき者三あり所謂主師親これなり。又習學すべき物三あり所謂儒外内これなり。儒家には三皇五帝三王此等を天尊と號す。諸臣、頭身萬民の橋梁なり。三皇已前は父をしらず人皆禽獸に同す。五帝已後は父母を辨て孝をいたす。所謂重華はかたくなは(頑)しき父をうやまひ沛公は帝となつて大公を拜す。武王は西伯を木像に造り、丁蘭は母の形をさざめ(彫刻)り。此等は孝の手本也。比干は殷の世のほるふべきを見て。しゐて帝をいさめ頭をはねらる。公胤といひし者は懿公の肝をと(取)て我が腹をささき肝を入て死ぬ。此等は忠の手本也。尹壽は堯王の師務成は舜王の師太公望は文王の師老子は孔子の師なり此等を四聖とがうす。天尊頭をかたふけ萬民掌をあわす。此等の聖人に三墳五典三史等の三千餘卷の書あり其の所詮は三玄といです。三玄と者一者有の玄周公等此を立ッ。二者無の玄老子等。三者亦有亦無等莊子が玄これなり。玄者黒也。父母未生已前をたづぬれば或元氣而

生或、貴賤苦樂是非得失等、皆自然等云云。かゝのごとく巧に立といわどもいまだ過去未來を一分もしらす。玄也黒也幽也かるがゆへに玄といふ。但現在計りしれるに(似)たり。現在にをひて仁義を制して身をまはり國を安す。此に相違すれば族をほろぼし家を亡等いう。此等の賢聖の人人は聖人なりといわども過去をしらざるごとく凡夫の背をみず。未來をかがみざること盲人の前をみざるがごとし。但現在に家を治、孝をいたし堅く五常を行すれば。傍輩もうやまい名も國にさこね賢王もこれを召して或は臣となし。或は師となす。或は位をゆづり天も来て守りつから。所謂周の武王には五老きたりつかぬ後漢の光武には二十八宿来て二十八將となりし此なり。而といわども過去未來をしらざれば父母主君師匠の後世をもたすけず。不知恩の者なりまことの賢聖にあらず。孔子が此土に賢聖なし西方に佛圖という者あり此、聖人なりといひて。外典を佛法の初門となせしこれなり。禮樂等を教て内典わたらば戒定慧をしりやす(知易)からせんがため。王臣を教て尊卑をさだめ父母を教て孝、高キをしらしめ師匠を教て歸依をしらしむ。妙樂大師云、佛教、流化實、頼於茲、禮樂前、駢真道後、啓等云云。天台云、金光明經云、一切世間所有、善

論皆因、此經二若深、識、世法、即是佛法等云云。止觀云、我遣三聖、化彼真丹等云云。弘決云、清淨法行經云、月光菩薩、彼、稱、顏回、光淨菩薩、彼、稱、仲尼、迦葉菩薩、彼、稱、老子、天竺指、此震旦、爲、彼等云云。二月氏の外道、三日八臂、摩醯首羅天、毗紐天。此二天をば一切衆生の慈父慈母又天尊主君と號す。迦毗羅瀦樓僧伽勒娑婆此三人をば三仙となづく。此等、佛前八百年已前已後の仙人なり。此三仙の所説を四韋陀と號、六萬藏あり。乃至佛出世に當て六師外道、此外經を習傳して五天竺の王の師となる。支流九十五六等にもなれり一一に流流多しして。我慢の、幢、高こと非想天にもすぎ執心の心の堅こと金石にも超たり。其の見の深こと巧なるさま儒家にはにるべくもなし。或、過去二生三生乃至七生八萬劫を照見し又兼、未來八萬劫をみる。其所説の法門の極理、或は因中有果或、因中無果或、因中亦有果亦無果等云云。此、外道の極理なり。所謂善と外道は五戒十善戒等を持て有漏の禪定を修し上色無色をきわめ。上界を涅槃と立て屢歩蟲のごとくせめのぼれども非想天より返て三惡道に墮、一人として天に留、ものなし。而、ども天を極る者は永、かへらずとももわり。各各自師の義をうけて堅、執するゆへに。或、冬寒に一日に三度恆河

に浴^シ或は髪をぬき或は巖^{いはは}に身をなげ。或は身を火にあぶり或は五處をやく。或は裸^{あはだか}形或は馬を多く殺^せば福をう。或は草木をやき或は一切の木を禮^ス。此等邪義其數をしらず。師を恭敬する事諸天の帝釋をうやまい諸臣の皇帝を拜するがごとし。しかれども外道の法九十五種善惡につけて一人も生死をはなれず。善師につかへては二生三生等に惡道に墮^ス。惡師につかへては順次生に惡道に墮^ス。外道の所詮は内道に入^ル即最要なり。或は外道云々千年已後佛出世^ス等云云。或は外道云々百年已後佛出世^ス等云云。大涅槃經云々一切世間外道^ノ經書^ハ皆是佛說非^ニ外道^ノ說^ニ等云云。法華經云々示^シ衆^ニ有^リ三毒^一又現^ニ邪見^ノ相^ヲ我弟子如^ク是方便度^ニ衆生^ヲ等云云。三には大覺世尊^ハ此^ニ一切衆生の大導師大眼目大橋梁大船師大福田等なり。外典外道の四聖三仙^ハ其の名は聖なりといわ^レども實には三惑未斷の凡夫。其の名は賢なりといわ^レども實に因果を辨^ヘざる事嬰兒のごとし。彼を船として生死の大海をわたるべしや彼を橋として六道の巷^{ちまた}ころがたし。我大師は變易^{しんぎ}猶^ゆをわたり給へり況^ヤ分段^{ぶんたん}生死をや。元品^ノ無明の根本猶^をかたふけ^レ傾^か給へり況^ヤ見思枝葉の纏惑をや。此佛陀は三十成道より八十御入滅にいたるまで五十年が間一代の聖教を説^キ給へり。一字

一句皆眞言なり一文一偈妄語にあらず。外典外道の中の聖賢の言^{ことば}すらいふことあやまりなし事と心と相符^{あひあ}へり。況^ヤ佛陀^ハ無量曠劫よりの不妄語の人。されば一代五十餘年の説教は外典外道に對すれば大乘なり大人の實語なるべし。初成道の始より泥洹^{ないたん}の夕にいたるまで説^ツところの所説皆眞實也。但^シ佛敎に入て五十餘年の經經八萬法藏を勘^へたるに。小乘あり大乘あり權經あり實經あり顯教密教轉語經語實語妄語正見邪見等の種種の差別あり。但法華經計^リ教主釋尊の正言也二世十方の諸佛の眞言也。大覺世尊は四十餘年の年限を指て其内の恆河の諸經を未顯眞實。八年^ノ法華は要當説眞實と定^メ給しかば。多寶佛大地より出現して皆是眞實と證明す。分身の諸佛來集して長舌を梵天に付く。此言赫赫たり明明たり晴天の日よりもあきらかに夜中の満月のごとし。仰て信せよ伏て懷^ツべし。但^シ此經に二箇の大事あり俱舍宗成實宗律宗法相宗三論宗等は名をもしろず。華嚴宗^ハ眞言宗との二宗は偷^{ひうか}に盜で自宗の骨目とせり。一念三千の法門は但法華經の本門壽量品の文の底^{うら}にしづめたり。龍樹天親知てしかもいまだひろいだし^{拾出}す但我が天台智者のみこれ^れをいだけ^傳り。一念三千は十界互具よりことばはじまれり。法相と三論とは

八界を立て十界をしらず況や互具をしるべしや。俱舍成實律宗等は阿含經によれり六界を明あきらめて四界をしらず。十方唯一佛。一方有佛だにもあかさず。一切有情悉有佛性ところとかざらめ。一人佛性猶ゆるさず。而んを律宗成實宗等の十方有佛有佛性なんぞ申は佛滅後の人師等の大乘の義を自宗に盜入いたるなるべし。例せば外典外道等は佛前の外道は執見あさし。佛後の外道は佛教をさしみて自宗の非をしり。巧たくみの心出現して佛教を盜取とり自宗に入いて邪見もつともふかし附佛教學佛法成等これなり。外典も又又かくのことし。漢土に佛法いまだわたらざつし時の儒家道家は。いういうとして嬰兒わいじのごとくはかなかりしが。後漢已後に釋教わたりて對論の後釋教やうやく流布する程に。釋教の僧侶破戒のゆへに或は還俗して家にかへり。或は俗に心をあはせ儒道の内に釋教を盜入いたり。止觀第五云々今世多ク有テ惡魔ノ比丘退レ戒ヲ還ル家ニ懼ニ畏シテ策ヲ更ニ越ス濟ス道士ニ。復邀モ名利ヲ誇ク談シ莊老ヲ以テ佛法ノ義ヲ偷ニ安ニ邪典ニ押シ高チ就レ下ニ。擢レ尊ヲ入レ卑ニ。概令シ平等ニ云云。弘ニ云ク作テ比丘ノ身ト破ニ滅ス佛法ヲ若ハ退レ戒ヲ還ル家ニ如シ衛ノ元嵩等カ即以テ在家ノ身ヲ破ニ壞ス佛法ヲ。此人偷ニ竊シ正教ヲ助テ添ス邪典ニ。押高等者以テ道士ノ心ヲ爲シ二教ノ概ト使ニ邪正等ノ義無シ

是ノ理。曾テ入テ佛法ニ偷ニ正ヲ助レ邪ヲ押シ八萬十二之高キ就テ五千二篇之下ニ。用ニ釋ス彼典ノ邪鄙之教ヲ名ク擢尊入卑ト等云云。此の釋を見るべし次キ上の心なり。佛敎又かくのごとし。後漢の永平に漢土に佛法わたりて邪典やぶれて内典立ツ。内典に南三北七の異執をこりて蘭菊なりしかども。陳隋の智者大師にうちやぶられて佛法二ビ群類をすくう。其後法相宗眞言宗天竺よりわたり華嚴宗又出來せり。此等の宗宗の中に法相宗は一向天台宗に敵を成メ宗法門水火なり。しかれども玄奘三藏慈恩大師委細に天台の御釋を見ける程に。自宗の邪見ひるがへる翻かのゆへに自宗をばすてねども其心天台に歸伏すと見へたり。華嚴宗と眞言宗とは本は權經權宗なり。善無畏三藏金剛智三藏天台の一念三千の義を盜シて自宗の肝心とし。其上に印と眞言トを加テ超過の心ををこす。其の子細をしらぬ學者等は天竺より大日經に一念三千の法門ありけりとうちをもう。華嚴宗は澄觀が時華嚴經の心如工畫師の文に天台の一念三千の法門を偷ニ入レたり。人これをしらす。日本我朝には華嚴等の六宗天台眞言已前にわたりけり。華嚴三論法相諍論水火なりけり。傳教大師此の圖にいでて六宗の邪見をやぶるのみならず。眞言宗が天台法華經の理を盜取ト

て自宗の極とする事あらはれをはんぬ。傳教大師宗宗の人師の異執をすて、
 専ら經文を前として責させ給しかば。六宗の高徳八人十二人十四人三百餘人
 並弘法大師等せめをとされて。日本國一人もなく天台宗に歸伏し。南都東
 寺日本一州の山寺皆叡山の末寺となりぬ。又漢土の諸宗の元祖の天台に歸
 伏して謗法の失をまぬかれたる事もあらはれぬ。又其後やうやく世をとろへ
 人の智あさくなるほどに。天台の深義は習うしないぬ。佗宗の執心は強盛にな
 るほどに。やうやく六宗七宗に天台宗をとされてよわり(弱)ゆくかのゆへに。
 結句は六宗七宗等にもをよばず。いうにかいなき禪宗淨土宗にをとされて。始
 は檀那やうやくかの邪宗にうつる。結句は天台宗の碩徳と仰がる人人みなを
 ちゆきて彼の邪宗をたすく。さるほどに六宗八宗の田畠所領みなたを(倒)され
 正法失はてぬ。天照太神正八幡山王等諸守護の諸大善神も法味をなめざる
 か。國中を去り給かの故に。惡鬼便を得て國すでに破れなんとす。此に予
 愚見をも(以)て前四十餘年と後八年との相違をかながへみるに。其相違多
 といわども先世間の學者もゆるし。我が身にもさもやどうちをばうる事は
 二乗作佛久遠實成なるべし。法華經の現文を拜見するに舍利弗華光如來迦

葉光明如來。須菩提名相如來迦旃延。閻浮那提金光如來。目連多摩羅跋拏
 檀香佛富樓那。法明如來。阿難。山海慧自在通王佛羅睺羅。蹈七寶華如來。五百
 七百。普明如來學無學二千人。寶相如來。摩訶波闍波提比丘尼耶輸陀羅比丘尼
 等は一切衆生喜見如來具足千萬光相如來等なり。此等の人人は法華經を拜見
 したてまつるには尊きやうなれども。爾前の經經を披見の時はけを(興)さむ
 る事どもをほし。其故は佛世尊は實語の人故に聖人大人と號る。外典外道の
 中の賢人聖人天仙など申は實語につけたる名なるべし。此等の人人に
 勝て第一なる故に世尊をば大人とは申すぐかし。此大人唯以一大事因緣故
 出現於世となのらせ給て。未顯眞實世尊法久後要當說眞實正直捨方便等云云。
 多寶佛證明を加へ分身舌を出す等は。舍利弗が未來の華光如來迦葉が光明如
 來等の説をば誰の人が疑網をなすべし。而ども爾前の諸經も又佛陀の實語な
 り。大方廣佛華嚴經云々如來智慧大藥王樹唯於二處不能爲生長。利
 益。所謂二乘墮於無爲廣大深坑。及壞善根。非器。衆生溺。大邪見貪愛之
 水。等云云。此の經文の心は雪山に大樹あり無盡根となづく此を大藥王樹と
 號る。閻浮提の諸木の中の大木なり此木高は十六萬八千由旬なり。一閻浮提

の一切草木は此木の根ざし枝葉華菓の次第に隨て華菓なる(成)なるべし。此の木をば佛の佛性に譬へたり一切衆生をば一切の草木にたとふ。但此の大樹は火坑と水輪の中に生長せず。二乗の心中をば火坑にたとへ一闍提人の心中をば水輪にたとへたり。此の二類は永く佛になるべからずと申へ經文なり。大集經云ク有リ二種ノ人一必死不レ活キ畢竟不レ能ク知恩ヲ報ス一者聲聞二者緣覺。譬へ如有リ人墜ニ深坑ニ是人不レ能ク自利シ利トシテ聲聞緣覺モ亦復如レ是ノ墜ニ解脫ノ坑ニ不レ能ク自利シ及以利益トシテ佗等云云。外典三千餘卷の所詮ニ一ツあり所謂孝と忠となり。忠も又孝の家よりいでたり。孝と申者高也天高ども孝よりも高からず。又孝者厚也地あつけれども孝よりは厚からず。聖賢の二類は孝ノ家よりいでたり何ニ況や佛法を學せん人知恩報恩なかるべしや。佛弟子は必四恩をしつて知恩報恩ほうすべし。其上舍利弗迦葉等の二乗は二百五十戒三千威儀持整して。味淨無漏の三靜慮阿含經をきわめ二界の見思を盡せり。知恩報恩の人の手本なるべし。然を不知恩の人なりと世尊定給ぬ。其故は父母の家を出て出家の身となるは必々父母をすくはんがためなり。二乗は自身は解脫をもねども利佗の行かけ(歎)ぬ。設ヒ分分の利佗ありといは

ども父母等を永不成佛の道に入ればかへりて不知恩の者となる。維摩經云、維摩詰又問ク文殊師利ニ何等カ爲ニ如來ノ種ト。答テ曰ク一切塵勞之疇爲ニ如來ノ種ト雖下以三五無間ヲ具上猶能發ス此大道意等云云。又云、譬如下族姓之子高原陸上不生三青蓮芙蓉ノ衡華ヲ卑溼汗田乃チ生此華上等云云。又云、已得阿羅漢爲ニ應眞ト者終ニ不レ能ク復起道意ヲ而具佛法也如下根敗之士其於五樂ニ不レ能ク復利上等云云。文の心は貪瞋癡等の三毒は佛の種となるべし殺父等の五逆罪は佛種となるべし高原陸上には青蓮華生スべし。二乗は佛になるべからず。いう心は二乗の諸善と凡夫の惡と相對するに。凡夫の惡は佛になるども二乗の善は佛にならじとなり。諸ノ小乘經には惡をいましめ善をほむ。此經には二乗の善をりしり凡夫の惡をほめたり。かへて佛經どもをばへず外道の法門のやうなれども。詮するところは二乗の永不成佛をつよく定させ給にや。方等陀羅尼經云、文殊語ニ舍利弗ニ猶如枯樹ノ更ニ生華ヲ不ヤ亦如山水ノ還本處ニ不ヤ折石還合不ヤ焦種生芽不ヤ。舍利弗ノ言不也。文殊ノ言若不可得云何問我得菩提ノ記心ニ生歡喜等云云。文の心は枯たる木華さかず山水山にかへらず破たる石あはずいれる種をいす二乗またかくのごとし佛種いれり

等と云ん。小品般若經ニ云ク諸天子今未_レ發_ニ菩提心_一者應_ニ當_ニ發_ニ若入_ニ聲聞_一正位_ニ是人不能發_ニ菩提心_一何_ヲ以_テ故_ニ爲_ニ生死_一作_ニ障隔_一故等云云。文の心は二乗は菩提心をこそさざれば我隨喜せじ。諸天は菩提心をこそせば我隨喜せん。首楞嚴經ニ云ク五逆罪ノ人聞_ニ是_一首楞嚴_ニ味_一發_ニ阿_一耨菩提心_一還_テ得_テ作_レ佛_ト世尊漏盡_ノ阿羅漢_ハ猶如_ニ破器_一永_レ不堪_ニ忍_一受_ニ是_一三昧_一等云云。淨名經ニ云ク其施_ニ汝_一者_ハ不_レ名_ニ福田_一供_ニ養_一汝_一者_ハ墮_ニ三惡道_一等云云。文の心は迦葉舍利弗等の聖僧を供養せん人天等は必_ニ三惡道_一に墮_レべしとなり。此等ノ聖僧は佛陀を除_キたてまつりては人天の眼目一切衆生の導師ところをもひしに。幾許の人天大會の中にしてかう度度仰せられしは本意なかりし事なり。只詮するところは我御弟子を責ころさんとや。此外牛驢_ニ二乳瓦器_一金器螢火日光等の無量の譬をと(取)て二乗を呵嘖せさせ給き。一言一言ならず一日二日ならず一月二月ならず一年二年ならず一經二經ならず。四十餘年が間無量無邊の經經に無量の大會の諸人に對して一言もゆるし給事もなかりし給しかば。世尊の不安語なり。我もしる人もしる人もしる地もしる。一人一人ならず百千萬人三界の諸天龍神阿脩羅五天四洲六欲色無色十方世界より雲集せる人天

二乘大菩薩等。皆これをしる又皆これをさく。各各國國へ還_リて娑婆世界の釋尊の說法を彼彼の國國にして一_一にかたるに。十方無邊の世界の一切衆生一人もなく迦葉舍利弗等は永不成佛の者。供養してはあしかりぬべしとしりぬ。而_レ後八年の法華經に忽に悔_レ還_レして二乗作佛すべしと佛陀とかせ給はんに。人天大會信仰をなすべしや。用_ニユ_一べからざる上先後の經經に疑網をなし五十餘年の說教皆虛妄の說となりなん。されば四十餘年未顯眞實等の經文はあらまさせか。天魔の佛陀と現じて後八年の經をばとかせ給かと疑網するところには(實)げにしげに劫國名號と申_テ。二乗成佛の國をさだめ劫をしるし所化の弟子なんごを定させ給へば。教主釋尊の御語すでは一言になりぬ自語相違と申はこれなり。外道が佛陀を大妄語の者と咲_レしことこれなり。人天大會を(興)さめてありし程に。爾_時東方寶淨世界の多寶如來高さ五百由旬廣さ二百五十由旬の大七寶塔に乗じて。教主釋尊の人天大會に自語相違をせめられて。このべ(左意)かうのべ(右意)さまさまに宣させ給しかども。不審猶をはる(晴)べしともみへずもてあつかい(持扱)てをはせし時。佛前に大地より涌現して虚空にのぼり給_フ。例せば暗夜に滿月の東山より出_ルがごとし。

七寶の塔大虚にかゝらせ給て。大地にもつかず大虚にも付せ給はず天中に懸りて。寶塔の中より梵音聲ヲ出して證明して云ク。爾時ニ寶塔の中出ニ大音聲ヲ歎言ク善哉善哉釋迦牟尼世尊。能以テ平等大慧教菩薩法佛所護念、妙法華經一爲ニ大衆ノ説如シ是如シ是。釋迦牟尼世尊如ニ所説ノ者皆是眞實等云云。又云ク爾時ニ世尊於ニ文殊師利等ノ無量百千萬億舊住娑婆世界ノ菩薩乃至人非人等一切ノ衆ノ前ニ現ニ大神力ヲ。出ニ廣長舌ヲ上ニ至ニ梵世ニ一切ノ毛孔乃至十方世界衆ノ寶樹ノ下ノ師子ノ座ノ上諸佛亦復如シ是出ニ廣長舌ヲ放ニ無量ノ光ヲ等云云。又云ク令ニ十方諸ノ分身佛各還ニ本土ニ乃至多寶佛ノ塔還テ可シ如シ。故ノ等云云。大覺世尊初成道の時諸佛十方に現じて釋尊を慰諭し給テ上諸の大菩薩を遣しき。般若經の御時は釋尊長舌を三千にをほひ千佛十方に現じ給ヒ。金光明經には四方、四佛現せり。阿彌陀經には六方ノ諸佛舌を三千にをさう。大集經には十方の諸佛菩薩大寶坊にあつまれり。此等を法華經に引合てかんがうるに。黄石と黄金と白雲と白山と白氷と銀鏡と黒色と青色とをば。翳眼の者眇目の者一眼の者邪眼の者はみだがへつべし。華嚴經には先後の經なければ佛語相違なし。なに、つけてか大疑いで來べき。大集經大品經金光明經阿彌陀經等は諸ノ小乘經の二

乗を彈呵せんがために十方に淨土をとき。凡夫菩薩を欣慕せしめ二乗をわづらはす。小乘經と諸大乘經と一分の相違あるゆへに。或ハ十方ニ佛現じ給ひ或ハ十方より大菩薩をつかはし或ハ十方世界にも此の經をときよし(由)をしめし或ハ十方より諸佛あつまり給フ。或ハ釋尊舌を三千にをほひ或ハ諸佛の舌をいだすよしをときかせ給フ。此レひとくに諸ノ小乘經の十方世界唯一佛ととかせ給しをもひをやぶるなるべし。法華經のごとくに先後の諸大乘經と相違出來して。舍利弗等の諸ノ聲聞大菩薩人天等に將非魔作佛とをもはれさせ給フ大事にはあらず。而ニ華嚴法相三論眞言念佛等の翳眼の輩。彼彼の經經と法華經とは同シとうちをもへるはつたなき眼なるべし。但在世は四十餘年をすて、法華經につき候ものもやありけん。佛滅後に此經文を開見して信受せんことかたかるべし。先ツ一ツには爾前の經經は多言也法華經は一言也。爾前ノ經經は多經也此經は一經也。彼彼の經經は多年也此經は八年也。佛は大妄語、人永く信すべからず。不信の上に信を立テば爾前の經經は信する事もありなん法華經は永ク信すべからず。當世も法華經をば皆信じたるやうなれども法華經にてはなきなり。其故は法華經と大日經と法華經と華嚴經と法華經と阿彌

陀經と一なるやうをとく人をば悦で歸依し。別別なるなんぞ申、人をば用はず
たとい用、れども本意なき事とをもへり。日蓮云、日本に佛法わたりてすでに
七百餘年但、傳教大師一人計り法華經をよめりと申をば諸人これを用ず。但法
華經云、若、接、須、彌、擲、它、方、無、數、佛、土、亦、未、為、難。乃至若佛滅後、於、
惡世中、能、說、此、經、是、則、為、難、等云云。日蓮が強義經文には普合せり。法華經
の流通たる涅槃經に末代濁世に謗法の者、十方の地のごとし。正法の者は
爪上の土のごとしとこかれて候はいかんがし候べき。日本の諸人は爪上の
土か日蓮は十方の土かよくよく思惟あるべし。賢王の世には道理かつべし愚
主の世に非道先をすべし。聖人の世に法華經の實義顯るべし等と心うべし。
此法門は迹門と爾前と相對して爾前の強さやうにをばゆ。もし爾前つよる
(強)ならば舍利弗等の諸、二乘は永不成佛の者なるべし。いかんがなげかせ給
らん。二教主釋尊は住劫第九の滅人壽百歳の時。師子頰王には孫淨飯王には
嫡子童子悉達太子一切義成就菩薩これなり。御年十九の御出家三十成道の世
尊始、寂滅道場にして實報華王の儀式を示現して。十玄六相法界圓融頓極微
妙の大法を説給と。十方の諸佛も顯現し一切の菩薩も雲集せり。土といひ機と

いひ諸佛といひ始といひ何事につけてか大法を祕給すべき。されば經文には
顯現自在方爲説圓滿經等云云。一部六十卷は一字一點もなく圓滿經なり。譬へ
ば如意寶珠は一粒も無量珠も共に同。一粒も萬寶を盡て雨、萬珠も萬寶を盡
がごとし。華嚴經は一字も萬字も但同事なるべし。心佛及衆生の文は華嚴宗
の肝心なるのみならず。法相三論眞言天台の肝要とこり申候へ。此等程いみ
じき御經に何事をか隠すべき。なれども二乘闡提不成佛とこかれしは珠のさ
ず(地)とみゆる上。二處まで始成正覺となのらせ給て久遠實成、壽量品を説か
くさせ給き。珠の破と月に雲のか、れると日の蝕がごとし。不思議なり
しことなり。阿合方等般若大日經等は佛説なればいみじき事なれども華嚴經
にたい(對)すればいかにないなし。彼經に祕せんこと此等の經經にとかるべ
からず。されば諸阿合經云、初、成道等云云。大集經云、如來成道始、十六年
等云云。淨名經云、始坐、佛樹、力降、魔、等云云。大日經云、我昔、坐、道場、等
云云。般若仁王經云、二十九年等云云。此等は言にたらず只耳目をとるか
す事は。無量義經に華嚴經の唯心法界方等般若經の海印三昧混同無二等の
大法をかきあげて。或、未顯眞實或、歷劫修行等下程の御經に。我先道場菩

提樹ノ下ニ端坐六年得レ成ニ阿耨多羅三藐三菩提ヲと初成道の華嚴經の始成の文に同せられし。不思議と打思ところ此は法華經の序分なれば正宗の事をいはずもあるべし。法華經の正宗略開三廣開三の御時唯佛與佛乃能究盡諸法實相等世尊法久後等正直捨方便等。多寶佛迹門八品を指て皆是眞實と證明せられしに何事をか隠スベキなれども。久遠壽量をば祕せさせ給て我始坐道場ニ觀ン樹ヲ亦經行ス等云云最第一の大不思議なり。されば彌勒菩薩涌出品に四十年の未見今見の大菩薩を佛爾乃教化之令初發道心等ととかせ給しを。疑テ云ク如來爲ニ太子一時出ニ於釋ノ宮去ニ迦耶城ヲ不遠坐ニ於道場ニ得レ成ニ阿耨多羅三藐三菩提ヲ。從レ是已來始過ニ四十餘年ヲ世尊云何於此少時ニ大作ニ佛事ヲ等云云。教主釋尊此等の疑を晴さんかために壽量品をとかんとして。爾前述門のさ(所聞)を擧云ク一切世間天人及阿脩羅皆謂リ今釋迦牟尼佛出ニ釋氏ノ宮去ニ伽耶城ヲ不遠坐ニ於道場ニ得ニ阿耨多羅三藐三菩提ヲ等云云。正此疑ヲ答テ云ク然善男子我實成佛已來無量無邊百千萬億那由佉劫等云云。華嚴乃至般若大日經等は二乗作佛を隱のみならず久遠實成を説かかきせ給へり。此等の經經に二ツの失あり。一には存ニ行布故ニ仍未レ開レ權ヲ迹門

の一念三千をかくせり。二には言ヲ始成ニ故ニ曾テ未レ發レ迹ヲ本門久遠をかくせり。此等の二ツの大法は一代の綱骨一切經の心髓なり。迹門方便品は一念三千二乗作佛を説て爾前二種の失一ツを脱たり。しがりといふともいまだ發迹顯本せざればまこと(實)の一念三千もあらはれず二乗作佛も定まらず。水中の月を見るがごとし根なし草の波上に浮るに似たり。本門にいたりて始成正覺をやふれば四教の果をやぶる。四教の果をやふれば四教の因やふれぬ。爾前述門の十界の因果を打やぶ(破)て本門十界の因果をとき顯す。此即本因本果の法門なり。九界も無始の佛界に具し。佛界も無始の九界に備て眞十界互具百界千如一念三千なるべし。かうてかへりみ(願)れば華嚴經の臺上十方阿含經の小釋迦方等般若の金光明經の阿彌陀經の大日經等の權佛等は。此壽量の佛の天月しばらく影を大小の器にして浮給を。諸宗の學者等近は自宗に迷遠は法華經の壽量品をしらず。水中の月に實月の想をなし或は入て取んどもひ或は繩をつけてつなぎ(懸)とどめんとす。天台云ク不識天月但觀ニ池月ヲ等云云。日蓮案云ク二乗作佛すら猶爾前づよにをばゆ。久遠實成は又なるべくもなき爾前づりなり。其の故は爾前法華相對するに猶爾前こわ

量(強)上爾前のみならず迹門十四品一向に爾前に同ず。本門十四品も涌出壽量の二品を除ては皆始成を存せり。雙林最後、大般涅槃經四十卷其外の法華前後の諸大經に一字一句もなく。法身の無始無終はとけども應身報身の顯本はとかれず。いかんが廣博の爾前本迹涅槃等の諸大乘經をばすて、但涌出壽量の二品には付すべき。されば法相宗と申す宗は西天ノ佛滅後九百年に無著菩薩と申す大論師有しき。夜は都率の内院にのぼり彌勒菩薩に對面して一代聖教の不審をひらき。晝は阿輸舍國にして法相の法門を弘給。彼の御弟子は世親護法難陀戒賢等の大論師なり。戒日大王頭をかたふけ五天、幢を倒して此に歸依す。尸那國の玄奘三藏月氏にいたりて十七年。印度百三十餘の國を見き、諸宗をばふりすて此の宗ヲ漢土にわたして太宗皇帝と申す賢王にさづけ給。肪尙光基を弟子として大慈恩寺並に三百六十餘箇國に弘給。日本國には人王三十七代孝德天皇の御宇に道慈道昭等ならい(習)わたして山階寺にあがめ給へり。三國第一の宗なるべし。此宗云、始、華嚴經より終、法華涅槃經にいたるまで。無性有情と決定性の二乗は永く佛になるべからず。佛語に二言なし一度永不成佛と定給ぬる上、日月は地に落給とも大地は反

覆すとも永く變改有べからず。されば法華經涅槃經の中にも爾前の經經に嫌し無性有情決定性を正くついさし(衝指)て成佛すとはとかれず。まづ眼を閉て案せよ。法華經涅槃經に決定性無性有情正く佛になるならば。無著世親はごの大論師玄奘慈恩はごの三藏人師これをみざるべしや此をのせ(載)ざるべしや。これを信して傳へざるべしや。彌勒菩薩に問たてまつらざるべしや。汝は法華經の文に依るやうなれども天台妙樂傳教の僻見を信受して其見をもつて經文をみるゆわに。爾前に法華經は水火なりと見るなり。華嚴宗と眞言宗は法相三論にはにるべくもなき超過の宗なり。二乗作佛久遠實成は法華經に限らず華嚴經大日經に分明なり。華嚴宗、杜順智儼法藏澄觀。眞言宗、善無畏金剛智不空等は天台傳教にはにるべくもなき高位の人。其上善無畏等は大日如來より糸みだれざる相承あり。此等の權化の人いかでか悞あるべき。隨テ華嚴經には或、見下釋迦成ニ佛道一已テ經中不可思議劫上等云云。大日經には我ハ一切ノ本初等云云。何、但久遠實成壽量品に限らん。譬へば井底の蝦が大海を見ず山左が洛中をしらざるがごとし。汝但壽量の一品を見て華嚴大日經等の諸經をしらざるか。其上月氏尸那新羅百濟等にも一同に二乗作佛久遠實成

は法華經に限ルというか。されば八箇年の經は四十餘年の經經には相違せり
といふとも。先判後判の中には後判につくべしといふとも猶爾前づりにこ
をばうれ。又但在出計リならばさもあるべきに滅後に居スせる論師人師多は爾
前づりにこる候へ。かう法華經は信シがたき上。世もやうやく末になれば聖
賢はやうやくかくれ迷者はやうやく多シ。世間の淺キ事猶スあやまりやすし何
況ヤ出世の深法ハ悞ナかるべしや。積ミ子方廣ガ聰敏ナりし猶を大小乘經にあや
まてり無垢摩沓ガが利根ナりし權實二教を辨ヘず。正法一千年の内、在世も近ク月
氏の内なりしすでハ既ニにかくのごとし。況ヤ戸那日本等ハ國もへだて音ハもかは
れり人の根モ鈍ナり壽命も日あさし貪瞋癡も培増せり。佛世を去てとし久し
佛經みなあやまれり誰ノ智解ハ加直カかるべき。佛涅槃經ニ記シ云ク末法には正法
の者ハ爪上ノ土謗法ノ者ハ十方ノ土とみへぬ。法滅蓋經ニ云ク謗法ノ者ハ恆河沙正法
者ハ一二の小石と記シをキ給フ。千年五百年に一人なんども正法の者ありがた
からん。世間の罪に依て惡道に墮ル者ハ爪上ノ土佛法ニよて惡道に墮ル者ハ十方
の土。俗よりも僧女より尼多ク惡道に墮ッべし。此に目蓮案ニ云ク世ニすでニ末代
に入て二百餘年邊土ニ生をうけ其上ハ下賤其上ハ貧道の身なり。輪回六趣の間

人天の大王と生て萬民をなびかす事。大風の小木の枝を吹がごとくせし時も
佛にならず。大小乘經の外凡内凡の大菩薩と修シあがり。一劫二劫無量劫を
經て菩薩の行を立テすでニ不退に入ぬべかりし時も。強盛の惡縁にれとハ落シさ
れて佛にもならず。しらす大通結縁の第三類の在世をもれハ漏ルたるか久遠五百
の退轉して今ニ來ルか。法華經を行せし程に世間の惡縁王難外道の難小乘經
の難ハんどは忍し程に。權大乘實大乘經ヲ極メたるやうなる道緯善導法然等が
ごとくなる惡魔の身に入リたる者。法華經をつよくほめハ譽ハあげ機をハながら
ハ強クに下シ。理深解微と立テ未有一人得者千中無一等とすかしハ賺シものに無
量生が間恆河沙ノ度ヲすかされて權經に墮テぬ。權經より小乘經に墮ル外道外典
に墮ル結句は惡道に墮ケりト深ク此をしれり。日本國に此をしれる者ハ但目蓮
一人なり。これを一言も申シ出スならば父母兄弟師匠ニ國主ヲ王難必來ルべし。
いはずば慈悲なきにたりと思惟するに。法華經涅槃經等ニ此二邊を合シ見
るにハいはずば今生は事なくとも後生は必無間地獄に墮ベし。いふならば三障
四魔必競キ起ルべしトしハ知ぬ。二邊の中ニはいハうべし。王難等出來の時ハ退
轉すべくは一度に思ヒ止ムべしト且ツやすラしハ休シ程に。寶塔品の六難九易ト